

リアホナ

表紙の記事——

家庭生活という芸術,
26ページ

クック長老を紹介します,
16ページ

音楽の力,
30, 36ページ, 「フレンド」8ページ

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、
ディーター・F・ワークトドルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バッカー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バ
ロード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、
ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック

編集長: ジェイ・E・ジェンセン

顧問: ゲーリー・J・コールマン、菊地良彦、ジェラルド・N・ランド、W・ダ
ラス・シャムウェー

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニクト

編集ディレクター: ビクター・D・ケープ

主任編集者: ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長: ライアン・カー、アダム・C・オルソン

編集補佐: スザン・バレット

編集スタッフ: クリスティー・バンス、リンダ・ステール、クーパー、デビ
ッド・A・エドワーズ、ラリー・ポーター、ガント、キャリー・カステン、
ジェニファー・マディ、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・
J・オデカーク、ジュディス・M・バーラー、ビビアン・ポールセン、ジョ
シュア・J・パーキー、キンバリー・リード、リチャード・M・ロムニー、ド
ン・L・サル、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーグ、ジュ
リー・ワデル

主任秘書: ローレル・トイスチャー

マーケティング部長: ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター: M・M・カワサキ

アートディレクター: スコット・バン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ: カリ・R・アロウ、コレット・ネバカー・オース、ハ
ワード・G・ブラウン、ジュリー・バーテッド、トーマス・S・チャイルド、レジ
ナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、エリック・P・ジョン
セン、デニス・カービー、ギニー・J・ニコルソン、ランドール・J・ビクストン

印刷ディレクター: クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター: ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-
41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵
送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ
……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・
キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所: 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話: 03-3440-2351

定 価: 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、
以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アラビア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウク
ライ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア
語、ギリシャ語、キリバス語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェー
デン語、スペイン語、スロベニア語、セブアン語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、
タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本
語、ノルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒンディー語、フィンランド語、フジ
ー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポ
ルトガル語、マニラ語、マダガスカル語、モンゴル語、ロシア語、ルトニア
語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2008 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷/日本
「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭におい
て臨時に、また非営利目的に使用することは複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている
場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、
Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——
cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。
「リアホナ」は、教会のホームページ www.lds.org (英語) に様々な言語で
掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をク
リックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

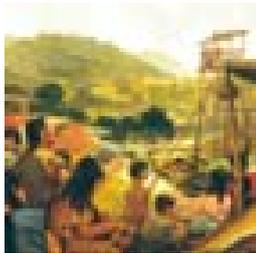
For Readers in the United States and Canada:

April 2008 no. 4 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is
published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East
North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is \$10.00 per
year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt
Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include
address label from a recent issue; old and new address must be included.
Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at
address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders
(Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post
Information: Publication Agreement #40017431)

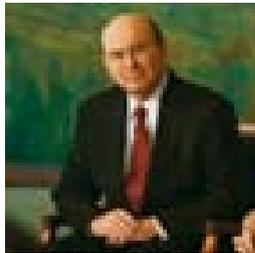
POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,
Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



2 永遠に価値のある宝



8 贖いと信仰



16 進んで行く心と精神



36 賛美歌が持つ癒しの力

一般

- 2 大管長会メッセージ——永遠に価値のある宝
トーマス・S・モンソン大管長
- 8 贖いと信仰 ダリン・H・オックス長老
- 16 クエンティン・L・クック長老——進んで行く心と精神
ジェフリー・R・ホランド長老
- 25 家庭訪問メッセージ——
男女の間の結婚は神によって定められたものである
- 26 神の計画により
- 36 賛美歌が持つ癒しの力
- 44 末日聖徒の声
ついに尋ね求めた母
トレジャー・エルダー・バーファス
なぜ赦されたのでしょうか
トーマス・E・ホーラチャー
カペナウムで主を見いだすまで
ジェーン・ジョーンズ
- 48 読者からの便り

表紙
表紙——絵/エスター・ツァイ、
複写は禁じられています
裏表紙——写真/ジョン・ルーク

「フレンド」表紙
絵/ディリオン・マージョ

家庭の夕べのためのアイデア

以下の提案は、家庭だけ
ではなくクラスでのレッ
スンにおいても役立つこ
とができます。皆さんの家
庭やクラスに合わせて変更を
加えてもよいでしょう。

「価値ある音楽、価値
ある思い」30ページ——

最初に家族でゲームをします。まず、
最初の一つか二つの音を聞いて、賛
美歌または初等協会の歌の題名を当
てます。分からなければ3つ目、4つ
目と聞かせます。まだ分からない場
合は、その歌について、少しだけピン
トを与えます。わたしたちの生活の



中で音楽がいかに大切か、また良い
音楽はいかにわたしたちを高め
てくれるかについて話し合い
ます。話の内容を紹介しな
がら、音楽がどのようにわ
たしたちの思いに影響
を及ぼすか、また、音
楽を通してどのように
思いをコントロールできるかを説
明します。好きな賛美歌の歌詞
を暗記する目標を立てましょう。

「神殿の儀式を受ける備えをする」

40ページ——ダークウィスト兄弟の
8つの勧めを紙に書き、各自に一つ
ずつ選んでもらいます。聖なる場所

青少年

- 14 新しい目で見ると
アンジー・
バーグストロム・ミラー
- 22 質疑応答——友達が、
「イエス・キリストは
道徳上の偉大な教師
であるが、救い主や神の子
ではない」と言うとき
どのように答えたら
いいでしょうか。
- 30 価値ある音楽、価値ある思い
ボイド・K・パッカー会長
- 40 神殿の儀式を受ける備えをする
チャールズ・W・ダークウィスト2世



30 価値ある音楽、価値ある思い



40 神殿の儀式を受ける備えをする

今月号のどこかに隠れている
フィンランド語のCTRリングを捜しながら、
預言者に従うことが
どのようにして正義を選ぶ助けになるかを
考えてみましょう。



に立ち、神殿の儀式を受ける備えをするために、これらの勧めに従うことがどのように役立つか、一人一人に話してもらいます。記事の文章を引用しながら話し合いを進めてください。これからの数週間で家族として取り組む原則の一つ選びます。

【お母さんの歌】F8ページ——この話を読み、怖い思いをしたときのことについて家族に話してもらいます。恐怖に打ち勝つために何をしたか尋ねます。賛美歌や初等協会の歌を歌うとどのように助けを得られるかを話し合います。家族として、または個人

で、慰めや励ましが欲しいときに思い出す歌の一つ選びます。

【今あるもので満足する】F12ページ——オデユメ長老の父親が家族に学んでほしかった教訓について話します。子供たちが自分の受けている祝福を理解できるように、「感謝の壺」を作るとよいでしょう。家族に、自分が感謝している事柄を書くか絵で表現してもらい、その紙を壺の中に入れます。子供たちに、目で見たり、手で触ったりすることのできない祝福についても考えるように言いましょう。

フレンド

- F2 預言者の声——3つの橋
トーマス・S・モンソン大管長
- F4 分かち合いの時間——
耳かたむけしたがおう
しゅのよげんしゃとく教え
リンダ・クリステンセン
- F6 よげんしゃジョセフ・スミスの
しょうがいから——さいしょのじげん
- F8 お母さんの歌 シーラ・キンドレッド
- F10 歌——あの日の子供のように
メイベル・ジョーンズ・ガボット、
ダーウィン・ウィルフオード
- F12 小さな友達へ——
今あるもので満足する
アレクサンダー・A・オデユメ長老
- F14 友達になろう——堂どうと立つ
ジェニファー・マディー



今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

Fは「フレンド」の略	従順、F12
あかし証、22	初等協会、F4
イエス・キリスト、22、F10	信仰、22、F2、F12
受け継ぎ、2	神殿、40
思い、30	死、44
音楽、30、36、F8	スミス、ジョセフ、F6
改宗・改心、44、45、F12	聖文研究、46
家族、26、F12	聖霊、36
家族の宣言、25、26	備え、2、40
家庭の夕べ、1、26	慰め、36、F8
家庭訪問、25	引き延ばし、2
儀式、40	ホームティーチング、2
犠牲、2	満足、F12
クック、クエンティン・L、16	模範、F14
結婚、25、26	ゆる赦し、45
最初の示現、F6	預言者、F4
賛美歌、36	

永遠に 価値のある宝



主は
すべての人が
手に入れることのできる
富について
語られました。
すなわち、
地上の言葉では
言い表せない
ほどの喜び、
そして
来世における
永遠の幸福について
語られたのです。

トーマス・S・モンソン大管長

わたしは子供のころ、ロバート・ルイス・ステイブンスンの『宝島』を読むのが好きでした。冒険映画も見ました。そのような映画の筋書きは、引き裂かれたぼろぼろの地図の切れ端を何人かがそれぞれ1枚ずつ持っていて、もし全部の切れ端が見つかり、合わされば、埋められた宝への道を示す地図になるというものでした。

平日の午後になるとラジオの15分番組を聴いていたことを思い出します。それは「理想のアメリカ少年、ジャック・アームストロング」という番組でした。番組が始まると、ラジオからなぞめいた声でメッセージが聞こえてくるのです。「それではジャックとベティーと一緒に、宝が隠されている象の墓場に続く、秘密の入り口に近づきましょう。でも待って。この先には危険が待ち構えています。」わたしはこの番組に釘づけになっていました。わたしは隠された貴重な象牙の宝を探しに行く人になりきっていたのです。

時も場所も変わりますが、世の救い主も宝について語っておられます。主は山上の垂訓でこう宣言されました。

「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。

むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともな

い天に、宝をたくわえなさい。

あなたの宝のある所には、心もあるからである。」¹

約束された報いは象牙や金銀の宝ではありません。広大な土地や株券や債券でもありません。主はすべての人が手に入れることのできる富について語られました。すなわち、地上の言葉では言い表せないほどの喜び、そして来世における永遠の幸福について語られたのです。

今日皆さんに差し上げたいのは、皆さんを永遠の幸福に導いてくれる3枚の宝の地図の切れ端です。それは、次に挙げるものです。

1. 過去から学ぶ。
2. 将来に備える。
3. 今を生きる。

この地図の切れ端について一つ一つ考えてみましょう。

過去から学ぶ

わたしたち一人一人には受け継いでいるものがあります。それが開拓者であった先祖からであろうと、改宗者からであろうと、人生を方向づける手助けをしてくれた人からであろうとかまいません。この受け継ぎによって据えられた土台は犠牲や信仰によって築かれています。わたしたちにはそのような堅固で安定した土台の上にさらなる受け継ぎを築いていく特権と責任があります。

1974年の『ニューエラ』(New Era)で、カレ





こ のような教訓が
あります。
「人生に
特別じゃない日なんて
ありません。……
毎日、毎時間、毎分が
特別なのです。」

ン・ノーレンの著したベンジャミン・ランダートの物語が紹介されました。1888年、15歳のベンジャミンはバイオリンの名手でした。ユタ州北部の農場に母親と7人のきょうだいと住んでいたベンジャミンにとって時折難しかったのは、思うようにバイオリンを弾く時間が取れないことでした。バイオリンを弾きたいという思いがあまりにも強かったため、母親は、ベンジャミンが農場での仕事を終えるまでバイオリンを弾けないように、ケースに入れて鍵をかけてしまうこともありました。

1892年の終わりにベンジャミンは、ソルトレークへ行って準州オーケストラと共演するためのオーディションを受けてみないかと言われました。彼にとって、これは夢の実現でした。数週間練習し、祈った彼は、1893年3月、待ちに待ったオーディションを受けるためにソルトレークへ行きました。指揮者のデーブ氏はベンジャミンの演奏を聞くと、彼はデンバー以西では最も優秀なバイオリン奏者であると言いました。そして、ベンジャミンは秋のリハーサルに備えてデンバーに引っ越すように言われ、自活するのに十分で、なおかつ家に仕送りができるほどの給料が支払われることも知らされました。

しかし、この良い知らせを受けて1週間後、ビショップはベンジャミンをビショップ室に呼び、オーケストラに入るのを2、3年延期できないかと尋ねました。そしてお金を稼ぐ前に、主に借りを返さなくてはならないと言いました。そして、伝道の召しを受けてほしいと伝えたのです。

オーケストラに入る機会をあきらめるのは、ベンジャミンには耐え切れないことのように思えました。しかし同時に、どんな決断をすべきかも分かっていました。そして伝道に出るた

めのお金を集める方法があれば伝道の召しを受けますとビショップに約束しました。

ベンジャミンが母親にその召しについて話すと、母親は大喜びでした。母親が言うには、ベンジャミンの父親は生前いつも伝道に行きたいと言っていたのに、とうとうその機会が来る前に亡くなったのだそうです。け

れども伝道資金の話になると、母親の顔は曇りました。ベンジャミンは母親に、もうこれ以上、家の土地を売ってはいけな

いと言いました。母親は、ベンジャミンの真意を測るかのよう

に、少しの間その顔を見詰めてからこう言いました。「ベンジャミン、お金を得る方法が一つあるわ。この家には、おまへの伝道資金になるくらいのも

で決してお忘れにならなかった。』²

過去から学んでください。

将来に備える

わたしたちは目まぐるしく変化する世界に生きています。技術革新は生活をほとんどすべての点で変えてしまいました。このような大変動とも言える進歩に対処せざるを得ないのです。わたしたちの先祖は、世界がこのように進歩することなど夢にも思いませんでした。

主の約束を覚えておきましょう。「備えていれば恐れることはない」³のです。恐れは進歩の強力な敵です。

準備と計画が必要です。準備と計画をするならば、人生を無駄に過ごすことはありません。目標がないところにほんとうの成功はありません。わたしがこれまでに聞いた中で最もすばらしい成功の定義の一つは次のような言葉です。「成功とは立派な理想の実現に向かって着実に前進し続けることである。」また、目標を持たずにいることの弊害は、忙しい人生を送った末に結局目的地にたどり着けないことだと言った人もいます。

何年も前、夢のような歌が流行しました。このような歌詞です。「願っていればかなえられる。だから願い続けよう。ほら、心配事も消えていく。」⁴ わたしは今ここで、はっきり申し上げますが、人生で出遭う苦難に対処したければ、願っただけではなく、周到な準備が必要なのです。準備は骨の折れるものですが、進歩するには絶対に欠かせないものです。

未来へのわたしたちの旅路は、永遠の世界につながる平坦な大通りではないのです。むしろ、路上には幾つもの分岐点や曲がり角があるでしょうし、予期せぬ段差も当然あるはずです。愛にあふれ、一人一人の人生での成功を望んでおられる天の御父に、わたしたちは毎日祈らなければならないのです。

将来に備えてください。

今を生きる

時々、わたしたちはあまりに多くの時間を将来のことを考えながら過ごしてしまうことがあります。過去の思い出に浸ったり、将来を待ち焦がれたりするのは心地よいことかもしれませんが、今を生きることの代わりにはなりません。今日という日は、二度とない機会であり、逃してはならないのです。

メレディス・ウィルソンのミュージカル劇「ザ・ミュージック・マン」(The Music Man)に登場するハロルド・ヒル教授は、こう

警告しています。「明日のことばかり考えていると、気づいたときには、空っぽの昨日ばかりがたまっていくということになりますよ。」

今日何かしなければ、後になって思い出せる明日は来ません。今を精いっぱい生きるには、いちばん大切なことをしなければなりません。いちばん大切なことを、ぐずぐず後回しにしないようにしましょう。

ある男性の話を讀んだことを覚えています。この人は、奥さんが亡くなるとすぐに、彼女が使っていたたんすの引き出しを開け、二人で9年前に合衆国の東部へ行ったときに買った洋服を見つけました。奥さんは一度も袖を通さず、特別な時のために取っておいたのです。けれども、亡くなってしまっただけで、その機会は二度と訪れません。

妻を亡くしたこの男性はそのことを友人の女性に話しました。そしてこう言ったのです。「特別な時のために何かを取っておくなんて、しちゃだめだよ。人生に特別じゃない日なんてないんだから。」

その友人は後に、この言葉が人生を変えたと言いました。この言葉のおかげで、彼女は大事なことを後回しにしなくなったのです。彼女はこう言っています。「今では、もっと多くの時間を家族と過ごすようになりました。毎日、大切なクリスタルのグラスを使っています。スーパーに行くのだって、着たいと思えば新品の洋服で行きますよ。『またいつか』とか『そのうちに』という言葉は、わたしの辞書から消えつつあります。時間を取って、親戚や親友と電話で話すようにしています。昔の友人に電話して、口げんかの仲直りをしました。家族に、どれだけ愛しているか伝えていきます。わたしたちの生活に笑顔や喜びをもたらすことは、後回しにしないで実行するようにしています。そして毎朝、今日はきっと特別な日になると自分に言うのです。毎日、毎時間、毎分が特別なのです。」

この考え方を実践したすばらしい模範が、何年も前にアーサー・ゴードンによってある有名な雑誌に掲載されました。次のように記されています。

「わたしが13歳、弟が10歳のころ、父はわたしたちをサーカスに連れて行ってくれると約束しました。しかし昼どきになって電話が入り、急な仕事のために町まで行く必要が生じました。わたしたちは、サーカスに行けなくなった時のために、心の準備をしました。けれども父は電話越しにこう言ったのです。『町へは行きません。待っていただきますよ。』

父がテーブルに戻って来たとき、母はほほえみかけてこう言いました。『サーカスはまた来るでしょう?』



古 い格言にある
きょう「今日」
 できることを
 明日に引き延ばしては
 ならない」という言葉は、
 家族や友人に愛情を
 伝えるときに、
 さらに重要に
 なってきます。

父はこう言いました。『ああ、でもこの子たちの子供時代は二度と来ないからね。』⁵

七十人であったモンテイ・J・ブラフ長老は、子供のころに住んでいたユタ州ランドルフの家でのある夏の経験について話してくれました。ブラフ長老は弟のマックスと一緒に、裏庭の大木に小屋を作ることにしたのです。二人は、これまでの人生で最高のものを作る計画を立てました。そして近隣をくまなく探して、小屋に必要な材料を集め、木の上に運びました。そこは2本の大きな枝が伸びる、小屋作りには絶好の場所でした。作業は大変でしたが、出来上がりが待ち遠しくてたまりませんでした。出来上がった小屋を思い浮かべることで、完成への意欲は大いにかき立

てられました。

二人は夏の間ずっと小屋作りに励み、新学期が始まる直前の秋によく完成しました。ブラフ長老は、やっとの思いで完成した小屋を見たときの喜びと満足感を決して忘れないだろうと語りました。二人は木の上の小屋の中に座り、辺りを少し見回して木から降りました。そして二度と小屋には戻りませんでした。小屋は上出来でしたが、二人は1日もたたないうちに小屋への関心をなくしてしまったのです。言葉を変えれば、後々まで残る満足感と喜びを二人にもたらしたのは、完成した小屋ではなく、計画し、材料を集め、建て、努力する過程だったということです。

ブラフ長老と弟のマックスがしたように、日々の生活の中で、人生を楽しみましょう。人生の旅に喜びを見いだすのです。

引き延ばさない

古い格言にある「今日できることを明日に引き延ばしてはならない」という言葉は、家族や友人に愛情や親近感を言葉や行いで伝えるときに、さらに重要になってきます。作家のハリエット・ビーチャー・ストウはこう言いました。「亡くなった人のために流される悲哀の涙には、伝えられなかった

言葉や、やり残した行いが込められている。」⁶

機会を永遠に逸してしまうことの悲しさを、ある詩人はこうつぶっています。一部を引用します。

果てしないこの大きな町にも、
 角を曲がったすぐそこに友達がいる。
 日は過ぎ、月は走り去る。
 知らぬ間に1年が過ぎる。
 旧友の顔を一度も見ぬまま。
 人生は恐ろしく速く、矢のように過ぎていく。……
 そして明日が来て、またその次の日が過ぎていく。
 二人を隔てる溝はますます広がる。

由がり角のすぐそばなのに。まるで遠くの人のようなだ。……
 そこへ1通の電報が舞い込んだ。「今日ジム死す」と。
 これが二人の最後に得たもの。
 曲がり角の向こうのあの友達は、もう二度と戻って来ない。⁷

2, 3年前, わたしはこの詩が伝えるメッセージを実践するため, 何年も会っていなかった愛する友人を訪問することにしました。これ以上先送りにするのはやめようと決心したのです。それまで, その友人の住むカリフォルニアに何度も足を運ぼうとしましたが, 訪問できずにいました。

ボブ・ビガーズとわたしは, カリフォルニア州サンディエゴにある合衆国海軍訓練センターの総務課にいたときに知り合いました。第二次世界大戦も終わりに近づいていたころです。知り合った当初から意気投合し, ボブは結婚する前に一度ソルトレークまで来てくれました。1946年にわたしが海軍を除隊して以来, わたしたちは手紙で連絡を取り合ってきました。毎年クリスマスには, 妻のフランシスとともに, ボブと奥さんのグレースとカードのやり取りをしてきました。

そしてついに, 2002年1月初旬, カリフォルニア州ウィットチアーのステーキ大会に訪問する予定を立てました。ビガーズ夫妻が住んでいる所です。わたしは, もう80歳になる友人のボブに電話し, 妻のフランシスとともに夫妻に会うことにしました。昔のことを語り合うのです。

すばらしい時間を過ごしました。55年前に海軍にいたときの写真をたくさん持って行き, 共通の知人の近況について知っている限りのことを伝え合いました。ボブは教会員ではありませんが, サンディエゴにいた間, とともに集った聖餐会^{せいさんかい}について覚えていました。

妻とわたしはボブとグレースに別れを告げてから, わたしはたとえようのない平安と喜びを感じました。何年も愛し続けてきた遠方の友人にもう一度会うため, ようやく重い腰を上げることができたのです。

いつの日か, わたしたちは生涯を閉じる時を迎えます。最も重要なことを先送りしないようにしましょう。

今を生きてください。

皆さんにとっての宝の地図はこれでそろいました。過去から学び, 将来に備え, 今を生きてください。

冒頭にお伝えしたように, 主である救い主はこのように言われています。

「あなたがたは自分のために, 虫が食い, さびがつき, また, 盗人らが押し入って盗み出すような地上に, 宝をたくわえてはならない。

むしろ自分のため, 虫も食わず, さびもつかず, また, 盗人らが押し入って盗み出すこともない天に, 宝をたくわえなさい。

あなたの宝のある所には, 心もあるからである。」⁸ ■

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後, あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 何かの行事をするとき, どのように準備するかを家族に尋ねる。また, どれくらい前から準備するかを尋ねる。わたしたちは天に宝を蓄えることにより, 永遠の命を得る準備をする必要があることを説明する。マタイによる福音書第6章19節から21節を読み, 家族に本文の各項を順番に読むように勧める。

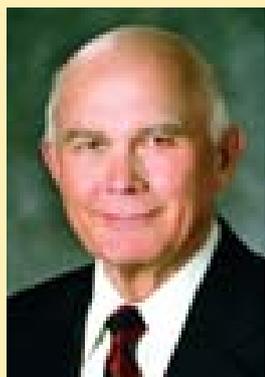
2. 「過去から学ぶ」という見出しの最初の段落を読み, 自分の人生に良い影響を及ぼした人や経験について話すように家族に勧める。過去から学ぶことは永遠の幸福を見いだす一つの方法であると証する。

3. 「今を生きる」の中にある話を一つか二つ紹介する。引き延ばしにしてきた重要な事柄の一つ, 各自が実行する目標を立てるよう家族に勧める。翌月, それぞれの経験について話すように家族に勧めてもよい。

注

1. マタイ6:19-21
2. "Benjamin: Son of the Right Hand," *New Era*, 1974年5月号, 34-37 参照
3. 教義と聖約38:30
4. "Wishing (Will Make It So)," 詞: B・G・デシルバ
5. *A Touch of Wonder* (1974年), 77-78
6. ゴートン・カラス, ユージン・アーリック共編, *The Harper Book of American Quotations*, (1988年), 173で引用
7. チャールズ・ハンソン・タウン, "Around the Corner," A・L・アレクサンダー編, *Poems That Touch the Heart* (1941年), 1で引用
8. マタイ6:19-21

あ が な 贖いと信仰



十二使徒定員会
ダリン・H・オークス長老

天の御父のもとへ行くに
ふさわしくなるためには、
清いだけでは
不十分なのです。
罪を犯した
道徳的に弱い人間から、
神のもとに
住むことのできる
霊的な成熟度を備えた
強い人間に
変わる必要も
あるのです。

福音の第一の原則は主イエス・キリストを信じる信仰です。この信仰がなければ、主の教会の民の中に数えられるにふさわしくないと、預言者モルモンは語っています(モロナイ7:39参照)。エホバがイスラエルの子らにお与えになった最初の戒めにはこうあります。「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。」(出エジプト20:3) わたしたちは常に救い主を第一に置くべきです。この力強い理念、すなわち信仰を持ち、主を第一に置いて生活しなければならないという理念は簡単に見えますが、実践するとなると難しいと感じる人が多いのです。

信仰は神の言葉を聞くことによって生まれると聖文は教えています(ローマ10:17参照)。聖文、預言者の教え、個人の啓示によってもたらされる神の言葉は、わたしたちが神の子供、すなわち永遠の御父の子供であることを教えてくれます。また、神の独り子であり、救い主、贖い主であるイエス・キリストがどのような御方であり、どのような使命を持っておられるのかを教えてくれます。これらの真理を知ったうえで主イエス・キリストを信じる時、確信と信頼が得られます。すなわち、神がわたしたちを知

り、愛し、祈りを聞き、そして最善の方法でこたえてくださるという確信と信頼を得ることができるのです。

主を信じるとは、主を信頼するということです。主は御心みこころをお持ちであり、最もふさわしい時期にその御心を行われるということに対する全幅の信頼なしに、主を信じる真の信仰を持つことはできません。ですから、どれほど強く信じていても、わたしたちの信仰の対象である主の御心にかなわないのであれば、望む結果は得られないのです。祈りが皆さんの望む方法で、あるいは望む時期にこたえられないように思えるとき、このことを思い出してください。主イエス・キリストへの信仰は常に天の秩序、主の慈しみいつく、御心、知恵、そして時期に基づいて行使しなければなりません。主に対してこのような信仰と信頼を抱くとき、真の安全と静寂が人生にもたらされます。

わたしたちが第一に信頼を置くのは救い主イエス・キリストです。イエス・キリストはわたしたちの規範です。わたしたちが規範としているものは、今人気のあるスポーツ選手や芸能人ではありません。同様に、わたしたちにとって最も大切な所有物は、高価なおもちゃでもなけれ



ベニヤミン王
の民は、
大きな変化は
「悪を行う性癖を
もう二度と持つことなく、
絶えず善を行う望み」を
与えると表現しています
(モーサヤ5:2)。
そのような心の変化を
遂げた人は、
神とともに住むに足る
強さと成熟度を
身に付けた人です。

ば、一時的な事柄に専念させて永遠の事柄を
忘れさせるような気休めでもありません。わた
したちが規範として最優先しているのは、イエ
ス・キリストです。わたしたちは主について証し、
主の教えと模範を生活の中でいかに実践して
いけるか、互いに教え合わなければなりません。

救い主によって強められる

ブリガム・ヤング大管長(1801 - 1877年)は、
わたしたちが従うべき主を知るにはどうすれ
ばよいかについて、幾つかの実用的な助言を
しています。「神は創造し、組織されますが、悪
魔の目的は破壊することだけです。それが神と

悪魔の違いなのです。」¹ この対照的な違いは、
「すべての事物には反対のものが[ある]」とい
うことの重要な実例です(2ニーファイ2:11)。

忘れないでください。救い主イエス・キリスト
は、常にわたしたちを強めてくださいます。決して
滅ぼそうとはされません。わたしたちはイエ
スのこの模範の力を、余暇や遊びの時間も含め
て、与えられた時間の活用の仕方に取り入れな
ければなりません。この世でもてはやされている
書籍や雑誌、映画、テレビ、音楽が主張する
テーマについてよく考えてください。わたしたち
の選ぶ娯楽に含まれる主張は、神の子供たち
を強めるものでしょうか、滅ぼすものでしょうか。



これまでの人生でわたしは、神の子供たちを強め高める娯楽をわきへと追いやり、反対のものに、つまり墮落させたり、おとしめたり、破壊したりする描写や行為に取って代えようとする盛んな風潮を目にしてきました。このような状況の中からもみ取れる力強い理念とは、人を強めるものはすべて主の目的に貢献し、人をおとしめるものはすべて悪魔の目的に貢献しているというものです。わたしたちは毎日、自分の選びによって、また思いや望みによって、前者か後者かのどちらかを支援しています。この事実は、わたしたちの責任を思い起こさせ、それを主に喜んでいただける方法で果たしていこうという気持ちにさせてくれます。主はわたしたちに希望を与えるために苦しまれ、導きを与えるために模範を示してくださいました。



苦しみは悔い改めの一部

イエス・キリストの福音の中核を成す理念、すなわち、全人類の復活と並んで最も力強い福音の理念は救い主の贖い（しもべ）です。わたしたちは主の僕であり、贖いが自分自身の人生で、またわたしたちが教える人々の人生で果たす役割を理解することはきわめて大切です。贖いの果たす役割を理解するためには、正義と憐れみと贖い（あわ）の関係、またこの神聖な贖いの過程で経験する、苦しみと悔い改めの役割をぜひとも理解する必要があります。

イエス・キリストの贖いのおかげで、わたしたちは神の律法を犯した人に対する恐ろしい正義の要求にこたえる義務から解放され、聖文にあるような惨めな無窮の苦痛の状態を受けなくても済むようになります。一方には正義があり、他方には憐れみと贖いがありますが、両者の関係はイエス・キリストの福音の中心となる理念です。

モルモン書は、救い主が人を罪のあるまま贖われることはないと教えています。「悪人はあたかも贖いがなかったかのような有様（ありさま）であり、ただ死の縄目からの解放だけがある。」（アルマ11：41）救い主は、悔い改めを条件に人を罪から贖うために来られました（ヒラマン5：11参照）。

悔い改めの条件の一つは主イエス・キリストを信じる信仰であり、それには主の贖いの犠牲に対する信仰と信頼も含ま

れています。アミュレクはこう教えています。「悔い改めを生じる信仰を少しも働かせない人は、正義を要求するすべての律法にこたえなければならない。したがって、偉大な永遠の贖いの計画は、悔い改めを生じる信仰のある人のためにだけ備えられている。」（アルマ34：16）これは明らかに、戒めに背いて悔い改めない人は自分の罪のために苦しまなければならないということを意味しています。しかしこれは、救い主がすべての罰を負ってくださるので、悔い改める人はまったく苦しむ必要がないということにもなるのでしょうか。それは違います。救い主のほかの教えと矛盾してしまうからです。

**ブリガム・ヤング
大管長は
こう教えています。
「神は創造し、
組織されますが、
悪魔の目的は
破壊すること
だけです。
それが神と悪魔の
違いなのです。」**

アルマ書第34章16節が意味するところは、悔い改める人は、救い主がその罪のために苦しまれたように苦しむ必要がないということです。悔い改める罪人はある程度の苦しみを味わうものの、その人自身の悔い改めと主の贖いによって、その罪のために救い主が受けられた、激しい永遠の苦しみのすべてを味わうことはないのです。

悔い改めと救（ゆる）しについて、幅広く深い教えを残したスペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985年）は、個人の苦しみは悔い改めにおける非常に重要な部分であると語っています。「罪のために強烈な苦しみを経験するまでは、その人は悔い改めのための一歩を始めたとは言えません。……苦悩のないところに悔い改めはあり得ないからです。」²

救い主はこの原則を教えるに当たって、贖いの犠牲は「打ち砕かれた心と悔いる霊を持つすべての人のため」であり、「このような人々のためにしか、律法の目的は達せられない」と言われました（2ニーファイ2：7）。真に悔い改め、打ち砕かれた心と悔

いる霊をもってキリストのもとに来る罪人は、罪に対する個人的な苦痛と苦しみの過程を歩んでいる人です。そのような人は、心から悔い改める者のほかにはだれも救われられないというアルマの言葉の意味を理解しています。息子アルマは確かにそのことを理解していました。そのことについては、モーサヤ書第27章とアルマ書第36章を読んでください。

キンボール大管長はこう語っています。「多くの人は悔い改

悔い改めが教えられなかった
神権時代は
ありませんでした。



まで幸福になるのを主がいつでも許そうとなさらないことに対する悲しみであり、罰の定めを受ける者の悲しみ」です(モルモン2:13)。



わたしたちは大きな変化を経験しなければならない

重大な罪を悔い改めるうえで、なぜ苦しむことが必要なのでしょう。悔い改めの結果についてわたしたちは、単に罪から清められることであると考えがちです。しかし、それは不完全な見方です。罪を犯す人は、風にたやすくたわむ木のようなものです。風雨が強い日には木は地面に向かって深くたわみ、その葉は泥で汚れてしまいます。この泥を罪だとしましょう。わたしたちが単に葉をきれいにするだけで焦点を当てるならば、たわんで葉を汚す木の弱さをそのままにしてしまうかもしれません。同様に、罪に汚れたことを悲しむだけの人は、次に強い風が吹けば再び罪を犯すでしょう。木そのものが強められなければ、葉が繰り返し汚れることは避けられないでしょう。

人が正しい過程を経て、聖文で言う「打ち砕かれた心と悔いる霊」という状態に至ったとき、救い主は罪から清める以上のことをしてくださいます。新たな強さを下さるのです。この靈性の強化は、天の御父のもとに戻るという、清め

イ ザヤ書第1章
18節にある
「たとい
あなたがたの罪は
緋のようであっても、
雪のように白くなるのだ」
という約束は
何と大きな慰めを
与えてくれることでしょう。

めたから赦されて当然だと思っても、実際は単に不運な出来事について悲しみや後悔の思いを表明しただけだということが往々にしてあります。』³

神の御心に添った悲しみと、浅くてあまり苦痛の伴わない悲しみの間には大きな隔たりがあります。神の御心に添った悲しみは人を悔い改めに導きます(2コリント7:10参照)。またこの悲しみには個人的な苦痛も含まれます。一方で、浅くてあまり苦痛の伴わない悲しみは、罪がほかの人に知られてしまったための悲しみです。あるいはモルモンの言葉を借りれば見当違いの悲しみ、つまり「彼らに罪のあるま

の本来の目的を実現するために欠かせません。天の御父のもとへ行くにふさわしくなるためには、清いだけでは不十分なのです。罪を犯した道徳的に弱い人間から、神のもとに住むことのできる霊的な成熟度を備えた強い人間に変わる必要もあるのです。聖文にあるように「主なるキリストの贖罪しよくざいにより……聖徒」とならなければならないのです(モーサヤ3:19)。これが、罪を悔い改めた人はそれを捨てるといふ聖句の意味です(教義と聖約58:43参照)。罪を捨てるとは、その罪を繰り返さないという決心以上のものです。それは個人が根本的に変わることを意味します。

ベニヤミン王の民は、大きな変化は「悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望み」を与えると表現しています(モーサヤ5:2)。そのような心の変化を遂げた人は、神とともに住むに足る強さと成熟度を身に付けた人です。それがわたしたちの言う、救われるということなのです。

悔い改めが教えられなかった神権時代はありませんでした。よみがえられた主は、御自身で「わたしがあなたがたに告げた福音」(3ニーファイ27:13)と呼ばれた教えを述べながら、悔い改めについて強調されました。「さて、戒めは次のとおりである。地の果てに至るすべての者よ、悔い改めて、わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊を受けて聖められ、終わりの日にわたしの前に染みのない状態で立てるであろう。」(3ニーファイ27:20)

近代の啓示を通して主は次のことを明らかにされました。「まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたの言葉を信じることなく、また聖霊を受けるために、わたしの名によって水の中で罪の赦しのためのバプテスマを受けない者は、罰の定めを受け、父とわたしがいる父の王国に来ることはないであろう。」(教義と聖約84:74)

赦しは確かに訪れる

最後に、希望に満ちたメッセージでこの話を閉じましょう。これはどのような人にも当てはまりますが、悔い改めを難しく感じている人たちには特に必要なメッセージです。悔い改めはすべての人に必要な、継続的に行うべき過程です。なぜなら、「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって」いるからです(ローマ3:23)。悔い改めは可

能であり、赦しは確かに訪れます。

スペンサー・W・キンボール大管長はこう語っています。「時々……悔い改めようとしている人は自分が犯した罪を振り返って見たとき、その醜さ、胸がむかつくほどのいやらしさに意気消沈してしまい、『主はわたしを赦してくださいさるだろうか』とか、『わたしは自分自身を赦せるだろうか』という疑問に駆られることがある。しかし、罪を犯した人が深く失望し、絶望のどん底に達し、自分の無力にあえぎながらもただ信仰を抱いて神の慈悲を求めて祈ると、静かで、細く、それでいて全身を刺し貫くような声が聞こえてくる。『あなたの罪はゆるされた。』」⁴

そのように赦されたとき、神が御子の功德によってわたしたちの心から罪を取り除いてくださる(アルマ24:10参照)という貴い約束が成就するのです。イザヤ書第1章18節にある

神は、御子の功德によって
わたしたちの心から
罪を取り除いて
くださいます。

「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ」という約束は何と大きな慰めを与えてくれることでしょう。「自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない」という神御自身の約束は何と栄光に満ちていることでしょう(教義と聖約58:42)。

愛する兄弟姉妹の皆さん、これまで語ってきたことは真実だと証

します。ここで伝えたことはイエス・キリストの教義であり、永遠の御父である神の計画です。わたしたちの救い主イエス・キリストがその創始者であり、完成者であられます。イエス・キリストについて、預言者について、またジョセフ・スミスを通してもたらされたこの末日における福音の回復について証します。■

ユタ州プロボで2001年6月に開かれた伝道部会長セミナーでの説教から。

注

1. *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウイツォー選(1954年), 69
2. *The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編(1982年), 88, 99
3. *The Teachings of Spencer W. Kimball*, 87
4. 『赦しの奇跡』54

新しい目で 見ると

アンジー・バーグストロム・ミラー

目にあぎを
作ったことで、
よく見えなかった
ものがはっきりと
見えるように
なりました。

「ひどい顔。」わたしは信じられない
思いで鏡をのぞき込みながら言
いました。鏡の中で自分を見詰め返
しているのはいつもの右目です。でも左目は、
これまで見たこともないほどのひどいあぎがで
きています。

「そんなにひどくはないわよ。」友達のエミ
リーは言ってくれましたが、その言葉に力があ
りません。

何ともない方の目をじろりとエミリーに向けると、わたしはまた氷を載せました。

それはほんの5分前のことでした。友達の
ジャナのひじが偶然、でもまともに左目に当
たったのです。わたしはそのまま両手で顔を
覆い、倒れないように踏ん張りました。ジャナ
は謝りました。友達がわたしの周りに集って
「大丈夫？」と声をかけるのが聞こえました。

もちろん痛かったのですが、どんなことにな
っているのかは、わたしが顔から手を離し、
部屋にいた全員があっと息をのむまでは分か
りませんでした。

「どうしたのよ」と尋ねましたが、だれも答
えてくれません。

わたしは鏡に駆け寄りました。ぶつかってか
らわずか数秒で、目の周りの皮膚は普段の4倍
もはれ上がり、血で真っ赤になったあぎがで
きていたのです。

「これじゃ人前に出られないじゃない。」わ
たしはジャナの手から氷のうを奪い取りながら
言いました。ジャナは唇をぎゅっとかんで、もう

100回くらいは謝っています。明日の朝までには
あぎが消えてほしいと思いながら、わたしは
氷を目にぎゅっと押し当てました。

しかし翌朝、はれと赤みは多少引いたもの
の、まだふっくらとしているあぎは残念なことに
濃いピンク色に変わっていました。ひどい顔で
す。わたしの心はそれに輪をかけてひどい状
態でした。

化粧で隠そうとしましたが、あぎが紫色っぼ
くなっただけでした。それに、はれはどうする
こともできません。仕方なく、つばの下から物
がやっと見えるほど、深く帽子をかぶりました。

その日、学校では皆にじろじろ見られている
ような気がして、だれとも目を合わせないように
しました。友達はわたしを元気づけてくれました
が、あぎのことしか考えられないまま何日か
過ぎました。

日曜日、わたしは不機嫌でした。教会には
帽子をかぶって行けません。ところが、日曜学
校のレッスンですべてが変わったのです。

あがな
贖いと個人の価値について話していた教師
がこう言ったのです。「主があなたを御覧にな
るように自分自身を見られるよう、祈ってごらん
なさい。」

「主はわたしを、醜い青あぎの目をした女の
子だと思っておられるわ。」あぎに手を当てな
がらわたしは心の中でつぶやきました。でもそ
のとき、自分を哀れむことはやめようと思いま
した。すると、考え方が変わってきたのです。そ
して、「天の御父はわたしのことをどのように見



ておられるのかしら」と思いました。

御父がほかの人たちだけでなく、わたしのことも愛しておられるのだと思うと、目に涙があふれてきました。「お父様はわたしを、御子の命を犠牲にするだけの価値ある娘として見てくださっている」と分かったのです。

神の娘であるわたしには偉大な価値があると御霊が証してくれるのを感じました。セミナーで学んでいた聖句を思い出し、聖典を開きました。サムエル記上第16章7節です。「顔かたちや身のたけを見てはならない。……わたしが見るところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る。」外見は、内面のわたしほど重要ではなかったのです。

部屋を見回していると、また別の考えが浮かびました。周囲の人たちに対して計り知れないほど大きな愛を感じたのです。わたしの心は御父の愛が放つ温かさでいっぱいになりました。一瞬、クラスみんなを見るわたしの目が、少しだけですが、御自分の子供を見ておられる天の御父の目と同じになったような気がしました。

その安息日、わたしは寝るまで穏やかな気持ちと安らぎに包まれていました。ほかの人たちが何を考えているかは気にならなくなりました。わたしは皆を愛しています。だから、両方の目でしっかりと皆の目を見ることができました。■



心に深く刻み込まれた真理

「皆さんは文字どおり、天の両親の霊の娘であり、神の属性と永遠の行く末を備えています。成熟した女性に成長していく過程で、この特別な真理を心に深く刻み込み、あらゆる決断の土台としなければなりません。この真理以上に、皆さんの尊厳、価値、特権、そして皆さんへの約束を正確に表すものではありません。天の御父は皆さんの名前も状況も御存じです。皆さんの祈りをお聞きになります。望みも夢も、恐れや挫折も御存じです。皆さんが神を信じる信仰を持つことによってどのような者になれるかも御存じです。」

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド長老

「若い女性の皆さんへ」『リアホナ』2005年11号、28参照



右—ジェフリー・R・ホランド長老、マリオン・D・ハンクス長老とともに。元七十人のハンクス長老は、両長老にとっての伝道部長であった。左ページ(上から下へ)—8歳のクエンティン・クック(左)、家族とともに。19歳当時。3歳当時。

周りの人から学ぶ

1940年9月8日、ユタ州ローガンで、J・バーノン・クック、バーニス・キンボール・クック夫妻の間に生まれたクエンティンは、まだ幼いうちに父親から、目標を立て、その目標に向かって努力することの大切さを学びました。

「父は3つのルールを決めていました。」とクック長老は話します。「1番目—価値のある目標を立てなければならない。2番目—必要なら目標はいつでも変更できる。3番目—それでも、どんな目標であれ、達成に向かって熱心に努力しなければならない。」

父親と度々話しながら、クック長老は、周囲をよく観察して

その中でいちばん良いものを自分の人生に生かすということを知りました。「進んで学ぶ気持ちがあれば、周りの人たちから実に多くのことを学べます。だからこそ、善い人たちに囲まれて生活することが大切なのです」とクック長老は語ります。

ローガンで育ったクック長老は、周りの人から学ぶ機会に恵まれました。例えば、クック長老は、現在十二使徒定員会の会員であるL・トム・ペリー長老の聖餐会での話を熱心に聞いたことを覚えています。当時、ペリー長老は第二次世界大戦から帰還したばかりの青年でした。その靈感あふれる経験は、最も若いときの強烈な思い出として、今も心に残っています。

青年時代、クック長老はスポーツが大好きでした。高校ではバスケットボールやアメリカンフットボールで活躍し、チームも州で屈指の強さを誇っていました。また、ディベート(討論会)や政治にも関心を持ち、16歳のときには、二人しか選ばれない州の代表として全国規模の体験学習イベントに参加しました。この時クック長老は、当時のアメリカ合衆国大統領ドワイト・D・アイゼンハワーや、後に大統領となったジョン・F・ケネディ、リンドン・B・ジョンソン、リチャード・M・ニクソン、ジェラルド・R・フォードに会い、彼らが法律を制定する過程を見て感銘を受けます。この経験が、後に法律を学ぶきっかけとなりました。

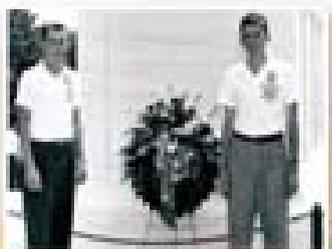
伝道に出る前、クック長老はユタ州立大学に入学しました。そこで友人とともに学生自治会の役員を務めました。この友人とは、後に七十人第一定員会に召され、現在、教会教育システム教育委員長として奉仕しているW・ロルフ・カー長老です。

1960年から1962年まで、クック長老はイギリス伝道部で奉仕します。その後、わたしも同じ伝道部に召されました。わたしたちは、当時七十人第一評議会の一員でもあったマリオン・D・ハンクス伝道

部会長から強い影響を受けました。ハンクス会長はすべての宣教師に対し、キリストの弟子となること、そして決意をもって行動することの大切さを強調しました。また、生涯を

かけて救い主を愛し、モルモン書を大切に、教会と福音に対して忠実であるようにと教えました。それから45年以上たった今、宣教師時代に同僚だった二人が十二使徒定員会でも





に奉仕をするというのはまれに見る出来事です。

クック長老に学ぶ機会を与えてくれた善良な男性と女性はまだいます。しかし長老は、彼らの大半が当時、特に高い地位にあったわけではなかったと言います。ただ善良な人々だったのです。

クック長老はこう語ります。「わたしたちは教義から学ぶことができます。また、良い模範から学ぶことができます。しかし、その二つを兼ね備えている人々に出会うことがあります。イエス・キリストの福音から学んだことを、日々の暮らしの中で忠実に実践している人々です。この二つを持ち合わせているのはすばらしいことです。だからといって中央幹部である必要もなければ、高い役職に就いている必要もありません。社会的地位も経済力も民族も関係なく、だれでも模範を通して学んだ教義を示すことができるのです。」

家族の影響

クック長老はいつもすばらしい人々に囲まれた人生を送ってきましたが、最も大きな影響を与えたのは家族です。

クック長老は、愛情深く、いつも関心を持ってくれる父親と、救い主を愛する母親に感謝しています。「二人とも、わたしたちを正しく育てるために、できることは何でもしてくれました。」クック長老はまた、兄のジョーと姉妹のスーザンからの愛と励ましにも感謝しています。

15歳のとき、人生における重大な出来事の一つが起きました。兄のジョーは伝道に出たいと考えていましたが、父親は善良な人でありながらも、当時は教会の活動に関心を失っていたため、ジョーに伝道ではなく、医学部へ進学してほしいと考えていたのです。ジョーとクエンティンは父親を心から尊敬していたので、二人だけになれる場所へ行き、父親の勧告について考えてみることにしました。

二人は夜遅くまで話し合いました。それぞれの選択について、プラス面とマイナス



面を検討しました。そして、次の結論に至りました。「もしこの教会が単に優れた組織の一つであるということなら、医学部に進学した方がもっと人々を助けることができる。しかし、もし救い主が確かに生きておられ、ジョセフ・スミスが確かに預言者であるなら、さらにジョセフが神の指示の下に組織した教会が確かにイエス・キリストの教会であり、モルモン書が真実であるとし

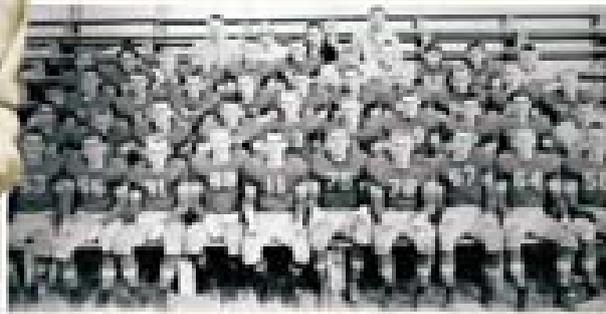
たら、ジョーが何をすべきかは明白である。」翌朝、ジョーは父親のところへ行ってこの結論を伝え、証を述べました。そして間もなく伝道に出発しました。父親の支えと、母親の喜びに満ちた祝福を受けて家を後にすることができたのです。

このとき兄と話し合ったことは、若きクエンティンに大きな影響を与えました。救い主についての証は常に持っていたが、15歳だったクック長老は、ジョセフ・スミス、教会、モルモン書についての確固とした証がまだありませんでした。信じてはいましたが、これらのことがまさしく真実であると確認する霊的な確証はまだ受けていなかったのです。

あの晩、兄との話を終えたクエンティンは自分の部屋に戻ると、ひざまずいて祈りました。兄が持っていたのと同じ証、すなわち心の底から願っていた証が得られるようにと祈ったのです。クック長老は証を得ました。あまりにも強烈な証だったので、抱いていた疑問も永遠に消え去ってしまいました。

メアリーをたたえて

クック長老の妻メアリーも、長老の人生に大きな影響を与えた人物です。「彼女ほど善良で義にかなった明るい人物はなかなかいません。妻にはすばらしいユーモアのセンスがあります」とクック長老は語ります。





娘のキャスリン・クック・ナイトも父親の意見に賛成しています。「父は完璧な父親でした。あらゆる面で父はすばらしいと思います。でも、母は聖い人です。」

クック姉妹は、豊かな音楽の才能に恵まれました。音楽を教え、家の中を音楽で満たしています。しかも、長老が彼女と初めて知り合ったのは中学1年の学芸会のときでした。クック長老はこう回想しています。「亜麻色の髪をしたこの小さな女の子が立ち上がり、『明るい表通りで』というジャズナンバーを歌いました。まだ中学生でしたが、大人のような深みのある声でした。わたしはとても感動しました。この歌は、彼女の人生のテーマソングと言ってもいいでしょう。きらきらと輝いていて、太陽のように明るい性格の持ち主だからです。」

在学中、二人は何度も一緒に活動しました。中学校では、クック長老が生徒会長で、姉妹が副会長になったこともありました。ディベートでも同じチームでした。高校3年生になるとクック長老は学年委員長になり、生徒会の役員として彼女と一緒に活動しました。

クック長老は当時を振り返ってこう言います。「恋愛感情が芽生えるずっと前から、わたしたちは良い友達でした。愛するようになる前から、

彼女のことをすばらしいと思っていました。彼女との結婚は人生最良の決断です。」

二人は、1962年11月30日にユタ州ローガン神殿で結婚しました。

あらゆる立場の人を愛する

1963年、ユタ州立大学で政治学の学士号を取得すると、クエンティンとメアリーはカリフォルニア州へ移り住みます。1966年にスタンフォード大学で法学博士号を受けると、クック長老はサンフランシスコ湾岸地域の法律事務所「カー、マクレラン、インガソル、トンプソン、ホーン」に入りました。

クック長老が「自分が何を信じているか、また何者であるかをほかの人に伝えなければならぬ」と決意したのはこのときでした。ビジネスや健康業界で法律の仕事をしていると、高い教育を受けた裕福な人々と交わります。クック夫妻の息子のラリーは、父親が職場でも地域社会でも深く尊敬されていたことに感動したと、当時を振り返って語ります。「父が法律事務所を退職し、またヘルスケア・システム社の役員から退くとき、わたしは父の退職記念パーティーに同席しました。ともに働いた人々が次々と進み出て、父の存在の大きさについて、そして父からどれほど学び、育てられたのか、また父が時間や労力を惜しまず、無私の心で自分たちの仕事をどれほど助けてくれたかということ、しばしば涙声で語ったことに驚いてしまいました。しかもその中に教会員は一人もいなかったのです。」

クック長老夫妻はカリフォルニア州で子供たちを育てた(左と下)。またこの地域でビジネスと健康業界の法務に携わった。上——サター・ヘルス社の共同経営者バン・ジョンソンとともに。左ページ——高校時代、クック長老はボーイズ・ネーションに選ばれ(訳注——合衆国の49の州の高校2年生から二人ずつが選出され、1週間にわたってワシントンD.C.で政府の業務について学ぶ催し)、「無名戦士の墓」で献花の補佐役を務めた。また、バスケットボールとアメリカンフットボールでもチームの中心選手であった。



同時に、クック長老は教会での奉仕を通して、会員と貴重な交わりを重ねました。文化が大きく異なり、経済状況も実に様々な人々との親交を深めていったのです。長老は、仕事と教会両方の経験を通して、地位も経済力も民族も問わず、すべての人の気持ちを理解し、ともに取り組む能力を伸ばしました。そして、あらゆる人々への愛も強めていきました。

クック長老はビショップに召されました。その後(愛する兄のジョーの下で)ステーキ会長会の顧問として召され、後にステーキ会長になりました。その間、英語で集会を行うワードだけでなく、スペイン語、トンガ語、サモア語、タガログ語、北京語、広東語を話す教会員たちとも一緒に責任を果たしました。

教会員の中には、教育をほとんど受けていない人も、経済的に恵まれない人もいました。それでも、彼らは惜しみなく与える人々でした。「わたしの知る偉大な人々の一人」について、クック長老は懐かしそうに話します。パンの配達で生計を立てていたその兄弟が、あるときビショップリックに召されました。ワードの指導者たちが書類かばんを片手に集会へ向かう光景を思い出し、その兄弟は自分も同じようにしようと思ひ立ちました。ところがまだ何も入れるものがありません。そこでその兄弟は、サワー種で焼いたパンをかばんいっぱい詰めて込んで来て、皆に分けてくれたのです。喜んで仕えたいと願うこの謙虚な男性は、ほかの人への愛も兼ね備えていました。

クック長老はこう語ります。「善良な人々から学ぶとき、特別な職業に就いているか、あるいは高い教育を受けているかは関係ありません。善良な人々はどこにでもいます。そうしたすべての人から学ぶことができるのです。」

家庭で備える

サンフランシスコ地域で妻とともに3人の子供を育てていたとき、クック長老は、たくさんの仕事や教会の召しを抱えながらも、子供たち一人一人と親密な関係を築くために細心の

注意を払いました。

長老はこう言っています。「これは特に教会で指導者の責任にある人にとって大切なことですが、子供たちとの関係を築くに当たって示さなくてはならないのは、教会

とは無関係な場所でも自分の持つ良い特質を生かすことができるということです。庭作業であれ、スポーツであれ、一緒に行く屋外での活動であれ、良い特質を生かすことができるのです。」

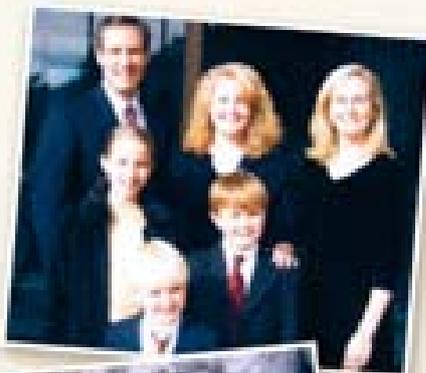
クック家の次男のジョーは、父親が愛を教えるだけでなく、愛を実践する人だったということを思い出しながら、ある経験を紹介してくれました。

ブリガム・ヤング大学で秋学期の期末試験を終えるころ、父親は、ジョーがサンフランシスコまで車を運転して帰ることを心配していました。12月も下旬で、道路に雪が積もり、運転も大変だろうと言うのです。秋学期が終わった日、寮にいたジョーの部屋をノックする人がいます。ドアを開けると父親が立っていました。交代で運転しようと、わざわざサンフランシスコから飛行機で

来てくれたのです。ジョーは、父親が自分を心の底から愛してくれていることが分かっただけでなく、家に着くまでにいろいろと話し合いながら素晴らしい時間を過ごすことができたと話しています。二人は様々な福音の原則について話し合い、救い主について何度も証しました。父親と話し合ったことで、若いジョーは心の中で、自分がどんな証を求めているのか、また、将来どんな父親になりたいのかを具

体的に思い描くことができたのです。

クック長老は、父親に倣って、自分の子供たちにも目標を立てることと、行動や取り組み方がどのように目標達成に影響を与えるか考えることを教えました。またクック家族としての目標も立てました。その目標は福音に焦点を当てることを第一としています。クック長老は、もし家族が、家族の祈り、家族の聖文学習、定期的な家庭の夕べなどを通して適切な形で信仰を実



践できれば、どんな環境にあっても子供たちを義のうちに育てることができると信じています。

一人一人が個人的に信仰を実践することが鍵だとクック長老は語ります。「子供部屋の前を通るとき、子供たちが聖文を研究したり、ひざまずいて祈っていたりする姿を目にすること以上に、父親のわたしにとって大切なことはありません。」

「家族で信仰を実践し、その結果子供たちが次のことを理解するとき、つまり救い主についての証を持ち、義にかなった生活をするの方が、職業や教育といった人生の目標よりも大切であるということが分かるとき」個人の信仰の実践はより容易になるのです。

仕える備えをする

カリフォルニア州での30年間で、クック長老は、仕事でも教会でも大きな責任を幾つも果たしました。法律事務所では、一般職員から共同経営者となり、ついには最高経営者になりました。その後、カリフォルニア・ヘルスケア・システム社に移り、会長兼最高経営責任者(CEO)に就任しました。そして、後にこの会社と合併するサター・ヘルス社でも副会長を務めました。

この間、クック長老は地区代表、地域幹部として奉仕し、1996年には七十人第二定員会の一員として召しを受けます。そして1998年には第一定員会に召されました。

中央幹部として、クック長老はフィリピン/ミクロネシア地域会長会で奉仕し、さらに太平洋諸島地域と北アメリカ北西地域では会長として奉仕しました。長老の持つ、世界中の忠実な聖徒たちを愛する気持ちはいっそう深まりました。

クック長老は、宣教師管理部の管理ディレクターとして、新しい宣教師用引き『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の作成に当たって重要な役割を果たしました。しかし、長老はそれを自分の手柄にするような人物ではありません。「そこには、最初の日から主の手がありました。大管長会と十二使徒会の一人一人が、多大な貢献をしてくださいました。」



進んで行く心構え

クック長老は、十二使徒定員会で奉仕をする備えが十分にできています。ほかの人々から喜んで学ぼうとする姿勢、そして長年にわたる無私の奉仕のおかげで、心と進んで行く精神を主に差し出すことができるのです。

長老はこう語ります。「わたしは、これまで使徒として召されてきたすべての方々を称賛し、支持し、敬ってきました。彼らから強い影響を受けてきました。わたしがどのようにお役に立てるのかは分かりません。しかし、わたしは、イエス・キリストが救い主であられること、神がわたしたちの天の御父であられること、ジョセフ・スミスがこの神権時代の預言者であること、そして今日、わたしたちに預言者が与えられていることを確かに知っています。その知識はわたしの人生の中核なのです。」

この知識は、引き続き、使徒として務めを果たすクエンティン・L・クック長老の中核であり続けることでしょう。■

妻のメアリーについてクック長老は「彼女との結婚は人生最良の決断でした」と語っている。下——十二使徒定員会の一員として支持された2007年10月の総大会の部会終了後。左ページ——クック長老ご夫妻の子供と孫たち。



質疑応答

「友達が、『イエス・キリストは道徳上の偉大な教師であるが、救い主や神の子ではない』と言うとき、どのように答えたらいいでしょうか。」

『リアホナ』からの提案

まずイエス・キリストについてのあなたの証を短く述べてもよいでしょう。主が道徳上の偉大な教師であられたことについてあなたも同感だということを友達に伝えてください。しかしそれだけでなく、あなたが聖文を信じていることも伝えましょう。聖文はイエスが救い主であり神の御子であることを証しています。自分にはそのような証があるので心が安らぎ、自信を持てることを説明してください。あなたの友達も、望むなら同じことを知ることができると伝えましょう。もし友達が興味を示さなければ、それ以上話しても納得してもらうのは非常に難しいでしょう。明るく話題を変えてください。

もし友達が真理を知りたいと望んでいるなら、あなたの証によって友達が興味を持ち、自分自身で証を得る方法をあなたから教わる機会がやって来るかもしれません。真理を知るには、聖文を研究し、ほかの人の証を聞き、聖霊が真理を明らかにしてください。学んだことについて誠心誠意祈る必要があります。友達が一步踏みだせるよう、まずは次の事柄について証を述べるとよいでしょう。

1. 天の御父は、イエス・キリストが御自身の御子であることを自ら証しておられます(マタイ 3:17; 17:5; 3 ニューファイ 11:7; モーセ 6:

聖文を研究し、
信仰を込めて祈り、
主の教えに従って生きる
ように努めることで
証を得るように、
友達に勧めましょう。

救い主について教え、
証している聖句を
友達に紹介しましょう。

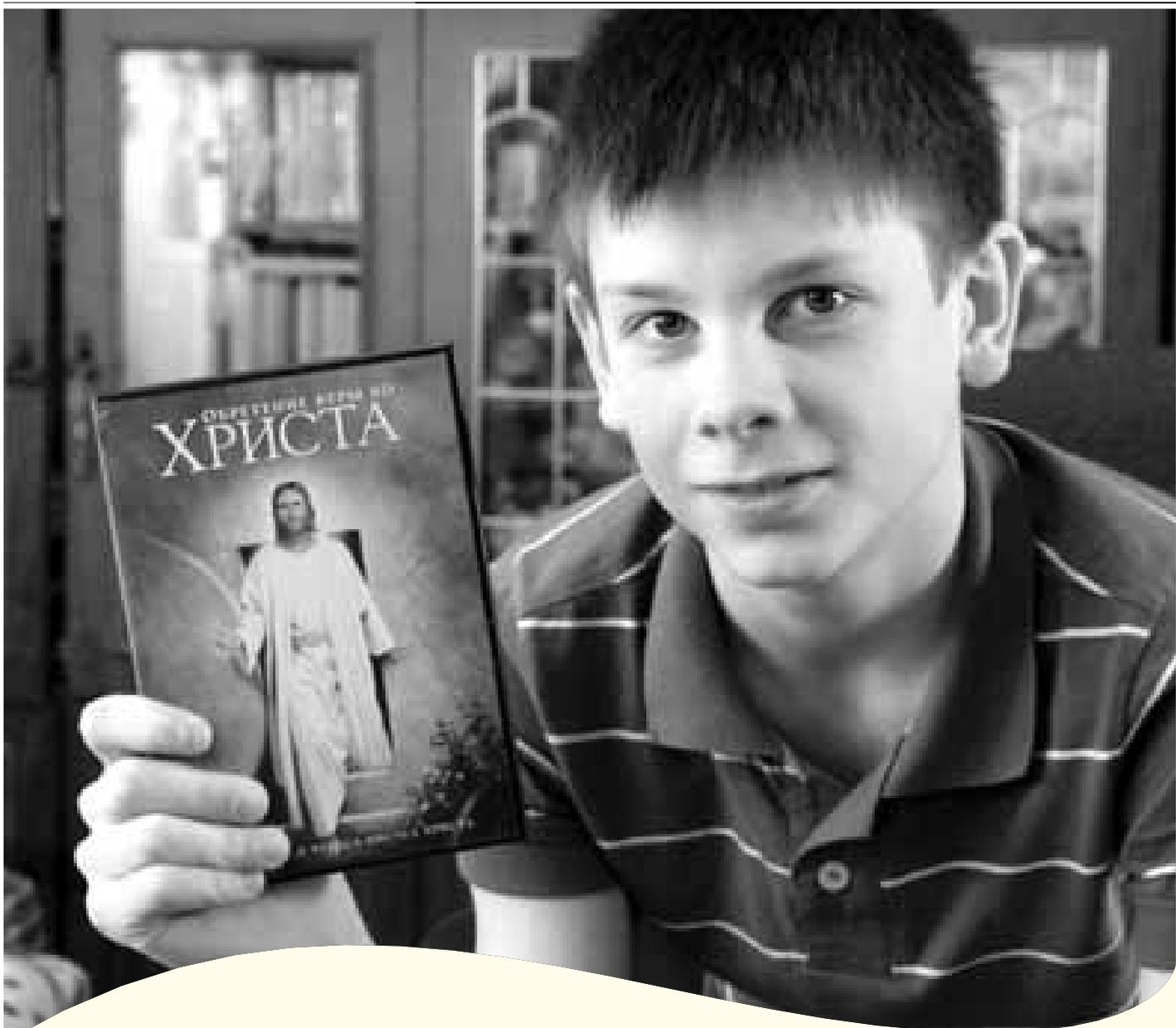
友達の意見を尊重しましょう。
「彼らがどのように、
どこで、何を礼拝しようと、
わたしたちは
それを妨げない。」
(信仰箇条 1:11)
しかし同時に、
イエス・キリストについての
あなたの証を彼らに
伝えるようにしましょう。

教会発行のDVD
『キリストへの信仰を
見いだす』(アイテム番号
54041 092)は
日本の配送センターまたは
<http://www.ldscatalog.com>
で入手できます。

52, 57参照)。最も新しい出来事は1820年のジョセフ・スミスの経験です。ジョセフ・スミスは天の御父が救い主を指してこのように言われるのを聞きました。「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい。」(ジョセフ・スミス—歴史 1:17)

2. もし、イエスが道徳上の偉大な教師であられたことを友達が信じるなら、主の教えと証を調べるように勧めてみましょう。イエスの次の言葉は、救い主以外はだれも口にするできません。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。」(ヨハネ 11:25) 主が道徳上の教師であられるなら、当然真理をお教えにならなければなりません。主は自らこのように証されました。「わたしは神の子イエス・キリストである。」(3 ニューファイ 9:15)

3. 預言者たちも救い主について証しています。例えば、使徒ペテロはこのように証しました。「あなたこそ、生ける神の子キリストです。」(マタイ 16:16) 友達に総大会の説教を聞くように勧めるか、『リアホナ』2008年3月号を渡してください。イエス・キリストの特別な証人である生ける使徒と預言者は、3月号の『リアホナ』と総大会を通してイエスが救い主であり神の御子であることを証しています。



読者からの提案

最後に、救い主はなぜ人類にとって必要であるかを友達に話してもよいでしょう。罪と死のためにわたしたちは天の御父のもとへ戻ることができないということを説明します。神の御子だけが、赦しと復活を可能にする贖いを成し遂げることがおできになったのです。イエス・キリストの贖いがなければ、わたしたちはこの人生において平安を、また来るべき世において永遠の命を得ることはできません。「わたしたちを救うる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていない……。」(使徒4:12)



わたしなら、イエスは確かに道徳上の偉大な教師であられたと友達に言うと思います。イエスが教えられた最も大切な事柄の一つ

は、主が、約束された救い主であり神の御子であられるということです。うそをついて、このような作り話をする人が道徳上の偉大な教師とは考えられません。友達に、自分自身で主が正直な御方であるかどうかを判断することになるでしょう。わたしは、イエスが、自ら告げたとおり神の御子であられると信じています。祈りと聖文を研究することによってそ

の自分を自分自身で知りました。わたしなら、友達にも同じことをするよう勧めると思います。

アメリカ合衆国、アリゾナ州、
ジェーコブ・J、13歳

ある日、友達と一緒にいると、その中の一人が、イエス・キリストは多くの人が言っているような御方ではない、聖書はだれでも書くことができたと言いました。わたしはこのように答えました。「わたしは聖書に書かれていることが真実だと知っているわ。ほんとうに知っているの。」このときほど御霊を強く感じたことはありません。

ません。だれも口を開こうとしませんでした。その友達は、わたしが知っていることを自分も知りたいと言いました。証を得る方法を伝える絶好の機会となったのです。天の御父に導かれ、主の手に使われる道具となれるよう祈りましょう。証をすることを恐れてはなりません。

パラグアイ、アスンシオン、ラウラ・R、20歳



友達に教会のDVD『キリストへの信仰を見いだす』を見せましょう。イエス・キリストが神の御子であり、イエスが無限の贖罪を成し遂げられたことを知るようになった人をわたしは何人も知っています。そして証を述べましょう。証をすると、聖霊を通して霊的な確認がもたらされるからです。

フィリピン・マニラ伝道部、マホンレイ・アダ長老、22歳

質問にあるような状況では、イエス・キリストが確かに救い主であられるかどうかと議論したり、自分の主張を押し通したりしない方がよいでしょう。わたしなら事実を伝えるのと同時に、イエスが救い主であり神の御子であられることを証しながら説明してみようと思います。神は必ずあなたを支えてくださいます。そしてきっと、御霊の助けによって正しい考えが浮かび、言うべき言葉を見つかることができるでしょう(ヘブル10:15-16;3ニーファイ28:11参照)。

ロシア・ウリヤノフスク、エレナ・F、19歳



キリストについての自分の証を伝えてはどうでしょうか。自分が信じていることを伝え、聖書の言葉を紹介することもできます。もし友達が興味を示さなくても気にせず、そのことで自分の証が弱まらないようにすることが大切です。

アメリカ合衆国、アリゾナ州、コートニー・C、16歳

わたしなら議論は避けます。そして救い主についての自分の証を伝えます。証することによって、主が亡くなってよみがえられただけでなく、悔い改めができるようわたしたちのために苦しまれたということを友達が理解できるように助けたいと思



「この御方は真理の教師ですが、教師以上の御方であられることを証します。この御方は完全な生活の模範を示されましたが、模範者以上の御方です。この御方は偉大な医者ですが、医者以上の御方です。この御方は文字どおり、世の救い主、神の御子、平和の君、イスラエルの聖者、復活された主です。」

トーマス・S・モンソン大管長
「個人の影響力」
「リアホナ」2004年5月号、23

います。主は、御自身のもとにわたしたちが戻り、ともに永遠に住むための方法を模範によって示してくださいました。また、モルモン書がイエス・キリストについてのもう一つの証であることを友達に知らせましょう。

チリ、タラガンテ、クリストファー・F、18歳

救い主について証することを決して恐れてはいけません。イエス・キリストが神の御子であり、わたしたちの罪のために確かに命を捨てられたことを知っていると友達に証しましょう。御霊はその友達に、主がキリストであり、救い主、世の贖い主であられることを証してくれるでしょう。あなたの証を聞いて、友達は主が実際にどのような御方であられるかを知ることができるかもしれません。

アメリカ合衆国、ネバダ州、チエルシー・N、18歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

質問

「わたしの両親は教会に活発に出席していません。両親の支援がなくても信仰を強く保つにはどうしたらよいでしょうか。」

あなたの意見を聞かせてください。2008年5月15日必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先——

Liahona, Questions & Answers 5/08
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メールアドレス——

liahona@ldschurch.org

電子メールまたはお手紙には、以下の情報と署名入りの許可文を必ず明記/同封してください。

氏名

生年月日

ワード(または支部)

ステーク(または地方部)

意見と写真の掲載を許可します。

署名

親の署名(18歳未満の場合)

男女の間の結婚は神によって定められたものである



訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や言葉をお教えください。その教義について証してください。あなたが教える人々に、感じたことや学んだことを分かち合うように勧めてください。

男女の間の結婚が神によって定められているのはなぜでしょうか。

教義と聖約49：16-17—「彼ら二人〔は〕一体となる……。これはすべて、地がその創造の目的にかなうためであり、世界が造られる前の人の創造に応じて、地が人の数で満たされるためである。」

中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック—「わたしたちは家族が永遠の存在となれることを信じています。それは結婚が正しいことであると信じるという意味です。」「前世での大きな戦いで、わたしたちは救い主イエス・キリストの側につきました。それは、永遠の家族の一員となるという可能性を守るためでした。」「〔末日聖徒の女性が秀でている事柄—力強く確固として立つ〕『リアホナ』2007年11月号, 110)」

十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー長老—「永遠の結婚が御父の計画の中でどうしても欠かせないのはなぜかを理解するのに役立つ、力強い教義的理由が二つあります。」

理由1—男性の霊と女性の霊は、互いを完成し合う性質を持っている。だからこそ、男女は、昇栄に向かって

一緒に進歩するように意図されているのである。……

理由2—神の計画により、死すべきこの世に子供をもたらし、最良の環境の下で養育するには、男性と女性の両方が必要である。……

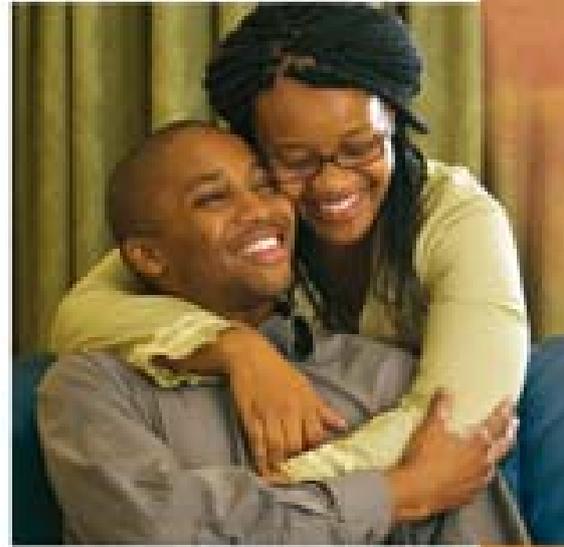
男性、女性、夫、妻、また教会の指導者として最も大切な責任は、若い兄弟姉妹が義にかなった結婚について学び、その備えができるように、模範を通して助けることです。ふさわしさ、誠実さ、犠牲、結婚聖約を尊ぶ姿勢の模範を見ると、若い会員たちは、……同じ原則を取り入れたいくなります。……模範の大切さについて考えてきましたが、わたしたちは今、改善すべき点を各自で自覚しているでしょうか。」「〔結婚—神の永遠の計画に不可欠なもの〕『リアホナ』2006年6月号, 50-52, 54)」

結婚が神によって定められていることを知る者として、わたしにはどのような責任があるのでしょうか。

十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン長老—「夫婦のきずなを強める……行いについて、一緒に考えましょう。」

『感謝する』……それぞれの長所を探し、真心から褒め合〔いましょう。〕……

二つ目の提案——……『理解し合う』……夫婦は、互いに意見を述べ、話し、相手が言うことに耳を傾けるために、二人だけの時間が必要です。協力し、同等のパートナーとして助け合う必要があります。……



3つ目の提案は『熟慮する』ことです。……神殿に度々参入し、家族で定期的に聖文研究をするなら、夫婦のきずなをはぐくみ、家族の信仰を強めることができます。」「〔結婚のきずなをはぐくむ〕『リアホナ』2006年5月号, 37-38)」

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット長老—「あなたが従順にイエス・キリストを信じる信仰を保ち続け、幸福の計画全体を理解するなら、現時点の生活でたとえその重要な部分が成就できていなくても、主がふさわしいと認められる時機に、それらはあなたのものとなります。またさらに約束します。今の境遇の中であなたは意義ある成長を遂げ、幸福になることができます。神の娘または息子として、計画のどの部分でもあなたに実行できる箇所を実践し、最善を尽くしてください。」「〔偉大な幸福の計画を实践する〕『聖徒の道』1997年1月号, 85) ■

神の 計画により

わたしたちは、家族が神によって定められたものであると信じています。預言者から与えられた指針「家族——世界への宣言」には、わたしたちの持つ、家族についての考え方が明確に示されています。

「わたしたちの方で皆さんに警告したいことがあります。現在起こっていることと、これから起こることの両方に対する警告です。今の世の中には、真理という仮面をかぶった詭弁があふれており、倫理基準や価値観に対する欺瞞が跡を絶たず、じわじわと世の汚れに染めていこうとする誘惑があまりにも多いからです。このことを踏まえて、わたしたち大管長会と十二使徒評議会は、教会員ならびに一般の方々に向けて一つの宣言を発表いたします。これは、わたしたちの教会の預言者、聖見者、啓示者が歴史を通じ繰り返し述べてきた、家族にかかわる標準と教義とその運用についての宣言を再確認するものです。」¹

この言葉とともに、ゴードン・B・シンクレイ大管長(1910 - 2008年)は1995年9月23日、ユタ州ソルトレーク・シティーで開かれた中央扶助協会の集会で「家族——世界への宣言」²を発表しました。

大管長は次のように強く促しています。「わたしたちは、すべての方がこの宣言を入念に、よく考えながら、祈りを込めて読んでくださることをお勧めいたします。いかなる国家であろうと、その強さは家庭という囲いの中に根ざしているのです。わたしたちは、世界中に住むわたしたちの民が、時を超えて生き続けるこの価値観ののっとなって家族を堅固なものにするようにと、強くお勧めいたします。」³



「家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。」

この記事では、アジアの人々を描いた絵や写真などを紹介します。アジアの文化は「密度の濃い、献身的な家族のつながり」で知られています。また、「年長者への敬意があり、子供には高い標準を要求する」⁴こともこの文化の特長です。これらの写真や絵に登場する人々の様子は世界中の末日聖徒に共通するものであり、家族の宣言に述べられた重要な教えを表しています。



「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。

『子供たちは神から賜わった^{たま}嗣業であり』(詩編127:3)とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合[う]……ように教えるという神聖な義務があります。」



家庭の夕べがもたらす家族の祝福

「6年前、わたしは東京へ引っ越しました。家庭の夕べのおかげで、自分が福音の家族の一員であると感じています。最初はルームメイトと二人で開いていました。その後、独り暮らしをするようになると、毎週月曜日に自分で家庭の夕べをしました。聖文を読んだり、日曜日のレッスンを準備したり、教会のビデオを見たりしました。

今、わたしたちのワードでは、毎月1度、日曜日の集会の後に、独身会員のための合同家庭の夕べを開いています。とても楽しみにしています。教会の召しの関係でなかなか知り合う機会がない兄弟姉妹と話することができます。

わたしたちのステーキには、独身会員が

毎週、合同家庭の夕べを開いているワードがあります。最近わたしも出席するようになりました。時々、宣教師や求道者も出席します。毎週行われるレッスンはよく準備された霊的なもので、たくさんのことを学びます。学んだことについて考え、「よし、やってみよう!」と思うことがよくあります。リフレッシュメントの間に、皆と話すのが楽しみです。

同じ信仰を持つ仲間とともに時を過ごすのは、わたしにとって大切なことです。まさにモーセ書第7章18節のとおりです。「主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心を一にし、思いを一にし、義のうちに住んだからである。そして、彼ら

中に貧しい者はいなかった。」心と思いが一つになると、わたしたちのうえに多くの祝福が注がれます。そのようにして、家庭の夕べに参加する一人一人の信仰と証が強まるのです。

主がわたしたちを愛しておられることを知っています。わたしたちの預言者と、絶えざる啓示に感謝しています。主が預言者を通して家庭の夕べを与えてくださったことに感謝しています。独身の末日聖徒の女性として、家庭の夕べを通して経験し学ぶことは、自分の家族を持つときにも祝福となるでしょう。

日本、東京
高橋美恵子



「神の計画により、
父親は愛と義をもって
自分の家族を
管理しなければなりません。
また、生活必需品を提供し、
家族を守るという
責任を負っています。
また母親には、
子供を養育するという
主要な責任があります。
これらの神聖な責任において、
父親と母親は
対等のパートナーとして
互いに助け合うという
義務を負っています。」

注

1. 「世の策略に対抗して立つ」『聖徒の道』1996年1月号, 113
2. 『リアホナ』2004年10月号, 49
3. 「世の策略に対抗して立つ」『聖徒の道』1996年1月号, 114
4. "The Asians at Berkeley," *Wall Street Journal*, 1995年5月30日付, A14, 「世の策略に対抗して立つ」『聖徒の道』1996年1月号, 112で引用



価値ある音楽、 価値ある思い

十二使徒定員会会長
ボイド・K・パッカー会長

わたしが子供のころに住んでいた家は果樹園に囲まれていました。果樹園はいつも水不足に悩まされていました。毎年春になると、用水路を掘り起こすのですが、すぐに雑草で埋まってしまうのです。ある日、当番で用水路から水を引いていたわたしは、大変な事態に出くわしました。水路が雑草でふさがれていて、水が四方にあふれそうになっているのです。わたしはぬかるみに



つかって、水路に堤防を築き始めました。ところが、1か所で堤防を作り終えると、すぐにまたほかの箇所から水があふれてしまうのです。すると近所の人々が果樹園の中を歩いてこちらへやってきました。そして少しの間わたしの様子を眺めた後、シャベルで勢いよく土をかき出して雑草を取り除きました。すると水は水路を流れ始めました。その人はこのように言いました。「水路から水があふれないようにするには、流れる道を作ってやらなくちゃいけないよ。」

わたしは、水と同じように、人の思いも、流れる道を作ってやればそのとおりに進むということが分かるようになりました。もしそうしなければ、わたしたちの思いは、最も抵抗の少ない道を、常により低い所に向かって流れて行くのです。恐らく、わたしたちがこの世で遭遇する最大の課題と困難は、自分の思いをコントロールすることです。聖書にはこのように記されています。「ひととなりは、その心に思うそのままである。」(欽定訳箴言23:7から和訳) 思いをコントロールできる人は、自分自身を治められる人です。

思いは舞台のようなもの

思いをコントロールできるようになると、悪い習慣を克服できるようになります。自分を堕落させるような個人的な習慣でさえも克服できるのです。勇気を持ち、恐れに打ち勝ち、幸福な人生を送ることができます。成長する過程で、



水と同じように、
人の思いも、
流れる道を作ってやれば
そのとおりに進みます。
思いをコントロール
できるようになると、
勇気を持ち、
恐れに打ち勝ち、
幸福な人生を送ることが
できます。

現代の
ふさわしくない
音楽で
心を満たすようなことが
あつてはなりません。
これは危険なことです。
そうした音楽は
心の舞台に
ふさわしくない考えを
招きます。

わたしは思いをコントロールしなければならぬと何百回も言われてきました。しかし、その方法はだれも教えてくれませんでした。長年の間、このことについて考え続けた結果、人の思いは舞台のようなものだと思うようになりました。眠っているとき以外は、この舞台の幕はいつも上がっています。そこでは絶えず何かが演じられています。喜劇や悲劇、おもしろいものやつまらないもの、良いものや悪いものもあるでしょう。いずれにしても、皆さんの思いという舞台では、常に何かが演じられているのです。

必ずと言っていいほどいつも、不潔で小さな思いが、知らないうちに舞台のそでから忍び込んで来て、皆さんの注意を引こうとするのに気づいたことがありますか。これらの悪い思いは、ほかの役者よりも目立とうとします。もし登場させたままにしておくと、良い思いはことごとく舞台を降りてしまいます。そして、皆さんは不義な思いの影響をまともに受けてしまいます。それは皆さんが悪い思いを退場させなかったからです。思いの舞台を明け渡しおくかぎり、悪い思いは皆さんの忍耐の限界まで何でも自由奔放に演じます。悲しみ、嫉妬、憎悪をテーマにした舞台もあれば、下品、不道德、墮落などのテーマもあるでしょう。これらの思いが舞台を占領していると、つまり皆さんが舞台を占領させたままにしておくと、それは皆さんの興味を引き続けるために、非常に巧妙な手段を考え出します。確かに、これらの悪い思いは魅力的な舞台を演じる力を持っています。そして、ただの思いであるから悪いことではないと信じ込ませることさえあります。限りなく白く見える灰色の思いであろうと、疑いの余地のない不潔な思いだろうと、思いの舞台が清くない小さな悪魔に占領されているようなとき、皆さんはどうすればよいのでしょうか。清く、前向きな思いで心を満たすのです。そうすれば、しつこい悪魔も入り込む場所がなくなり、退散するでしょう。

思いはどのようにコントロールすればよいのでしょうか

現代社会では、心を価値ある思いで満たしておくことが難しい

ときがあることは承知しています。注意深くコントロールしなければなりません。しかし、思いを流れ込ませる安全な場所を作ってやればそれも可能です。この安全地帯を作る方法を見つけたので、皆さんに伝えたいと思います。それは音楽、つまり価値ある音楽の助けを借りる方法です。ある賢人は次のように言いました。「音楽



は、人の心を治めるうえで最も強力な手段の一つである。」音楽が人の思いを正しい方向に向けるか、それとも間違った方向に向けるかは、その音楽が思いの舞台に何を登場させるかで決まるのです。霊的な感動を与え、いっそう気高い観点で自分自身を見させてくれるように感じる歌は、価値ある音楽です。単に楽しくて、聴くと元気になるものでも良い音楽と言えます。しかし、肉欲や官能をかき立てたり、不義な思いを抱かせたりするような音楽であれば避けるべきです。それはふさわしくない音楽です。

世の中には常に、自然や文学、演劇、芸術などの美しいものを汚す人がいます。もちろん音楽に関しても同じことが言えます。昔からはっきりと分かっていることは、美しいメロディーでも好ましくない歌詞が付いていれば、人を迷わせるということです。また、メロディーそのものも、演奏方法やリズム、音量によっては、霊的な感受性を鈍らせることがあります。

現代社会は気づかぬうちに変化しています。しかしその力は大きなものです。今の社会では、娯楽という枠の中で受け入れられてしまうものが増えています。その結果、今日人気を集める音楽家たちが演奏する音楽の多くは、心を和ませるよりも刺激を与え、落ち着かせるより興奮させることが目的となっているようです。中には公然と不義な思いや行動を勧める音楽家もいます。

若人の皆さん、現代のふさわしくない音楽で心を満たすようなことがあってはなりません。これは危険なことです。そう

した音楽は心の舞台にふさわしくない考えを招き、その考えはふさわしくない音楽が流すリズムとテンポによって踊るのです。そうなると皆さん自身もそれに合わせて行動しかねません。だらしない服装をさせたり、不遜な態度を執らせたり、不道德や、何らかのものへの依存症を引き起こしたりすることもある激しい音楽に触れていると、皆さんの品位も落ちていきます。そのような音楽は、皆さんにふさわしくありません。

皆さんが聞いたり、作ったり、歌ったりする音楽を慎重に選んでください。音楽は皆さんの一部になります。皆さんの思いを操作し、ほかの人の人生にも影響を与えます。皆さんが親しんでいる音楽を総点検し、下品な思いを抱かせるものは捨てるように勧めます。そのような音楽は、霊的な成長を願う若人が近づきものではありません。

今日の音楽のすべてが悪い思いを抱かせると言っているわけではありません。互いの理解を深める音楽や、勇気を奮い立たせる音楽、霊性、敬虔な思い、幸福感を呼び起こし、美しいものに思いを向けさせてくれる音楽もあるのです。

今日の音楽のすべてが悪い思いを抱かせると言っているわけではありません。互いの理解を深める音楽や、勇気を奮い立たせる音楽、霊性、敬虔な思い、幸福感を呼び起こし、美しいものに思いを向けさせてくれる音楽もあるのです。

霊感を与えてくれる音楽を選ぶ

主は次のように言われました。「わたしは心の歌を喜ぶからである。まことに、義人の歌はわたしへの祈りである。それに対する答えとして、彼らの頭に祝福が注がれるであろう。」(教義と聖約 25:12) 音楽がわたしたちの

人生に及ぼす影響について、大管長会は次のように述べています。「音楽という手段を用いると、人は繊細さと説得力の両面において、話すときよりも上手に自分自身を表現することができます。音楽は人を高め、鼓舞することができる一方、品位を落とし、破滅に導くメッセージを伝えることもできます。したがって、わたしたち末日聖徒は、身近に接する音楽を選ぶとき、いつも福音の原則に照らして検討し、御霊の導きを求めることが大切なのです。」¹

指導する召しを受けている若人の皆さん、活動で用いる音楽に注意を払ってください。音楽を選ぶ際にはアドバイザーの助言を求めてください。皆さんには彼らの知恵が必要です。世の中には過激な音楽がはびこっており、今日、教会と世の中との間には、過去になかったほど広い隔りがあるからです。





教会の偉大な指導者であったJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長(1871 - 1961年)は、次のように説明しています。「責任を受けているわたしたちは、教会が与えなければ若人は別の場所で求めるからという理屈をつけて、不健全な娯楽を提供したり黙認したりすることはできません。教会で用意しなければ若人が賭博場へ行くかもしれないという理由で、教会の文

化ホールにルーレット台を置くことができるでしょうか。このような方法を取っても、真の意味で若人を教会に引き止めることはできないのです。」

世の若者の歓心を買うような音楽を与え、そうした雰囲気を作りだすことも正しくありません。皆さんは確固としていなければなりません。正しくて良いと分かっていることについて、決して妥協するようなことがあってはなりません。価値ある思いに結びつかない雰囲気を生むものだと判断したら、部屋を明るくし、音楽を止める勇気を持たなければなりません。活動や集会の参加者、そして演奏者の服装と演奏内容についても必ず高い標準を維持するようにしてください。

皆さんの才能を伸ばすよう勧めます。もし音楽の才能があれば、次のことを考えてみてください。——まだ作曲されていない、演奏されていない音楽がたくさんある。わたしは、精神を高め、福音を広め、心を動かし、悩む心に慰めと力を与える価値ある音楽を作り、演奏することができる。

古代、現代を問わず、義にかなった音楽の持つ影響力を証明する事例は数多くあります。開拓者は、試練に遭ったときに「恐れず来たれ、聖徒」の歌詞を通して落胆した気持ちを奮い立たせ、平安に満たされました。この賛美歌は、長年にわたって多くの人に靈感を与えてきました。あるとき、わたしは危険な飛行

を終えたばかりのパイロットと話す機会がありました。勇気や恐怖について話していたとき、そのパイロットに、そのような危険な状況でも恐れず冷静でいられたのはどうしてかと尋ねました。彼はこう答えました。「わたしには好きな賛美歌があります。もう絶望だと思ったとき、また無事に帰還する望みが消えなかったときも、心



の中でこの賛美歌を歌い続けました。すると、まるで飛行機のエンジンと一緒に歌ってくれているかのように聞こえました。」

恐れず来たれ、聖徒
進み行けよ
その旅は辛くとも
恵みあらん²

このようにして、そのパイロットは信仰にすぎたのでした。この信仰こそが勇気を生む源なのです。

主も、最大の試練の前に、音楽の力を通して御自身を備えられました。聖文にはこう記されています。「彼らは、さんびを歌った後、オリブ山へ出かけて行った。」(マルコ14:26)

好きな賛美歌を選ぶ

若人の皆さん、忘れないでください。この教会は皆さんの教会です。そして、この教会を導いておられる御方は、皆さんの主であり、救い主であられます。心を常に善と美と靈感をもたらす事柄で満たしていれば、皆さんは絶えず主

の導きと靈感を受けられるのです。一つの方法を紹介します。パイロットであるわたしの友人がしたように、好きな賛美歌か歌を1曲選んでください。心を高める歌詞、敬虔なメロデー、靈感と似たような気持ちになる歌を選んでください。



そうした美しい曲はたくさんあります。選ぶときは御霊の導きを求めてください。注意深くその曲を聴き、歌詞を読み、心の中に思い浮かべてください。そして、暗記してください。音楽をきちんと学んだことがなくても、簡単な歌の歌詞をじっくりと味わうことはできます。これで思いを流す水路の完成です。これを皆さんの緊急時の水路としてください。

怪しい役者が皆さんの思いの端から舞台に忍び込んで来たら、心の中でその歌を歌ってください。気分が一変するでしょう。

その音楽は心を高める、汚れのないものなので、不純な思いは恥じ入って逃げ出して行きます。なぜなら、美德は決して汚れと交わろうとしない一方で、悪も光の前に耐えることができないからです。やがて皆さんは、覚えた歌をほとんど無意識に心の中でハミングして、ふさわしくない思いを追い払うようになるでしょう。義にかなった価値ある事柄に取り組み、いつも価値ある思いで心を満たすようにするなら、ひととなりはその心に思うそのままであるという言葉のとおり、人生に充足感をもたらしてくれる事柄を成し遂げていく力を得るでしょう。

皆さんは、全能の神の息子や娘です。神がわたしたちの御父であられ、わたしたちが神の子供であることを証します。神がわたしたちを愛しておられ、この人生に偉大ですばらしい事柄を用意してくださっていることを証します。わたしはそのことを知っています。そして、

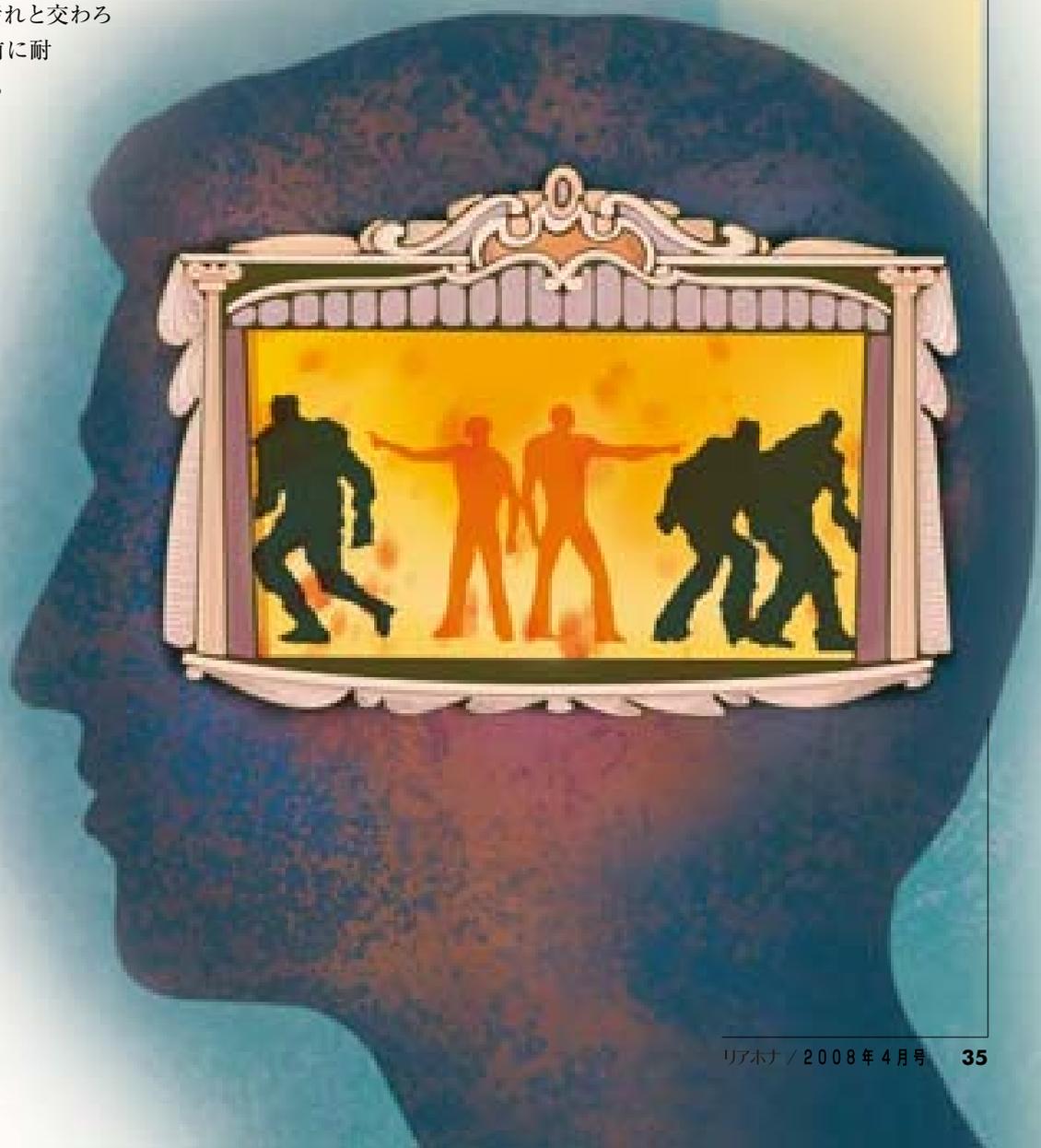
わたしの思いに良い影響をもたらし、霊を高めくれる良い音楽の影響力について主に感謝しています。■

1973年10月の総大会の説教を基に編集。

注

1. Priesthood Bulletin, 1973年8月, 3
2. 『賛美歌』17番

義にかなった
価値ある事柄に
取り組み、
いつも価値ある思いで
心を満たすように
するなら、
人生に充足感を
もたらしてくれる事柄を
成し遂げていく力を
得るでしょう。



賛美歌が持つ 癒しの力

教会員が、どのようにしてシオンの賛美歌から祝福を受けたかを
紹介してくれます。

主の愛が分かりました

わたしにはかつて、道に迷っていた時期がありました。自分で真実だと分かっていた原則から遠く離れていたのです。そのためとても不幸でした。贖いの効力はほかの人に及んでも、あまりにも遠く離れてしまった自分にはとうてい及ばないと思込んでいました。自分には救われる価値がないと思っていたのです。

ある日曜日の朝のことでした。近くのキリスト教会の鐘が「部屋を出る前に」(『賛美歌』78番)という賛美歌のメロディーを鳴らしているのが聞こえました。心を打たれたわたしは、何か月かぶりに御霊を感じました。わたしが御父の愛を感じられるように、そして助けを頂けると言うことが分かるように、天の御父が賛美歌という手段をお使いになったことを悟り、声を上げて泣きました。

悔い改めの道は平坦ではありませんでした。何度もくじけそうになりました。でも、あの日曜日の朝の気持ちを忘れることはできませんでした。しばらくして、わたしは再び活発に教会へ通うようになり、テキサス州ダラス神殿でエンダウメントを受けました。

あの賛美歌を聞くと、心を動かされたあのときのことを今でも思い出します。御父は自分のことなど忘れてしまわれたとっていました。しかし御父は、わたしが受け入れられる方法で御自身の愛を示してくださったのです。

アメリカ合衆国、ニューメキシコ州、
ジェシカ・ブレイクリー

御霊を招きました

わたしも夫も、もっと御霊を感じながら家族で聖文学習をしたいと願っていました。そこで、当時七十人だったジーン・R・クック長老が家族の聖文学習の前に賛美歌を歌うよう勧めたので、そのとおりにしてみようと決めました。10代の息子たちはあまり気乗りしないようでしたが、やってみることは同意してくれました。

翌日、いつも聖文を読む時間の30分前から賛美歌をかけました。すると状況が一変しました。最初に提案したときにいちばん嫌がっていた当時13歳の息子が賛美歌に心を動かされ、この賛美歌を最初から最後まで歌いたい、さらにはほかの賛美歌も歌いたいと言い出したのです! その後、息子は、落胆したり誘惑を受けたりすると賛美歌

に頼るようになりました。

わたしたちは家族の聖文学習のときだけでなく、家庭の夕べや日曜日にも賛美歌を活用しています。

アメリカ合衆国、ユタ州、マーシ・オーウェン

母を亡くして

数か月の間、86歳になる母の体調は悪化の一途をたどっていました。もうあまり長くはないのではないかとわたしは案じていました。夫と一緒にステーキ大会に出席するために、130キロ離れたリールの町へ行く予定を立てていましたが、母の看病のために姉一人を残して行くことが心配でした。

留守中に何事もないよう天の御父に懇願しました。するとすぐ、「主よ、嵐すさび」(『賛美歌』59番)にある「鎮まれ」という歌詞が思い浮かび、恐れが和らぎました。わたしたちは穏やかな気持ちで大会へと向かいました。主が祈りを聞いてくださり、母を見守ってくださるという安心感がありました。

そして帰宅するまで何事もなく過ぎました。

その後しばらくして、姉から電話がありました。夫のイブに、母をベッドに寝かせる手伝いをしに来てほしいとのことでした。ところが、夫が姉の家に着くと間もなく、母は息を引き取りました。

わたしには顔を合わせて伝えた方がいいと思った夫は電話で、姉がひどく取り乱れているとだけわたしに言いました。そして、すぐに迎えに行くので、身の回りのものを用意しておくと言いました。

わたしは母の看病の手伝いでしばらく姉の家に滞在することになるのだろうと思い、スーツケースに荷物を詰め始めました。すると御

霊の導きにより、荷造りはしなくてもよいと感じました。母が亡くなったことが分かったのです。



養いの力



「賛美歌は、霊性を高め、啓示を招き、改心を促すに当たって欠かすことのできない

役割を果たしてくれます。……賛美歌には養いの力があり、それが作り出す雰囲気はわたしたちを改心に導く御霊を招きます。」

七十人 ジェイ・E・ジェンセン長老
「賛美歌の持つ養いの力」
「リアホナ」2007年5月号, 11-12

それでも心は平安でした。ステーキ大会に出かける前と同じ気持ちでした。

イブが家に帰って来ました。どのように話を切り出すべきか悩んでいました。気持ちを察したわたしは、母が亡くなったことはもう分かっていると言いました。

その後も福音の知識が支えとなり、母を亡くした悲しみの中でも姉を慰めることができました。何度も平安を祈り求め、その度に安心感で満たされました。悲しみや苦しみを乗り越えられるよう、天の御父と救い主イエス・キリストが助けてくださるという安心感です。信仰と祈りを通して、聖なる賛美歌にある「鎮まれ」という言葉のように、平安と静けさを得ることができました。

フランス、バドカレー、ニコル・ジェルム

歌が心を静めてくれました

何年も前のことです。家族と一緒にクリスマスイブを過ごすつもりでしたが、内心は不安でした。わたしは教会員になった

ばかりで、家族はわたしが入った新しい宗教に批判的だったのです。車で母を祖母の家へ送っていると、雰囲気はさらに険悪になりました。母がかなり酔っていたのです。母に怒りをぶつきたい衝動に駆られました。いつもなら楽しいはずのクリスマスに、気分は最悪でした。助けを求めて、わたしは静かに祈りました。

気持ちが晴れるよう、車のラジオをつけ、いつも聞いていた人気のある音楽専門局に合わせました。しかしそのとき、ラジオを消してクリスマスの賛美歌を歌うべきだと感じまし

た。歌い始めると母は驚きましたが、穏やかな気持ちになったようでした。そして、何曲かは一緒に歌ってさくれたのです。

わたしの気分もすぐに変わり、クリスマスのほんとうの意味を思い出しました。救い主がわたしたちのために無私の心で命をささげてくださったことを思うと、わたしの悩みは小さく見え、何とかなるだろうと感じました。これまでの人生で多くの祝福を受けてきたこと、喜ぶべき多くの理由があることが分かりました。聖霊がともにいてくださるので必ずうまくいくと思いました。そして、教会をどんなに批判されても、穏やかにこたえられる自信が生まれました。

歌うことによって、問題が消えることはありませんでしたが、前向きな態度で問題に対処できるようになりました。それが大きな変化をもたらしたのです。

アメリカ合衆国、カリフォルニア州、
キンバリー・ハーシ

重荷が取り去られました

1988年のことでした。わたしの事業は行き詰まっていた。ステーキ会長に相談した後、妻とわたしは会社を売却し、ほかの仕事を見つけることにしました。それから幾つも面接を受けましたが、一つも採用には至らず、妻もわたしも落胆の日々を送っていました。安定した収入も得られませんでした。

1年後には貯金も底を突き始めました。堪え難く思える重荷にわたしは意気消沈していました。当時は伝道に出ている息子が一人おり、家には6人の子供を抱えていました。このままでは子供たちを路頭に迷わせるのではと思いました。

このような重荷に悩まされていたある日、心の中であるメロディーを繰り返していることに気づきました。数日

前からのことでした。すぐにそれは賛美歌であることが分かり、歌詞に思いをはせていると、御霊がわたしを慰めてくれました。

弱きを悟りて 慎む者みな
主は導きて 祈りにこたえん
(「高ぶりを慎み」『賛美歌』71番)

その直後、重荷が取り去られたような気がしました。天の御父がわたしの状況を御存じであることが分かりました。数年にわたって経済的に苦しい状態が続いていましたが、主の御心を行うように努めていけば、正しい決断ができるよう主が導いてくださることを知り、慰めを得ました。

わたしたちは家族で別の町へ移り住み、ようやく新しい事業を始めました。周りの人たちの助けのおかげで、家を購入し、仕事も軌道に乗りました。

あのときの経済的な試練は過去のものとなりましたが、賛美歌のメロディーが心に浮かぶと、今でもわたしは耳を澄まします。天の御父は聖なる音楽を通して、度々祈りにこたえてくださることを学びました。

アメリカ合衆国、アイダホ州、ウォーレン・C・ワソム

どうすれば歌えるというのでしょうか

何年も前、わたしの母は自動車事故で亡くなりました。相手の車は飲酒運転でした。ショックを受けたまま、わたしは飛行機で両親の家へ向かい、けがをした父、そしてきょうだいと一緒に葬儀の準備を手伝いました。

自宅に戻って間もなく、初等協会の音楽指導者に召されました。歌の準備をしていると、気持ちがふさいでしまい、自分にこの責任を果たす力があるかどうか分からなくなりました。「熱意と明るさがなければ、初等協会の音楽

指導者は務まらない。」わたしは心の中でつぶやきました。今は悲しみしか感じません。子供たちを励ましたくても、逆に嫌な気持ちにさせてしまうと思いました。悲しみで胸が痛みました。気持ちの晴れる日が再び来るのかどうかすら分からず、歌う気分になどなれるはずがありませんでした。

新しい召しを初めて果たす前日、結び固めを受ける友人とともに、夫とわたしは神殿に参入しました。セッションが始まる前に、神殿の礼拝堂に招かれました。開会の賛美歌を歌い、祈り、神殿の人の話を聞きました。開会の賛美歌「いとやさし」(『賛美歌』70番)を歌っていると、歌詞が心にしみ込んできました。

疲れし身の
倒るべきや
急げ、御父のもと
安きを得ん

わたしは自分自身が「疲れし身」であり、主の聖なる神殿の中で、「安き」を得ていることに気づきました。第4節の歌詞はわたし自身に向けられた言葉でした。

神は常に
変わらずあらん
重荷はみもとに
頼みて行かん

そのとき、わたしは母のいない寂しさの中でも、あらゆる召しを果たすことができること、また喜びを得られることを知りました。救い主が重荷を背負ってくださることを知ったわたしは、歌えるようになったのです!

アメリカ合衆国、アイダホ州、
シェリ・ストラトフォード・エリクソン ■

神殿の儀式を受ける 備えをする

中央若い男性会長

チャールズ・W・ダークウィスト2世

子 供のころ、アランダおじいさんと一緒に、よく近所の墓地に散歩に出かけました。わたしは祖父との散歩が大好きで、一緒に歩いていると特別な気持ちになりました。しかしなぜそのような気持ちになるのかはまだよく分かっていませんでした。

先日、ペンシルベニア州のサスケハナ川の岸辺を独りで歩きました。1829年の美しい春の朝、バプテスマのヨハネがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現れ、アロン神権を回復した場所です。その出来事を思い巡らしていると、自分が聖なる地にいることを改めて実感しました。長年にわたり、世界中の戦場やほかの神聖な場所を訪れてきましたが、それらの場所でも同じように永遠とのつながりを感じました。





1 常に小冊子『若人の強さのために』にある標準に従って生活し、「清くない場所」を避ける。神殿に入るには、ふさわしくなければなりません。ふさわしくなるには、今、聖なる場所に立つことが大切です。それは、間違った選択をさせようとする誘惑に遭うような時間と場所を避けることを意味します。大管長会顧問であったJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長(1871 - 1961年)が、10代だった娘の話をしてくれたことを覚えています。彼女がダンスに出かけるとき、管長はこう言ったそうです。「楽しんでおいで。12時までには帰って来るんだよ。」彼女は答えました。「お父さん、今夜は卒業記念のダンスパーティーなのよ。みんな明け方まで踊るのよ。」クラーク管長はこう答えました。「みんながそうするのは知っているよ。でも、おまえは12時までに戻らなければいけないよ。」彼女はがっかりして言いました。「お父さん、わたしのこと信じていないのね。」管長は答えました。「正しくない時間に、正しくない場所にいれば、わたしは自分のことだって信用できないよ。12時までに帰っておいで。」³

どこに行くのであれ、皆さんは同じような決断をするのです。どこにしようとも、自分自身にこう尋ねてください。「ここは御霊が宿ることのできる場所だろうか。」もしそうでなければ、勇気を出してその場を離れてください。皆さんの部屋が、(壁にはあってあるポスターも含めて)御霊の宿れない場所ならば、御霊にふさわしい場所に変えてください。若いうちに聖なる場所に立つことを学び、良い友達と付き合うようにしてください。そうするならば、主の宮に入るふさわしさをいつも保つという目標を達成する助けを得られるでしょう。



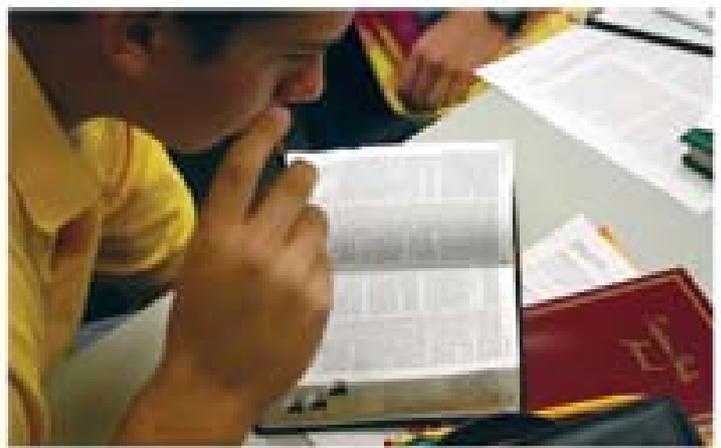
2 家族と良い関係を築き、家族を強める助けとなる。神殿は、家族が永遠になれるということを教えています。わたしたちは家庭を神聖な場所、そして力の源にすることができます。『若人の強さのために』は、次のように教えています。

「家族がいるというのは、とても大きな祝福です。家族がいるおかげで、親しみのある交わりや幸福があり、愛に満ちた雰囲気の中で正しい原則を身に付けたり、永遠の命を得る準備をしたりする助けが得られます。家族全員が同じ性格ではないかもしれませんが、天の御父の計画では一人一人皆大切です。

幸せな家庭を築くために、あなたは自分の役割を果たしてください。明るく、いつでも相手を助け、思いやりを示してください。……いじめたり、けんかをしたり、口争いをしたりするのではなく、平和を作り出す人になるように努めてください。教会では家族がいちばん神聖な単位であることを忘れてはなりません。」⁴

3 聖文を決まった時間に読むだけではなく、大事な決断をするときに聖文に頼ることによって、**聖文研究を生活の一部にする。**

ドイツ北部で伝道部会長として奉仕していたとき、とても難



しい問題に直面しました。解決策を求めて何週間も努力しましたが、うまくいきませんでした。ある朝、モルモン書を読んでいたとき、ニーファイが船を造るように命じられる場面に差しかかりました。「わたしニーファイは度々山の中へ行き、度々主に祈った。それで、主はわたしに大いなることを示してくださいました。」(1ニーファイ 18:3) その短い節を読んだとき、ひらめきを受けました。「これこそわたしが行くべきことだ。」わたしは深く考え、祈り、ついに答えを受けました。何をすべきかが分かったのです。聖文を調べながら、小さなひらめきの窓が開いたことに感謝しています。答えを受けたとき、わ

たしは自分が「聖なる場所に立っている」と感じました。聖文に書かれていることを調べ、深く考え、読んだ事柄について祈るときに、皆さんも必ず同じような経験ができるでしょう。

4 定められた年齢になったらセミナーに出席する。きちんとセミナーに出席する青少年について発見したことがあります。定期的にセミナーで学んでいる青少年は、自分が確かに神の息子、娘であるという事を思い起こす助けを得られます。また、決断に迫られたときにいつも主に助けを求め、主も彼らの祈りにこたえられます。セミナーはまた、自分が独りではないこと、そして世界中の多くの人が、聖なる場所に立ってふさわしい生活をしようと努力しているという事を思い出せる場所でもあります。

5 前向きで、清く、自分を高めてくれる事柄で心を満たす。わたしの祝福師の祝福には次のような約束があります。「高い所にある光を見てください。そうすればあなたの隣を歩く人は、あなたがより高いものを求めていることを知るでしょう。」高い所にある光を常に見るための最も良い方法を見つけました。聖句、詩、賛美歌、そのほか自分を高めてくれるものを暗記することによって思いをコントロールすることです。そうすれば、清くない、否定的な思いに誘惑されても、前向きな思いと置き換えることで、汚れた不純な思いを追い出すことができます。

6 自分の部屋に神殿の写真を飾る。以前、まだ小さかった子供たち一人一人に、自分にとって特に意味のある神殿を選ぶように言いました。それから選んだ神殿の写真を買いました。子供たちが自分の部屋に飾り、神殿の大切さを思い起こすため、また、参入するふさわしさをいつも保つことの大切さを忘れないようにするためです。毎日神殿の写真を見ていると力を得られます。神殿に参入するふさわしさを保つ決意を新たにする力を得られるのです。さらに、自分の写真を神殿の写真的隣に置き、自分が神殿とつながっていることを思い出すようにしてもいいでしょう。

7 才能を伸ばし、天の御父が期待されるような自分になるために時間を使う。わたしたちは恵まれて、若い女性には『成長するわたし』、アロン神権者には『神への務め』というプログラムが用意されています。この二つのプログラムには目的があります。青少年が救い主のようになれるよう助けることです。このプログラムに添って、若い女性とアロン神権者はふさわしい目標を立てて達成し、人格を高

め、人生に必要な技術を磨き、家族を強め、イエス・キリストへの信仰を高めていきます。

8 12歳になったら、死者のためのバプテスマを受けるために、行けるときはいつでも神殿に参入する。わたしたちは世界に124もの神殿がある祝福された時代に生きています。皆さんの多くは青少年の団体参入で、また家族とともに神殿に入ることができます。しかし、もし神殿の近くに住んでいなくても、神殿についてもっと学び、常に神殿推薦状を得る資格を満たしていることにより、祝福を受けることができます。わたしが伝道部会長をしていたとき、伝道部内に神殿はなく、宣教師は任期中に神殿に入ることができませんでした。最初は宣教師に、有効な神殿推薦状を持つように勧めようとは考えていませんでした。すると1994年の終わりごろ、ハワード・W・ハンター大管長(1907-1995年)が、教会の成人会員に対し、近くに神殿がない会員も含めて、有効な神殿推薦状を持つように勧めました。⁵ 宣教師との次の面接のとき、わたしはこの原則を教え、一人一人と神殿推薦状の面接を行いました。これは伝道部と宣教師にとって計り知れない祝福となりました。

天の御父の祝福が皆さんのうえにありますように。そしてあらゆる決断を通して、皆さんが聖なる場所に今立つ備えを続け、常に主の神聖な神殿に入るふさわしさを保つことができますように。賛美歌にあるように、皆さんは「高貴な生得権を持つ青少年」⁶です。「イスラエルの望み」⁷ 皆さんの、偉大な義の業を成し遂げるよう、主によってこの地上に送られました。この業を成し遂げるために備えなければなりません。愛する若い友人の皆さん、天の御父の祝福があり、皆さんが神殿に入るふさわしさを身に付け、天の御

父がわたしたち一人一人のために備えられた神聖な儀式を受ける備えを勤勉に行うことができますように。■

注

1. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』(2007年) 416
2. 『伝道と神殿、そして管理の職』『聖徒の道』1996年1月号, 80
3. *The Teachings of Harold B. Lee*. クライド・J・ウィリアムズ編(1996年), 629参照
4. 『若人の強さのために』(2001年) 10
5. 『教会員の大いなる象徴』『聖徒の道』1994年11月号, 6参照
6. 『山のごとく強く』『賛美歌』167番(訳注——英語の賛美歌では「高貴な生得権を持つ青少年」という言葉が使われている)
7. 『シオンのつわもの』『賛美歌』159番



ついに尋ね求めた母

トレジャー・エルダー・バーファス

車の葬列が向きを変え、共同墓地へと続く小道に入ると、思い出が走馬灯のように駆け巡りました。父の早すぎる死に打ちひしがれていたわたしは、福音と聖文の中に慰めを見いだそうとしました。伝道の書第3章1節が心に浮かびました。「すべての事には季節があ[る。]」

わたしが若かったころ、我が家には毎週教会に通う習慣はありませんでしたが、両親はキリストのような行いを通して信仰を表していました。助けを必要とする人を助け、子供たち一人一人に十分な愛を示してくれました。一つの例外を除き、両親はわたしの人生のすべての季節とともに過ごしてくれました。その例外とは、わたしの見いだした証あかしを両親が理解せず、聞こうとしなかったときです。両親にとって深い悲しみの季節でした。

17歳のとき、とても仲の良い友人たちが教会のことを教えてくれました。回復された福音は長年の疑問に答えを与えてくれましたが、両親の反応は冷やかかでした。わたしが18歳で教会に加わったとき、バプテスマに来てくれた家族は祖母だけでした。祖母は末日聖徒ではありませんでしたが、わたしが霊的なものを必要としていることを理解していたようでした。そして、両親もいつか、わたしが教会に入ったことを認めてくれる日が必ず来ると言ってくれました。

わたしはバプテスマを受けて間もなく結婚し、主人とともにほかの町に移り住みました。数年後、神殿で結び固

母、
そして
夫、わたしの

3人は先ほどの
石碑の所まで
歩いて行きました。
そこには
わたしの家族を
永遠に変えるような
聖句が
彫られていました。

めを受けたわたしは両親に手紙を書き、その喜びと、さらに深くなった信仰について伝えました。しかし、福音に興味を持ってもらうことはできませんでした。そして今、父は母と妹を残して逝ってしまったのです。

車列が止まり、現実に引き戻されました。左側を見ると木の葉に埋もれた石碑がありました。そこに彫られた文字が何かを伝えようとしているように感じましたが、わたしたちはそのままの行われる墓地へと向かいました。

式が終わると、友人や親戚しんせきに感謝を述べ、彼らを見送りました。それから、夫、母、そしてわたしの3人は先ほどの石碑の所まで歩いて行きました。そこにはわたしの家族を永遠に変えるような聖句が彫られていました。「見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」(モーセ1:39)

わたしがバプテスマと確認の儀式を受けてから14年が過ぎていましたが、このとき母は初めていろいろな質問をしました。回復された福音のおかげで、わたしは答えることができました。程なく母と妹はバプテスマと確認を受けました。さらに1年と少しが過ぎ、父の神殿の儀式も完了しました。

墓地で父の葬儀を行ったあの日から30年以上がたちました。その間に、親戚の人たちも神殿で結び固めを受けました。母は扶助協会の会長になり、数年にわたって献身的に奉仕しました。今は結婚して子供のいる妹も、長年にわたってローレルのクラス指導者や若い女性の会長として奉仕し、LDSファミリーサービスの職員としても働きました。

すべてのことには季節があり、喜びの時もあれば悲しみの時もあります。祈りは神の季節にかなってこたえられること、また聖文を研究し、深く考え、互いに分かち合うときに、聖文が命の言葉を与えてくれることをわたしは知っています。この知識に感謝しています。■

ゆる なぜ救せたのでしょうか

トーマス・E・ホーラチャー

1961年のある日、ロジャー・スラゴフスキー長老とわたしは西ドイツのウィルヘルムスハーフェンの町で家々を回って伝道していました。夫を亡くしたある年老いた女性が、寛大にも彼女の簡素なアパートに迎え入れてくれました。わたしはとても驚き、自分たちが布教活動で訪問していることを確認のために伝えました。彼女は、それは理解していると答え、わたしたちを待っていたと言いました。

話を聞くと、数十年前、まだ若い母親だったころ、二人の末日聖徒の長老が彼女の家を訪ねたのだそうです。しかし、ちょうど忙しかった彼女は長老たちを部屋に通さず、話も聞きませんでした。後になってからとても悪いことをしたと思い、もし末日聖徒の宣教師が再びドアをノックするときには、必ず家に招き入れようと心に決めていたのです。

エマ・ヘンケという名のその女性は非常に賢く、熱心にわたしたちの伝える事柄に耳を傾けてくれましたが、度々、遠くを見るようなまなざしをしていました。親切で、いつも自分のわず

エ マ・ヘンケ
という名の
その女性は
熱心にわたしたちの
伝える事柄に耳を
傾けてくれましたが、
度々、遠くを見るような
まなざしを
していました。



かな食べ物を喜んで分けてくれる女性でしたが、わたしたちの話していることの大切さをほんとうに理解しているのかどうか分かりませんでした。結局わたしたちは彼女を熱心な求道者のリストから外し、時々近に来るときに立ち寄る程度にすることにしました。

数週間後に再び立ち寄ると、驚いたことにエマは突然、バプテスマを受けることに決めたと言いました。

そのとき初めて、彼女はそれまでの苦難の人生について詳しく話し始めました。エマは、第一次世界大戦の終戦間際に、まだ幼かった娘を亡くしていました。1924年には9歳の娘がジフテリアに感染してこの世を去りました。第二次世界大戦中だった1941年から1942年にかけての冬には、ロシア戦線で戦っていた21歳の息子から最後の手紙を受け取りました。戦死の知らせが届いたのは、それから間もなくのことでした。

夫のフーゴはナチ政権の政策を嫌っていました。エマは度々、もっと慎重に行動するよう夫に頼んでいました。1944年初頭のある日、政府はラジオ探波器を使って、ヘンケ家が英国放送協会(BBC)の放送を受信しているのを突き止めました。ゲシュタポ(ナチスの秘密警察)がドアを破って家に押し入

り夫を逮捕しました。夫はハンブルク近くの強制収容所に送られ、彼女は最後に残った幼い息子と二人だけで生き抜かなければならなくなりました。

エマは夫を収監した地元のナチの役人を訪れ、ひざまずいて夫の命を助けてくれるよう懇願しました。しかしそのかいもなく、1945年3月、エマは夫の死を知ります。その役人は後に無期懲役の判決を受けましたが、わたしたちが彼女を訪れる少し前に釈放されていました。エマは釈放された元役人が新型の高級車を乗り回しているのを度々目にしたそうです。バプテスマを受けたいとわたしたちに告げた日、彼女は、夫を奪い、必死の懇願を無視したその男性を赦す力をついに得たのだと話してくれました。裁きを主の手にゆだねようと固く決意したのです。

エマは忠実な教会員となり、回復された福音の真理を学ぶことで大きな喜びと慰めを得ました。1966年11月、扶助協会の集会へと急いでいた彼女は、ウィルヘルムスハーフェンの公共広場で倒れ、心臓発作のため亡くなりました。

ヘンケ姉妹は人生の試練につぶやくことをせず、そして復讐心ふくしゅうに縛られることなく世を去りました。この愛する姉妹は、離れ離れになったかけがえのない人たちとのすばらしい再会を喜んでるに違いありません。■

カペナウムで 主を見いだすまで

ジェーソン・ジョーンズ

何年もの間計画と準備を重ね、ついに家族や親しい友人とともに聖地に向かいました。ガリラヤ湖に近づくにつれ、カペナウムを見たいという思いがますます募ってきました。

マタイによる福音書には、御自身の故郷であるナザレで拒まれた後、救い主はカペナウムを「自分の町」と呼ばれたとあります(マタイ9:1)。ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレ、そして後にマタイを弟子に召されたのは、カペナウムとガリラヤの岸辺でのことでした(マタイ4:18-22;9:9参照)。

カペナウムには「ナホムの村」、または安らぎの村、慰めの村という意味があります。キリストは実際にこの町の人々に哀れみをかけられました。そして、悪霊を追い出し、「病人をことごとく癒しいや、死人をもよみがえらせることにより人々を慰められました(マタイ8:16;マルコ5:35-42参照)。後にキリストは、御自身を拒んだカペナウムの人々を叱責しっせきされますが、恐らくほかのどの地よりも多くの奇跡をこの地で行われました。

カペナウムに着くと、わたしたちは遺跡を巡り、この小さな村が目の当たりにした事柄(マタイ11:23参照)に畏敬の念を覚えながら旧市街を散策しました。その後、わたしは立ち止まって木陰に腰を下ろし、物思いにふけりながらガリラヤ湖を見詰めました。しかし、聖文の出来事を肌で感じたいと

いう大きな期待は、まだ実現したとは言えませんでした。旅の準備をし、キリストを心から求め、大きな決意を胸にようやくこの地を訪れたにもかかわらず、むなしさが心に重くのしかかっていました。

キリストがそれほど多くの人を祝福されたこの地は、どうして同じようにわたしたちの人生に祝福を与えてくれないのでしょうか。心の中で葛藤しながら、どうしても聖文を読みたいと思いました。仲間の一人一人に聞いてみましたが、残念なことにだれ一人聖書を持って来ていませんでした。しかし幸いにも、その中の一人が持っていた携

帯情報端末(PDA)に電子版の聖典が入っていました。わたしたちは早速輪になって集まり、カペナウムでの救い主について書かれたマタイ第4章とマルコ第5章を一人が読む声に耳を傾けました。

わたしたちの心が聖文に向くとすぐに、それまで感じていたむなしさは安らぎを与える証に変わりました。救い主の愛についての証、そして聖文に記されている出来事が真実であるという証です。わたしたちがカペナウムにやって来たのはキリストを探し求めるためでした。しかし、聖文を探求するまではキリストを見いだしませんでし

た。証を与えてくださったのは聖霊でした。物理的な環境ではなかったのです。

聖文研究は、歴史や解説、言語学的見識、折々の旅行などによって補うことができます。しかし、聖文に没頭することで御霊から直接知らされるという方法に取って代わる手段はありません。「神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきた」モーサヤの息子は、この原則の好例です(アルマ17:2)。

毎日の聖文研究が、キリスト探求の中心となりますように。主を見いだすのに最適な場所は間違いなく聖文なのです。■

わたしたちは
輪になって
集まり、
カペナウムでの
救い主について
書かれた聖句を
一人が読む声に
耳を傾けました。



傷を癒す薬

『リアホナ』はまさにわたしの人生の羅針盤です。傷を癒す薬であり、沈んだ心に希望を与えてくれます。疑問に答えを与え、疑いを晴らしてくれます。証や大会の説教、そのほかの記事を読むとき、創造主に対する信仰が強められます。そして、『リアホナ』の記事を通して証や信仰を

分かち合ってくれる
教会員をより身近に感じます。

スイス、カルメン・モスコフ

特別号

時々『リアホナ』に特別号が出ることに気づきました。二つ例を挙げると、わたしがとても大切にしている、新会員のための特別号(2006年10月号)と、伝道の準備をしている人たちのための特別号(2007年3月号)です。

求道者、そして新会員の家族のための特別号を出してもらえないでしょうか。わたしの家族は、この教会では神とイエス・キリストを信じていないと思っているため、わたしはなかなか福音を伝え

られずにいます。家族が理解を深め、疑いを晴らし、わたしの決断を認めてくれるような記事を望んでいます。

メキシコ、エクトル・レアル・レイエス

編集部から——2008年3月号を通して、皆様のご家族をはじめ多くの人に、教会員が救い主について何を信じているかをより深く理解していただければ幸いです。

黄金に勝る価値

初めて『リアホナ』のことを知ったのは、教会に加わる数年前のことでした。最初はあまり意識することはありませんでしたが、時とともに人生の宝となり、成功への鍵となりました。回復された福音に対する証を強め、教会員として活発であり続ける助けを与えてくれました。『リアホナ』から得た力のおかげで、わたしは誘惑に立ち向かい、職場のある同僚に模範を示すことができました。この同僚は後にバプテスマと確認の儀式を受けました。

『リアホナ』を研究し、人に紹介することは実に素晴らしいことです。これから先の人生でも、大きな助けとなるでしょう。主の預言者と使徒からのメッセージを毎月読めることにとても感謝しています。わたしにとって『リアホナ』は蜜より甘く、黄金に勝る価値を持っています。

ボリビア、アルデミール・グアナコマ・アーベ

幼い宣教師たち

CTRリングのことを尋ねた校長先生

に教会の話をした女の子についての記事「校長室のCTRリング」(「フレンド」2007年3月号)がきっかけで、5歳になる息子と初等協会の子供たちは、どんなときにもCTRリングをはめるようになりました。

その息子ともう一人の子供に、初めて伝道の機会が訪れました。CTRリングについてそれぞれの学校の先生に尋ねられ、二人とも教会について話すことができたのです。

ウクライナ、アレクセイ・ドプロボルスキー

魂にとっての宝

バプテスマを受けたばかりのころ、ある姉妹に『リアホナ』の購読を勧められました。最初はあまり読みませんでしたが、だんだんと『リアホナ』の持つとてもない価値が分かるようになりました。『リアホナ』の伝えるメッセージはわたしの霊を強め、祈りの答えを与えてくれます。最初に大管長会メッセージと家庭訪問メッセージを読むようにしています。また、子供向けの記事を息子のリカルドと一緒に読みます。今、『リアホナ』があることをとてもうれしく思っています。

霊的にも情緒的にも『リアホナ』を通して多くの面で学び、成長しました。確かに『リアホナ』には探求する価値があります。聖文と同じように、魂にとっての宝であり、暗闇の中の導き手です。この末日にあって、この世とどのように向き合えばよいのかがよく分かるようになりました。14年にわたって『リアホナ』を読み続けることができ感謝しています。

プエルトリコ、シルビア・フィゲロア・オストラサ



聖書に描かれた「数々の婦人」の群像

「数々の婦人」 ウォルター・レイン画

イエスキリストに従った忠実な「数々の婦人」が描かれています。彼女たちの中には、聖書に名前が残っている女性も、そうでない女性もいました。

「悪霊を追い出され病気をいやされた数々の婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出してもらったマグダラと呼ばれるマリヤ、

ヘロデの家令クエザの妻ヨハンナ、スザンナ、その他多くの婦人たちも一緒にいて、

自分たちの持ち物をもって一行に奉仕した。」(ルカ8:2-3)



19 95年、大管長会と十二使徒定員会は「家族——世界への宣言」を発表し、預言者たちが教会の歴史を通じ、繰り返し述べてきた教義とその運用についての宣言を再確認しました。

また次のことも教えています——

人は皆「天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性……を受け継いでいます。」

そして家族は、神の計画により「神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すもので〔す〕。」

「神の計画により」26ページ参照

リアホナ



追悼——
ゴードン・B・ヒンクレー
1910-2008年

ゴードン・B・ヒンクレー 大管長

地のもろもろの国民はその声を聞いた

19 35年8月20日、ヒーバー・J・グラント大管長と二人の顧問、J・ルーベン・クラーク・ジュニア、デビッド・O・マッケイは、イングランドでの伝道を終えて帰還したばかりの非凡な青年と面会していました。ロンドンのヨーロッパ伝道本部で奉仕中、青年はメディアを賢明に使う教会の知名度を上げ、効果的な伝道用資料の制作に携わってきました。大管長会は、この25歳の青年ゴードン・B・ヒンクレーに卓越したものを感じ取りました。面会は予定されていた15分をはるかに超え、1時間以上続きました。2日後、大管長会は彼に教会本部の職員となり、新設されたばかりのラジオ・広告および伝道文献委員会の書記に就任するよう要請したのです。

主と主の教会のために働き続けたゴードン・ビトナー・ヒンクレーの任務はまだ始まったばかりでした。最初は教会職員として、次に十二使徒補助そして使徒、3代の大管長の顧問、ついには大管長として、末日聖徒イエス・キリスト教会を「暗黒から、また暗闇から」もたらし(教義と聖約1:30)、世の人の前に光り輝く「山の上にある町」(マタイ5:14)とするために熱心に働き続けました。有名な楽観主義と思いやり、賢明さ、そしてユーモアのセンスを携えて世界中を駆け巡り、末日聖徒のみならず、地元のジャーナリストや国家元首、テレビのレポーターに会いました。大管長時代の特徴は、メディアへの積極的な姿勢、前例のない驚異的な教会の発展と神殿建設、さらに場所を問わず人々が直面している諸問題に対する気遣いでした。

多くの町に旅し、大勢の人々に会い、教会に世界の耳目を



集めてきたにもかかわらず、ヒンクレー大管長は慎ましく、目立たずに生活しようと努めました。人に感銘を与えるためではなく、常に霊的なささやきに従って物事を選択してきました。この回復された教会の第15代預言者を導いてきたものは、天の御父と、自らの先祖と彼らの払った犠牲に対する穏やかな畏敬の念であり、さらには霊的知識と現世の知識を尊重する姿勢でした。

学びの家

ゴードン・ビトナー・ヒンクレーは1910年6月23日、ブライアント・ストリングラム・ヒンクレー、エイダ・ビトナー・ヒンクレー夫妻の長男として、教会に熱心で教養ある親のもとに生まれました。両親はともに教育者で、ブライアントがLDSビジネスカレッジの学長、エイダが英語と速記の教師をしていたときに知り合ったのでした。ブライアントの最初の妻クリスティンは8人の子供を残して亡くなっていました。ブライアントとエイダはその8人に加え、二人の間に生まれた5人の子供も立派に育て上げました。

少年時代を過ごした家には書庫があり、文学、歴史、哲学関係の蔵書が1,000冊以上も収められていたことから、ゴードンは熱心な読書家に育っていきました。知識欲は旺盛で、それは大人になってからも変わりませんでした。

しかし、子供時代は読書と勉強だけに明け暮れていたわけではありません。病弱だったゴードンの体力作りにと、家族がソルトレーク・シティー郊外にある、当時まだ田舎だったイーストミルクリーク地区に小さな牧場を購入したのです。

次ページ上—写真/リチャード・ロムリー。右—ヒンクレー一家の厚徳に感謝。その他の説明のためを除く。表紙—写真/ヒル・A・マートン。背景—写真/アラン・デービー/マスタール



ゴードンは夏になると牧場に行き、満天の星の下で野宿したり、搾りたての牛乳を飲んだりして、「9月に見事な実を収穫するために1月にしなければならぬ剪定術^{せんてい}」¹など、大切な事柄を学んでいきました。

大家族のきずなを強めたのは、互いへの愛と尊敬、そして家庭の夕べでした。

少年のころ、ゴードンは祝福師の祝福を受けました。そのとき次のように預言的な言葉が述べられました。「[あなたは]イスラエルのただ

中であって力強い優れた指導者となるでしょう。……常に平和の使者となり、地のもろもろの国民はあなたの声を聞き、あなたのすばらしい^{あかし}証によって真理を知るようになるでしょう。』²

たたえよ、主の召したまいし預言者を

思春期に差しかかったゴードン・B・ヒンクレーは何度も霊的な体験をすることになりますが、中でも生涯忘れることのできない経験がありました。執事だったゴードンが半ばしぶしぶ、

ヒンクレー大管長は家族との交わりを楽しみにしていた。上の写真は妻のマージョリー、孫、ひ孫と撮影したもの。ヒンクレー大管長は在任中、各地で教会の日常業務にかかわった預言者としても知られている。

ユタ州

モンティセロ神殿の建設現場の

視察(下段左)、

ホンジュラスで

ハリケーンの被害を受けた会員への訪問(下段右)はその例である。

ヒンクレー大管長への賛辞

大管長は、奉仕者の心と指導者の知恵を持ち合わせていました。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の訃報に際し、数多くの弔辞と賛辞が世界中から寄せられました。大管長に贈られた数々の愛と賞賛の言葉の中から幾つかを紹介します。

アメリカ合衆国大統領 ジョージ・W・ブッシュ—「ローラとわたしは、友であるゴードン・B・ヒンクレーの訃報を耳にして、深い悲しみに沈んでいます。……[大管長は]奉仕者の心と指導者の知恵を持ち合わせていました。……わたしは恵まれて、人生の長きにわたって人々に尽くした彼をたたえるべく、この国の文民に贈られる最高の賞である自由勲章を授与する栄誉にあずかりました。……残された5人のお子様方とご家族、ご親族の皆様を思い、祝福があるようにと祈っています。」

ユタ教区 キャロリン・タナー・アイリッシュ主教—「彼のいない世界や、信仰を共にする人々の集まりはなかなか想像できません。何十年にもわたって末日聖徒教会を導いてきた彼は、教会内外を問わず何百万人という人々の心であり魂でした。わたしも多くの人と同様、その豊かな知恵と、優しい声と、心のこもったユーモアに魅了された一人でした。」

ユタ州、ネバダ州、アイダホ州NAACP(全米有色人地地位向上協会)会長 ジャネット・ウィリアムズ—「ヒンクレー大管長のご家族と教会の皆様に対して、心からのお悔やみを申し上げます。ヒンクレー大管長が大好きでした。彼のことは個人的によく知っていました。これから彼の声を聞くことができないうことを、また、地域に対する彼の深い思いやりに触れることができないうことを心から残念に思います。」

CNN局「ラリー・キング・ライブ」司会者ラリー・キング—「ヒンクレー大管長は教会の指導者以上の人でした。実にすばらしい友人でした。これまでわたしが出会った中で、彼ほどの情熱と理解力と知恵を持ち合わせた

人はごくわずかでした。彼を失ったことをほんとうに寂しく思います。」

アイスランド大統領 オラフル・ラグナル・グリムソン—「ゴードン・B・ヒンクレー大管長が亡くなられたことは、末日聖徒イエス・キリスト教会にとっても、全世界にとっても、偉大で賢明な指導者、洞察と勇気の人を失ったことを意味します。わたしたちアイスランド国民は良き友をなくしました。イエス・キリスト教会の皆様は、心からのお悔やみを申し上げます。」

在合衆国アラブ連盟大使 フセイン・ハソーナ博士—「末日聖徒イエス・キリスト教会のゴードン・B・ヒンクレー大管長ご逝去の報に接し、深い悲しみを禁じ得ません。数年前に初めてソルトレーク・シティーを訪問した際、ヒンクレー大管長とお会いしたときのことを今もよく覚えています。彼の知識と知恵、そして世界情勢に対する関心の深さに大変感銘を受けました。」

在合衆国・カナダ、キルギス共和国大使ザミラ・シディコバ—「ヒンクレー氏はモルモン教を世界中に知らしめ、あらゆる地に住む人々の間に礼儀正しさと相互尊重の意識を高めた偉大な……人でした。」

在オーストラリア、イスラエル大使館大使ユバル・ロテム—「世界中の何百万という人々とともに、この思いやりと慈悲にあふれた方への敬意と哀悼の意を表します。……わたしはヒンクレー大管長について、どんな事柄に関しても最も重要な点を理解する能力を備えた、強い指導者であるという印象を受けました。キリスト教徒とユダヤの人々の親交を深めるための彼の偉大な尽力に対し、心からの感謝を表します。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の葬儀の様子は、<http://www.lds.org/presidenthinckleymemorial>で視聴できます。

多くの青少年、ヒンクレー大管長に敬意を表す

1月27日の日曜日の夜、愛する預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長が亡くなると、世界中の多くの人々が携帯電話を通してその知らせを伝え合いました。そして数時間後には、世界中の携帯電話で新しいメールが行き交いました。青少年に向けたそのメッセージの内容は、翌日の月曜日、ヒンクレー大管長への敬意を示すために、普通の服ではなく、正装で学校へ行こうというものでした。

アリゾナ州メサに住むある母親は、月曜日の朝、娘が早起きして学校に行くためのスカートにアイロンをかけているのを見て驚きました。彼女の娘マッケンジーはたくさんメールを受け取り、友達と相談して、預言者への敬意を表して教会用の服で学校に行くことに決めたのだそうです。何千人という青少年も同じようにしました。

ヒンクレー大管長の孫息子のジェームズ・ピアスは、それほど多くの若人がなぜ日曜日の服装で学校に行ったのか、自分の考えを説明しています。「祖父は若い人々を心から愛していました。そして、皆がその愛を感じていました。彼らはその気持ちを行いで表してくれたのだと思います。」

葬儀の行われたカンファレンスセンターから墓地へと続く道で大管長を待っていた人々もまた同じ思いを抱いていました。大人も若人も、手にした白いハンカチを振り、杖を掲げて預言者に別れを告げていました。



日の光を捕らえる

「皆さんにお願いしたいと思います。人が苦しんでいるのをとやかく言ったり、問題を探したりす

るのをやめ、もっと十分に日の光を楽しんでください。生活の中でもっと建設的な事柄に目を向けてください。もう少し良い点を探し、……雲間からさし込む光を捕らえてください。」(『絶えず真理を求めろ』『聖徒の道』1986年2月号、3)

父親に連れられてステーク神権会に初めて出席したときの事です。父親はステーク会長会の一員として壇上に座っていました。ゴードンは「たたえよ、主の召したまいし 主と語りし予言者を」³という開会の賛美歌の歌詞に強く魂を揺さぶられ、先ほどまでの消極的な気持ちはすぐに吹き飛んでしまいました。後にこう回想しています。「信仰深い兄弟たちの歌声を聞いたとき、わたしの中で何かが起きました。……今彼らが歌に歌っているその人はほんとうに神の預言者であるという確信が心にわいてきたのです。」⁴

マージョリーとの友情

1928年、ゴードンはLDS高校を卒業し、ユタ大学へ進学するのを楽しみにしていました。もう一つの関心事は向かいの家に住むガールフレンドと真剣に交際することでした。幼友達だった二人はワードの活動で親しくなっていました。ゴードン・ヒンクレイは自分を「そばかすだらけで無骨な、恥ずかしがり屋」⁵と言っていましたが、マージョリー・ペイは彼を皆の人気者だと思っていました。こう言っています。「彼はいつも元気いっぱいでした。ゴードンが部屋に入って来ると、友達が意気込んでわたしに告げたものです。『ほら、来たわよ!』と。」⁶

こうしてゴードンは、マージョリーと深い友情をはぐくんできた時期、英文学の学位を目指してユタ大学に入学しました。大恐慌の影響で何事にも懐疑的になり始めていたゴードンに、大学で受けた幾つかの講座が多少追い打ちをかけたかもしれません。「当時はだれもがひどく落胆していた時代でした。そのような落胆の雰囲気は大学の構内にも満ち満ちていました」と述懐しました。「わたしは様々なことに疑問を抱き始めました。ほんのわずかではありますが、両親の信仰についても懐疑的になったのです。大学生にとって珍しいことではありませんが、そのころ周りの空気は特に張りつめていました。……しかし、少年時代に得た証は失せることなく、あのとても困難な時期にあって、しがみつける頑丈な防波堤の役割を果たしてくれました。」⁷

「自分を忘れて御業に励みなさい」

学生時代に抱いた疑問も、教会に活発に集うことを妨げる

には至りませんでした。ヒンクレイ大管長は学生時代をこう述懐しています。「心の中に神とその偉大な業に対していくばくかの愛があったために、疑問や恐れを乗り越えることができたのです。」⁸

1932年6月、ユタ大学で文学の学士号を取得しました。30パーセントという国内の失業率をもとめず、ゴードンはニューヨーク市のコロンビア大学ジャーナリズム学部への進学という意欲的な目標に向けて資金の獲得計画を立てました。

当時、経済はどん底の状態にあり、伝道を目標にする青年はごくわずかで、伝道資金を賄える家族もほとんどなかった時代

です。ですから、ビショップに伝道に出ることを考えてみるように言われてゴードンは驚きました。ゴードンはその召しを受けました。結局それを財政的に可能にしたのは、1930年に癌で死去した母エイダでした。息子たちの伝道資金の足しにと、食料などの買い物をした際の釣り銭をためた貯金が彼女の死後見つかったのです。この貯金のおかげで、1933年、ゴードンはロンドンへ向けて出発することができたのでした。

それからすぐ、きわめて重要な、霊的な体験がありました。ヒンクレイ大管長は何度も繰り返しこのことに触れ、こう述べています。「人生の岐路でした。……以来経験したすばらしい出来事は、さかのぼって考えると、すべてこのときに下した決断のおかげなのです。」⁹ 関心のない人々を相手に説教したり、開けてもくれないドアをたたき続けたりすることに落胆



上——1930年代にイギリス諸島で宣教師として奉仕していたころ(左から3番目)。右——学生時代。





わたしたちの 信仰の中心

「天の北極星と同じように、将来に何が起きようと、世の贖い主、神の御

子は、わたしたちが不死不滅の命に至るための力強い支えとして確かに間違いなく存在しておられる[のです]。主は救いの岩であり、わたしたちの力、慰めであり、信仰の中心であります。」(『キリストに頼る』『リアホナ』2002年7月号, 101)

したゴードンは、父親に手紙を書き送りました。「ぼくは自分の時間や家族が送ってくれたお金を無駄にしています。ここにいても意味がないように思えます。」

常に教える機会を逃さない、賢明で規律に厳しい父親だったブライアント・ヒンクレーは、こう返信しています。「愛するゴードンへ。過日、おまえの手紙を読みました。……わたしにできる忠告はただ一つ。自分を忘れて御業に励みなさい。愛を込めて、おまえの父より。」ゴードンは手紙を握り締め、その朝に聖文研究で学んだ聖句について思い巡らしながらアパートに戻りました。「自分の命を救おう

と思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。」(マルコ8:35)後にこう回想しています。「わたしはひざまずいて、自分自身を忘れ、御業に励むように努めることを主に聖約しました。」¹⁰

1934年にゴードンは、十二使徒定員会の一員でヨーロッパ伝道部長であったジョセフ・F・メルル長老の補佐として召されました。教会機関誌『ミレニアル・スター』(Millennial Star)に記事を幾つも書いていますが、さらに伝道の業に大きく貢献したのは『ロンドン・マンスリー・ピクトリアル』(London Monthly Pictorial)誌に掲載した記事でした。この若い宣教師に対して、メルル会長は非常に篤い信頼を寄せていました。大手出版社が教会について様々な誤った記述のある書籍を出版した際、その出版社の社長との話し合いにヒンクレー長老を送り込んだほどです。話し合いの結果、出版社は以降、その本を出版する場合には、正しい情報を伝える差し込みページを付けることに同意したのでした。

メディアにおける働き

イングランドの出版社との話し合いが首尾よく運んだことから、メルル会長は、より多くの優れた伝道用資料を必要としているヨーロッパ伝道部の状況を大管長会に伝える任務をゴードンに託しました。ゴードン・ヒンクレーはコロンビア大学に進学する夢を持ち続けていましたが、大管長会が彼の能力を見過ぐすはずありません。大管長会との面会の結果、ラジオ・広告および伝道文献委員会で働くことになりました。

1935年から1958年まで、ゴードン・ヒンクレーは教会職員として勤務しました。その間、福音に関するパンフレットや伝道関係の本を数多く執筆し、ラジオ番組の制作やモルモン書の外国語への翻訳を監督しました。さらに1939年のサンフランシスコ世界博覧会の展示も監督しました。また、伝道に視聴覚資料を導入し、後に神殿や教会の展示で視聴覚資料を活用するきっかけとなりました。教会の勤務が中断したのは、第二次世界大戦中に短期間、コロラド州デンバーにあるデンバー・アンド・リオ・グランデ鉄道の管理職を務めたときだけです。

ゴードンは教会職員として、朝鮮戦争時代の伝道プログラムの管理と存続、神殿フィルムの制作にも務めました。最初の神殿フィルムは、多言語の参入者に対応するスイス・ベルン神殿において使用されました。

もう一つの学びの家

ゴードンは1937年4月29日、近所に住む幼なじみの恋人マージョリー・ペイトとソルトレーク神殿で結婚しました。

夫妻には3人の娘と2人の息子が生まれました。キャスリーン(・バーンズ・ワーカー)、リチャード・ゴードン、バージニア(・ピアス)、クラーク・ブライアント、ジェーン(・ダドリー)の5人です〔訳注——括弧内は結婚後の姓〕。家族はアメリカ中を旅行して休暇を過ごし、良書を読んで感想を語り合い、夕食を囲んでユーモアを交えた話し合いを楽しみました。

ゴードンの子育ては、自分の父親のそれに似ていました。穏やかで实际的であり、厳しい懲罰とは無縁でした。二人とも、子供たちに義にかなった行動を押し付けることはありませんでした。息子のリチャードは、10代にありがちな疑問や



長年にわたり、
ゴードン・B・ヒンクレーは
教会の書物や放送番組の
制作を職業としてきた。

疑いを抱いたとき、父親の模範に深く感銘を受けたと言います。「父は錨いかりのようでした。父は福音が真実であると知っている。わたしは心の底からそう確信していました。……父にとって神は、確かに実在し個人的なつながりのある存在だったからです。」¹¹

十二使徒定員会

ゴードン・ヒンクレーは任務を果たすため定期的に中央幹部と協議する必要がありました。1958年4月の総大会の週末にマッケイ大管長から執務室に呼び出されたときは、てっきり仕事の関係だろうと思込んでいました。しかし、マッケイ大管長は彼に、中央幹部として奉仕するよう依頼したのです。驚き、圧倒されつつ、ゴードン・ビトナー・ヒンクレーは1958年4月6日に十二使徒定員会補助として支持されたのでした。

1960年、中央幹部は世界の広い地域を管理する責任を受けました。ヒンクレー長老はアジアを担当することになりました。それは、最も困難な割り当ての一つでした。アジア地域は広大で、そのうえ複雑で多様な言語が宣教師を悩ませていました。政情不安も問題をよりいっそう難しくしていました。ヒンクレー長老はこの広大な地域で熱心に働き、地元の指導者を育て、宣教師を励まして、法外な価格の不動産市場で集会所に必要な土地を確保していきました。自分たちの町を歩き、公共交通を利用して、土地の食べ物を食べるヒンクレー長老をアジアの人々は愛するようになりました。ある日本の教会指導者は、ヒンクレー長老はまるで自身がアジアの人であるかのように話し、耳を傾けてくれたと言います。¹²

十二使徒定員会会員として支持された記念すべき1961年9月30日の土曜日以降も、ヒンクレー長老はアジアで奉仕を続けました。ヒンクレー大管長は次のように語っています。「深く考えさせられた時期でした。このような召しには途方もなく大きな責任感と主を証する義務が伴います。」¹³ 間もなく世界中の会員は、在職



中に有名になったヒンクレー長老の霊性とユーモアと洞察力に満ちた話術を確かめることとなりました。力と優しさ、謙虚さを兼ね備えた感動的なメッセージは、文化と国境を超え、要人も庶民も等しく魅了してやまなかったのです。

ヒンクレー長老は十二使徒定員会の一員として、まず南アメリカ、次いでヨーロッパの業を監督しました。管理業務や説教より慈善奉仕や人道支援活動に費やす時間が多いときが度々ありました。例えば1970年のことです。ヒンク



レー長老の乗った飛行機がペルーのリマを離陸した直後、壊滅的な地震がペルーを襲いました。チリでその知らせを聞いた長老は、予定されていた集会の出席をすべてキャンセルしてペルーに引き返しました。そして伝道部長と

上——
1970年代の初頭に
十二使徒定員会
会員として
奉仕していたゴードン・
B・ヒンクレー長老
(左から7番目)。
左——
1950年代、
ステーク会長の一員
だったとき(右端)。
訪問したデビッド・O・
マッケイ大管長と。
下——
教会執務ビル
の大管長執務室にて
訪問者と。





**ヒンクレー大管長は
3人の大管長の
顧問を務めた。**

**エズラ・タフト・
ベンソン大管長(上)、
1985 - 1994年。
ハワード・W・
ハンター大管長(右)、
1994 - 1995年。
スペンサー・W・
キンボール大管長(下)、
ヒンクレー大管長は
政府高官や著名人と
親交があった。
リポーターの
マイク・ウォレスも
その一人である
(右ページ)。**

ともに宣教師や会員たちの安否を確認し、救援活動を調整し、壊滅的な被害を受けた村々を訪れて慰問したのです。

ヒンクレー長老は中央幹部として、中央神権委員会、教会コーリレーション委員会、予算配分委員会など、数多くの委員会で奉仕しました。しかし、最大の貢献はやはり、報道機関はもとより、広く世に向けた広報活動でした。メディアを対象とした教会資料を開発し続けるとともに、世界中の末日聖徒にメッセージを伝えるた



めに、テクノロジーのより良い活用法を絶えず探していました。何かマスコミで採り上げられるような問題が起きると、ヒンクレー長老が呼ばれ、メディアに教会の立場を説明する役割を果たしました。トーマス・S・モンソン管長は次



のように説明します。「ヒンクレー兄弟は、……むしろ難しい割り当てを楽しんでいましたし、教会に敵対する人たちには毅然とした態度で対応していました。」¹⁴

大管長会

ヒンクレー長老はデビッド・O・マッケイ、ジョセフ・フィールディング・スミス、ハロルド・B・リー、スペンサー・W・キンボールという4人の大管長の下、十二使徒定員会の一員として奉仕しました。1981年7月23日、病を患っていたキンボール大管長の3人目の顧問に任命されました。先任の二人の顧問、マリオン・G・ロムニーとN・エルドン・タナーも健康に問題を抱えていました。以来、ゴードン・B・ヒンクレーが教会の大管長会を離れることは一度もありませんでした。スペンサー・W・キンボール、エズラ・タフト・ベンソン、そしてハワード・W・ハンター大管長の顧問として責任を果たしたのです。大管長たちの健康が衰えると、複数の責任を担い、大管長の指示の下、教会の業を推し進めました。

後にこう書いています。「恐ろしいほどの重荷と感ずることも、ときにはありました。……ある特別な機会に主の前にひざまずき、きわめて難しい状況の中で助けを求めたことが思い出されます。そのとき、慰めに満ちた言葉が心に浮かびました。『安らかにして、わたしが神であることを知りなさい。』(教義と聖約101:16)」¹⁵

顧問として務める間に、重要な出来事や変更が教会に幾つもありました。1989年に中央什分の一基金による地元ユニットへの予算交付金制度が始まったこと、1991年の宣教師基金の均等負担化がその中に数えられます。また、1980年代には、ヒンクレー管長自らが建設地の選択から設計の監督および奉献までかかわった神殿が20ありました。

ヒンクレー管長が社会に対して対処しなければならなかった問題は容易なものばかりではありませんでした。しかし、同性結婚からキャンブル、教会の宗紀評議会に至るまで、あらゆる



子羊と羊を養う

「すべての改宗者は神の息子と娘〔です〕。わたしたちにはすべての改宗者を見守る偉大

で大きな責任があります。会員となった人々が定着するように見守るのは、わたしたちの急務なのです。……もしわたしたちが教会に入って来る人たちにもっと関心を向けるなら、去って行く人はごくわずかしかない、とわたしは確信しています。」
〔「子羊を見いだし、羊を養う」『リアホナ』1999年7月号、125-126〕

ることに関して熟練した巧みさで教会の立場を表明してきました。そのうえ、1990年代初めには新しい神殿フィルムの制作を監督し、末日聖徒の開拓者の体験を壮大な規模で描いた歴史映画『レガシー』の構想を描くなど、心を高揚させる視聴覚資料の制作も続けていきました。

1990年代初めにベンソン大管長の体調が悪化し始めると、ヒンクレイ管長とトーマス・S・モンソン管長が大管長会の日々の重責を分担するようになり、それは1994年にベンソン大管長が死去するまで続きました。この二人は、第14代のハワード・W・ハンター大管長の在任期間にも、顧問として大管長を補佐しました。そしてハンター大管長は、1995年3月3日に死去しました。

このとき、ヒンクレイ管長はこれから担おうとする責任の重大さに圧倒されました。「これほど抗し難い重圧を感じるとは思いも寄りませんでした」¹⁶と回想しています。ある朝早く、ヒンクレイ管長は一人でソルトレーク神殿の4階に行きました。聖文を読んだ後、部屋にかけられた救い主の生涯を描いた絵画を一つ一つじっくり眺めていきました。「特に十字架におかかりになったイエスの絵に感銘を受けました。救い主がわたしを救うために大きな代価を払われたことを思いました。そして、地上における主の預言者として立つことの責任の重大さを思いました。自らの力量のなさを思い、打ちひしがれ、涙しました。」しかし、その日大管長は、「主の大義と王国に関する主の御心に、主御自身が取り組んでおられる」¹⁷という強い確信を得て、神殿を後にしたのでした。

1995年3月12日、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は末日聖徒イエス・キリスト教会の第15代大管長として、第一顧問のトーマス・S・モンソン、第二顧問のジェームズ・E・ファウストとともに任命されました。3人は、2007年8月にジェームズ・E・ファウスト管長が死去するまで、12年の長きにわたってともに働くことになりました。そして、2007年10月6日の総大会で、ヘンリー・B・アイリング管長が大管長会第二顧問として支持されたのでした。



世界の舞台へ

ヒンクレイ大管長はメディアの取材に積極的に応じることにより、教会で働き始めた1935年から取り組んできた主の大義に大きく貢献しました。教会を「暗黒から」もたらすという使命を達成していったのです(教義と聖約1:30)。事実、大管長は末日聖徒イエス・キリスト教会がアメリカ西部にある小さくて偏狭な一派ではないということを世界に知らしめました。

大管長となった後も、世界中の政治指導者やオピニオンリーダーとの会見を続けました。1995年11月、十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老とともに、家族を強める方法について話し合うという目的でホワイトハウスを訪問し、ビル・クリントン合衆国大統領およびアル・ゴア副大統領と会見して家族の宣言を贈っています。その後は、全国ネットのテレビ局が放送する『60ミニッツ』のマイク・ウォレス氏からインタビューを受けています。生ける預言者が最初の示現の証を述べ、神権とは何かを語り、そのほか福音の土台となる事柄について説明するのを何百万ものアメリカ人が聞きました。また、長年にわたって多くの企業グループ、政治や歴史団体に向けて講演を続けました。全米有色人地帯向上協会やメイフラワー号子孫総合協会(General Society of Mayflower Descendants)、合衆国市長会議(U.S. Conference of Mayors)にも講演しています。また、『ラリー・キング・ライブ』というケーブルテレビの番組にも何度かゲスト出演しました。

21世紀を迎えると、教会の大管長として初めて、ワシントンD.C.にあるナショナルプレスクラブで演説を行い、系図から人道支援に至るまで、あらゆる質問に答えました。また、大管長として本も出版しました。最初の著書『スタンディング・フォー・サムシング——心と家庭を癒す忘れがちな10の美德』(Standing for Something: 10 Neglected Virtues That Will

Heal Our Hearts and Homes)は2000年初頭に出版され、『パブリッシャーズウィークリー(Publishers Weekly)』紙の宗教関連書部門で売り上げトップ10入りを果たしました。94歳の誕生日を迎えた2004年には、ジョージ・W・ブッシュ合

衆国大統領から大統領自由勲章 (Presidential Medal of Freedom) を授与されています。

聖徒とともに

ヒンクレー大管長はどこにいても聖徒たちと会うことを優先しました。1996年4月の総大会ではこう語っています。「わたしは自分の力の及ぶかぎり、国の内外を問わず、人々を訪ね〔る〕……つもりです。……愛する人々と交わりたいと願っています。」¹⁸ 1995年に大管長に支持されてから間もなく、イギリス諸島を訪問しましたがこれは旅の始まりにすぎませんでした。

1996年には中南米およびヨーロッパ、アジアの計22か国、加えて合衆国の13州の会員と交わりました。また、中国本土を訪問した最初の大管長となりました。

その後も大管長は精力的に訪問を続けます。例えば、2000年1月には太平洋の国々を歴訪する10日間の旅で3万7,000キロを移動し、キリバス、オーストラリア、インドネシア、シンガポール、グアムの会員に会いました。2004年にはガーナ・アクラ神殿を奉獻し、カーボベルデの聖徒たちを訪問し、ヨーロッパ全土を旅しました。2005年までに、大管長が主の預言者として移動した距離は160万キロを超えました。2005年の1年間だけでも、ロシア、韓国、台湾、香港、ナイジェリアやそのほかの国々を歴訪したのです。

ヒンクレー大管長の指示の下、教会はまた、世界中で助けが必要な人々に手を差し伸べました。例えば1996年には、教会人道援助プログラムを通して58か国に870万人分の衣類、70か国に450トン分の医療機器および教育用品、飢餓に直面する北朝鮮に310万米ドル相当の食糧、医薬品、農産物を寄付しました。¹⁹ 大管長はまた、2000年3月に永代教育基金の創設を発表しました。これにより、基金の融資を受けた世界中の末日聖徒の若者が、適切な仕事に就くために必要な教育や訓練を受けられるようになりました。2004年から2005年にかけては、東南アジアの津波やハリケーン・カトリーナをはじめ、世界の様々な国で起こった多くの天災で被害を受けた人々に多大な援助を提供しました。



キリストに 真に従う者として 生活する

〔わたしたちは、〕
すべての人を慈し
み、キリストに真に

従う者として生活し、悪に対して善で報い、模範によって主の道を教え、主が指し示された広範囲にわたる奉仕の業を達成しなければなりません。』(『明るい夜明けだ』『リアホナ』2004年5月号、84)

未来へ向けて築く

ヒンクレー大管長は、神聖な建物の建築において大きな功績を残しました。1997年7月、預言者はソルトレーク・シティーで行われたカンファレンスセンターの鉄入れ式において奉獻の祈りをささげました。2000年4月、2万1,000人収容のこの壮大な建物で行われた総大会は忘れられないものとなりました。出席者の多くは、これまで十分な座席数がないことを懸念してタバナクルでの総大会に参加することを躊躇してきた人々です。出席した72歳のサモアの教会員は次のように語りました。「教会に入ったときから50

年近くもこの日が来るのを待っていました。」²⁰

1997年10月、ヒンクレー大管長は教会員の少ない地域に小規模神殿の建設を始めると発表しました。この計画のおかげで、神殿の数は空前の勢いで増えることとなります。大管長の在任中に21か国で70を超す神殿が建ったのです。2005年10月には、ソルトレーク・シティーの中心街に建設される教会歴史図書館の鉄入れを行いました。最新の設備を整えたこの図書館の完成は2009年半ばの予定です。

ヒンクレー大管長は、インターネットを活用することによって教会の発展に尽力しました。まず LDS.org というウェブサイトを開設すると、1999年には FamilySearch.org という家



上——中国を訪問する
ヒンクレー大管長夫妻。
左——アフリカの会員を
訪問する大管長。

族歴史のウェブサイトを立ち上げ、熱心な一般の利用者の間で驚くほど大きな反響を呼びました。2001年に開設した Mormon.org は、教会の教えに関する質問と答えを掲載しています。そのほか、JosephSmith.net などのウェブサイトを通じ、教会は会員やほかの信仰を持つ人々に情報を発信し続けています。

永遠のきずな

2003年4月29日、ヒンクレー大管長は、後に自身にとって大きな意味を持つことになる66回目の結婚記念日を祝いました。結婚生活を振り返り、次のように語っています。「もし夫が自分自身について考えるのを控えめにして、妻をもっと思いやるようにすれば、教会のすべての家庭と世界中の家庭はもっと幸せになるでしょうね。」²¹

それからおよそ1年後の2004年4月6日、ヒンクレー姉妹は老衰のため死去しました。葬儀には何千人もの聖徒が参列し、それを上回る多くの人々が葬儀の様子をテレビで見守りました。息子のクラーク・ヒンクレーは父親から母親にあてた手紙を紹介しました。「いつの日か、わたしかあなたのどちらかに死が静かに訪れるとき、目には涙があることでしょう。しかしそのとき、わたしたちは再び結ばれて、永遠の伴侶はんりょうとなれるという穏やかではっきりとした確信も抱くことでしょう。」

末日聖徒らしい人になる

ヒンクレー大管長は奉仕と犠牲の人生を送りました。家族のために生きました。そして説教を通し、また世界中を巡ることで教会員のために生きたのです。2006年10月の総大会では、会員に向けてこう語りました。「6月に96歳の誕生日を迎えました。わたしの健康のことで、たくさん憶測が飛び交っていることを知りました。きちんと話させてください。あと数か月長く生きることができれば、わたしはこれまでのどの大管長より長生きしたことになります。高慢な気持ちで言っているのではありません。



左—
総大会の部会終了後に
十二使徒定員会の
会員と握手する
ヒンクレー大管長と
顧問のトーマス・S・
モンソン管長、
ジェームズ・E・
ファウスト管長。
ヒンクレー大管長は
小規模神殿の
建設を開始し(上)、
ノーブー神殿の再建に
深い関心を寄せた
(上から2番目)。

感謝しているのです。」そして、大管長ならではの言葉を付け加えました。「主はわたしが生き長らえるのをお許しになりました。あとどれくらい生きられるかは分かりません。しかし、それがどれくらいであっても、わたしは最善を尽くして自分の任務を果たし続けます。」²²

2005年8月、ヒンクレー大管長はその年の終わりまでにモルモン書を読んで、救い主に近づくようにと教会員にチャレンジを与えました。預言者ジョセフ・スミス生誕200年を祝ったこの年は、このチャレンジを受け入れた教会員にとって意義深い年となりました。結果として歴史上かつてないほど多くの人々がモルモン書に親しんだのです。



**ゴードン・B・
ヒンクレーと
マージョリー・ペイは
1937年に
ソルトレーク神殿で
結婚し、
67年間にわたる
充実した結婚生活を
送った。**

ヒンクレー大管長は、優しい穏やかな口調で、模範になりなさいと末日聖徒に度々勧告を与えました。2001年4月の総大会の説教では次のように語っています。「善い民となりましょう。穏やかな人になりましょう。善き隣人となりましょう。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員らしい人になりましょう。」²³

わたしたちはこの勧めに従うことを望みました。大管長が、生い立ちや宗教を問わず、あらゆる人のことを深く心にかけているのを見てきたからです。大管長が新しい改宗者を大切にしているのを見てきました。教養と霊性をもって雄弁に語り、賢明な決断を下し、世の人にとって「信者の模範」となっているのを見てきました(1テモテ4:12)。大管長は自分を話題にして人をほほえませ、また真の謙虚さを見せてくれました。自分を抑えることをわきまえながらも活力にあふれた人生を送ったのです。何よりもイエス・キリストに対する理解と愛をさらに深めてくれた末日の第15代大管長、預言者ゴードン・ビトナー・ヒンクレーを、わたしたちが忘れることはありません。■

注

1. J・M・ヒスロップ, "Hard Work and Responsibility Bring Success," *Church News*, 1975年2月8日付, 4で引用
2. ボイド・K・バックナー「ゴードン・B・ヒンクレー第一副管長」『聖徒の道』1986年10月号, 11より引用
3. 「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番
4. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith: The Biography of Gordon B. Hinckley* (1996年), 35で引用
5. J・M・ヒスロップ, *Church News*, 1975年2月8日付, 4で引用
6. 1996年1月9日, ソルトレーク・ホラデーステーキ, ホラデー第11ワードで行われた扶助協会ファイヤサイド
7. デュー, *Go Forward*, 46-47で引用
8. デュー, *Go Forward*, 47で引用
9. デュー, *Go Forward*, 64で引用
10. ジェフリー・R・ホランド「ゴードン・B・ヒンクレー大管長——信念と勇気の人」『聖徒の道』1995年6月号(大管長特別記事), 12で引用
11. デュー, *Go Forward*, 168で引用
12. デュー, *Go Forward*, 248参照
13. デュー, *Go Forward*, 235で引用
14. デュー, *Go Forward*, 294で引用
15. ホランド「聖徒の道」1995年6月号(大管長特別記事), 22で引用
16. デュー, *Go Forward*, 506で引用
17. デュー, *Go Forward*, 507-508で引用
18. 「栄えあるイースターの朝に」『聖徒の道』1996年7月号, 75
19. ハンス・モラン, "Unite to Help Needy, President Monson Urges," *Deseret News*, 1997年11月21日付, sec. B, 2参照
20. "Conference Center Draws Members from Many Nations," *Ensign*, 2000年5月号, 106
21. 「ヒンクレー夫妻が歩んできた道」『リアホナ』2003年10月号, 32
22. 「山を動かす信仰」『リアホナ』2006年11月号, 82参照
23. 「御業は前進する」『リアホナ』2001年7月号, 6

ゴードン・B・ヒンクレー 大管長の軌跡



ゴードン・B・ヒンクレーは、大管長在任中に以下の事柄を経験した。

- 教会員数が900万人余りから1,300万人に増加するのを見た。
- 63の神殿を奉献した。これには、パルマイラ神殿、ノーブー神殿、ウィンタークォーターズ神殿をはじめ1997年に初めて建設を発表した多くの小規模神殿が含まれる。
- 末日聖徒と対話するため、アメリカ合衆国以外の国々に90回以上、そして国内各地を多数訪れた。教会の大管長として100万マイル(約160万キロ)以上の旅をした。
- 大管長会と十二使徒定員会とともに、教会と世界に対して「家族——世界への宣言」(『リアホナ』2004年10月号、49)と「生けるキリスト——使徒たちの証」(『リアホナ』2000年4月号、2-3)を発表した。

● 6つの七十人定員会(第三から第八定員会)が教会指導者の組織として加えられるのを見た。

● 総大会が80以上の言語で放送され、『リアホナ』が51か国語で出版されるのを見た。またモルモン書が完全版と抜粋版を合わせて106か国語に翻訳され、一般の大手出版社による出版も開始されるのを見た。

● カンファレンスセンターの建設を監督し、奉献した(その結果、総大会を間近で見ることができ人数が3倍以上になった)。さらに、改装されたタバナクルも奉献した。

● アメリカ合衆国大統領、トンガ国王、ガーナ大統領など、国の要人や政府の指導者と非常に多く会談した。

● 衛星放送による世界指導者訓練集会で神権指導者を指導した。

● 永代教育基金の設立を発表した。



● アメリカ合衆国とオーストラリアにおいて、全国放送のテレビ番組に数回出演した。

● 2005年の後半にモルモンを読むよう教会員に勧め、その結果、歴史上最も多くの人々がモルモン書を読んだ。

● アメリカ合衆国全土で販売された書物を数冊著した。■





若人に語りかけた 預言者

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は教会の青少年を愛した。1995年に教会の大管長として支持されて間もなく、記者団にこのように語った。「わたしたちは教会の若人に特に誇りを感じています。現在のように力に満ちた若い男性、若い女性の世代はかつてなかったように思います。……彼らは知的にも霊的にも力を蓄え、建設的な生活を築いています。わたしたちはこの業の将来に対して、何の恐れも不安も抱いていません。」¹

総大会でヒンクレー大管長は次のように語った。「わたしは教会の若人を愛しています。繰り返し述べてきたことですが、この時代の若人ほど素晴らしい世代はかつてなかったと思います。皆さんの高潔さ、また、善い行いをするために心と手を訓練しようという熱意、主の御言葉への愛、高潔と真理と徳の道を歩もうという望みに心より感謝しています。」²



ヒンクレー大管長の6つのB

ヒンクレー大管長が10代の青少年に与えた最も印象的なメッセージの一つに6つのBがある(訳注——英語の“Be”には、「～の特質を持つ人になる」という意味がある)。2000年11月に世界中で放送された特別なファイヤサイドの中で、ヒンクレー大管長は、10代の青少年に身に付けるべき6つの特質について教えた。

感謝する人になりましょう。「主の驚くべき教会……を主に感謝してください。主の教会から得られるすべてのことに感謝してください。友人や愛する人々、両親や兄弟姉妹、家族が与えられていることを主に感謝してください。昼も夜も感謝の気持ちを胸に抱き、そこから導きと祝福を得てください。感謝の気持ちを抱けるよう努力してください。そうすることによって素晴らしい結果がもたらされることでしょう。」

知性を備えた人になりましょう。「皆さんは自らの知性と心、そして技術を磨くという戒めを主から与えられています。……皆さんを待ち受ける社会にあって高潔な働き人となってください。」

清い人になりましょう。「わたしたちは道徳的に腐敗に満ちた世界、悪臭を放つ世界に住んでいます。……不道徳な話を避けてください。……破滅につながる娯楽に時間を浪費してはなりません。……どのような種類の麻薬かはどうでもいいことです。麻薬は、手を染めるなら、皆さんを破滅に追い込みます。……性に関して……皆さんはいつ自分が危険な場所を歩んでいるか、また、いつ、つまりいたり罪の落とし穴に落ちたりしやすいかを知っています。皆さんがよく注意して、転落しやすい罪の崖^{ひん}縁から遠ざかり、安全な道を歩んでくださるよう、切に願っています。……自らを清く保ってください。」

誠実な人になりましょう。「この教会の会員である皆さんは、教会に忠誠を尽くさなければなりません。……自分の信念に誠実になってください。皆さんは何が正しく、何が間違っているかを知っています。」

謙遜な人になりましょう。「柔和で謙遜な人々とは、よく教えを聞く人々であるとわたしは思います。このような人々は、進んで学ぼうとします。」

よく祈る人になりましょう。「皆さんは主の助けを必要としています。……皆さんには一人ではできないことがあります。皆さんはそのことに気づくでしょう。また年齢を重ねるにつれ、そのことがもっとよく分かるようになるでしょう。主とお話ができるふさわしさを保てるような生活をしてください。」³





世界各地からの声

ヒンクレー大管長は、世界中の青少年が10代のころに直接見聞きしてよく知ることのできた唯一の預言者であった。大管長は愛され尊敬された。以下に、ヒンクレー大管長に対する、10代の青少年やヤングアダルトの思いを紹介する。

わたしはヒンクレー大管長に会ったことはありませんが、大管長の写真を見るとき、良い気持ちになります。わたしにとって大管長はもう一人の父親のようです。大管長が預言者であることを知っています。わたしは6つのBから大きな影響を受けました。「清い人になりましょう」と「謙遜な人になりましょう」という教えは心に響き、自分の高慢さを悔い改める機会となりました。わたしは預言者に従う努力をしました。

韓国、ソラ・L、19歳

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はまさに信仰の人でした。大管長の教えは、わたしがより善い若い男性になるのを助けてくれました。それは、もっと信仰と忍耐を持ち、定期的に祈り、両親と天のお父様とイエス・キリストに従順になるという教えでした。

フィリピン、ガゼレム・C、15歳

わたしが9歳のころ、ヒンクレー大管長がスイスのジュネーブで開かれた大会に来ました。大管長がホールに入って来るのを見たのを覚えています。大管長の周りには愛と優しさの雰囲気漂っていました。大管長の姿を見てとても胸が躍りました。ヒンクレー大管長はわたしにとってすばらしい模範でした。大管長の言葉は神様から来ていると知っていたので、大管長が総大会で青少年に向かって話すときにはいつも感銘を受けていまし

た。大管長を心から信頼していました。
スイス、アニーナ・S、17歳

ヒンクレー大管長の多くの教えを読むときに、大管長はこの末日における若人のチャレンジをほんとうによく理解していると感じました。大管長はいつも若人に警告し、道を踏み外さないようにすることの大切さを思い起こさせてくれました。

台湾、ユー・C、20歳

わたしはヒンクレー大管長がパカエンブースタジアムに到着した瞬間に感じた気持ちを決して忘れないでしょう。わたしは神の御霊を強く感じました。ヒンクレー大管長はお話を終えようとするとき、わたしたちにこのように語りました。「ここから家に帰って、わたしが今日ここで話したことをすべて忘れてもけっこうです。でもわたしが皆さんを愛していることは決して忘れないでください。」この言葉はわたしにとってとても大切なものになりました。わたしはこの言葉を決して忘れないでしょう。

ブラジル、ドリエレ・M、20歳

わたしはヒンクレー大管長が大好きです。大管長の落ち着いた威厳からわたしは平安と、神から遣わされた人に導かれているという安心感を得ています。大管長を見ると、わたしの顔はいつも穏やかになり、感謝の気持ちで満たされます。

ニュージーランド、キャンディス・M、15歳

注

1. ジェフリー・R・ホーランド、「ゴードン・B・ヒンクレー大管長——信念と勇気の人」『聖徒の道』1995年6月号で引用(特集号)、4
2. 「主のみ業」『聖徒の道』1995年5月号、74
3. 「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号、30-41参照

中央—写真の絵/マシュー・ライアー、ケリー・ラーセン、ステイナ・バンドソン、クレグ・ダイヤモンド。左—神への務め達成賞とタルの写真/カース・フルナー。写真と絵/ウェルデン・C・アンダーセン。右—若い女性とタルの写真/クリスティナ・スミス。縁部/©CORBS

子供たちの記憶に残る ゴードン・B・ヒンクレー大管長

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はわたしたちに愛について教えた。大管長は、優しく機知に富んだユーモアでわたしたちを笑わせることをためらわなかった。大管長はわたしたちのなすべきすべてのことにおいて、最善を尽くす努力をするように望んでいた。次のように語っている。「愛する小さなお友達のみなさん、忘れないでください。みなさんはほんとうに神の子なのです。……幸せな生活が送れますように。なぜなら、みなさんは神の子であり、神の愛と祝福を受けるのにふさわしく、その資格があるからです。」(「みなさんは神の子です」『リアホナ』2003年5月号, 119)

わたしたちは、これからもいつもヒンクレー大管長の力強い証と模範を思い起こし、「感謝を神にささげん、預言者の導き!」と心の中で叫び出したいことになることだろう。

以下に、教会の子供たちがヒンクレー大管長について語った言葉を紹介する。

ヒンクレー大管長の顔から、優しさと愛を感じました。

スコットランド、アビゲール・H

ヒンクレー大管長は、ほんとうに預言者でした。そして、良いお話と冗談を話してくれました。

アメリカ合衆国ユタ州、ジーソン・L

ヒンクレー大管長は善い人でした。

サモア、フェアウアイ・S



ヒンクレー大管長は、世界中のみんなを愛してくれました。

オーストラリア、クイーンズランド、
アメリタ・L

ヒンクレー大管長は、わたしの友達でした。

ドイツ、ジョナサン・B
ヒンクレー大管長は、わたしのことを愛してくれました。

チリ、ルイス・W





娘からの追悼の言葉

バージニア・H・ピアス

家族を代表し、この厳かで神聖な機会にお話しすることができます。光栄に思います。わたしたち家族はこの美しい冬の朝に声を上げ、父そして預言者の生涯を祝い、回復されたイエス・キリストの福音を証します。

父と家族であるわたしたちに向けられた愛に感謝しています。皆さん一人一人の祈りとたくさんの思いやりに感謝しています。

敬意と勤勉さ、慈悲、優れた技術をもって父の医療に当たってくださった医師と看護師の皆さんに感謝しています。

また、父の秘書であるドン・ステリー兄弟に感謝しています。ステリー兄弟は謙遜で能力があり、寛大な素晴らしい人です。同様に優秀な職員と警備員の皆さんは、文字どおり父が教会の大管長として責任を果たすのを可能にしてくださいました。

父の同僚とその伴侶の皆さんには、感謝の言葉が見つかりません。モンソン管長、アイリング管長、お亡くなりになったファウスト管長は優秀な顧問でした。パッカー会長と十二使徒定員会、七十人定員会、管理ビショップリック、中央補助組織の役員の皆さんは、定員会、会長会、個人個人として、利己心がなく、完全に王国に献身的な方々です。王国の業において、皆さんは父を、ひいてはわたしたちを助け、愛し、支援

してくださいました。偉大な力を持った人々が個人的に、そしてひそかに思いやりを示してくださることほど心に響くことはありません。

1837年のあるとき、ジョン・E・ページは、イエス・キリストの回復された福音を宣べ伝えるために、カナダのオンタリオ州の田舎町にやって来ました。カートランドでジョセフ・スミスが背中にかけてくれた上着を着たページ兄弟

とその同僚は、ヒンクレー家族とジャッド家族、そしてほかの多くの家族に福音を教えました。ロイス・ジャッド・ヒンクレー（ゴードン・B・ヒンクレーの曾祖母）は、そこでバプテスマを受けた一人でした。彼女は子供とその他の家族とともに聖徒たちを追って南に移住しました。1843年までに、彼らはイリノイ州スプリングフィールドに移っていました。ロイスの息子である、アイラ・ナサニエル・ヒンクレー（当時14歳前後）はノーブーへ行きました。アイラは腕のいい鍛冶屋および建築家になり、結婚しました。1850年、ソルトレーク盆地に向かう途中、コレラがアイラの若い妻と兄弟の命を奪いました。アイラはその同じ日に二人を埋葬し、11か月の赤ん坊を連れて旅を終えました。アイラはその後の人生を、入植する教会の必要にこたえるために費やしました。



こんにち
今日コープフォートの^{とりで}砦は、アイラの見
事な技量と献身の産物として立っています。

アイラ・ナサニエルの息子ブライアント・S・ピンクレー（ピンクレー大管長の父）は教育者で、プリガム・ヤングアカデミーとLDSビジネスカレッジ^{きょうべん}で教鞭を執っていました。ブライアントは何年も教会のいちばん大きなステークの会^{あつ}長を務めました。彼は、最も信仰の篤い聖徒をも試す心痛と試練を経験しましたが、主とその教会への献身を放棄することはありませんでした。

1999年にBYUのディポーショナルでピンクレー大管長はこう回想しています。「3世代の先祖は教会に忠実でした。〔彼らの〕生涯を思い起こしながら……；わたしは自分の娘、そして孫に当たるその娘、ひ孫に当たるその子供たちについて考えました。そのとき、わたしは自分がその7世代の真ん中に立っていることに気づいたのです。わたしの前に3世代、わたしの後ろに3世代です。……そして、先祖から受け継いだものすべてを後に続く世代に引き継ぐという、わたしのとてつもなく大きな義務を実感しました。」¹

父の後に続く世代の一部であるわたしたちは、父と母が、先祖とわたしたちをつなぐ強いつなぎ手となってくれたことに感謝しています。両親はわたしたちを愛し、教え、正してくれました。そしてわたしたちのために、またわたしたちとともに笑い、祈ってくれました。両親を誇りに思います。そして次の世代に、救い主とその教会に完全に献身するという思いを引き継ぐことを固く誓います。

しかし、これはわたしたち5人の子供、25人の孫、63人のひ孫という小さな家族に限ったことではありません。なぜなら、ピンクレー大管長がよくわた



ゴードン・B・ピンクレー大管長の^{ひつぎ}棺が運び込まれる中、
カンファレンスセンターの入口通路の両側に並ぶ十二使徒定員会会員と中央幹部

したちに言っていたように、わたしたちは皆一つの大きな家族だからです。約1,300万人の人が同じ信仰という受け継ぎを持ち、父なる神とその御子イエス・キリストとの聖約による関係を楽しむ、わたしたちが進む道において助け合うという責任を負っているのです。

父は愛すべき人でした。目を見張るほど驚嘆すべき人でした。自制心があり勇敢で、仕事に対して並外れた能力を発揮し、物事の発展を信じていました。好きな聖句の一つはこれでした。「神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」（教義と聖約50：24）このとどまることのない発展は、自分自身の生涯の物語と同様、父が好んで語った末日聖徒イエス・キリスト教会の物語でした。そのような発展には、主の恵み^{みで}深い御手とともに、信仰、勇気、自制心、そして勤勉さが必要なのです。

父の人生の絶頂期であるこの4年間ほど、この発展の様子が力強くわたしたち家族の目に映ったことはありませんでした。母の死後、父の悲しみは計り知れないものでした。その性格を物

語るように、父は死を認め、感じ、涙を流し、深く嘆き悲しみました。涙のうちに主を頼ったため、この別れによって父は、よりいっそう慈悲深くなり、信仰と主への信頼が深まりました。そして慈悲深さと信仰を増し加えた父は、その言葉が持つあらゆる意味において、靴を履き、仕事に戻ったのです。

2年後、父は癌^{がん}と診断されると、また同じことを繰り返しました。父はだれもがするように、健康を損なったことを嘆き、母親や兄弟、二人の姉妹の命を奪ったその病気への恐怖を感じました。自分の命が主の御手の内にあることを知り、多くの方々^たの祈りの力を感じた父は、自分の務めを果たす必要があると感じたと言っていました。そして医療に携わる友人たちのすばらしい助けがあり、父は勇気とユーモアをもって、そのようにしたのです。結果、その後2年も生きることができ、毎朝起きて、靴を履き、仕事に出て行きました。

亡くなるちょうど1週間前に、父はソルトレーク・シティーにある改装された礼拝堂の奉獻の祈りをささげました。父はその祈りの中で、いつもとは非常に異なった方法で、預言者である自身

のことを主に嘆願しました。父は感謝を込めてこう祈りました。「ジョセフ・スミススミスの時代から現代まで、あなた様はこの民のために預言者を選び、任命してくださいました。わたしたちはあなた様に感謝し、あなた様が預言者を慰め、支え、預言者の必要とあなた様の偉大な目的に従って、預言者を祝福してくださいるようお願いいたします。」

父が安らかに亡くなったことが、主が父の必要と主の偉大な目的に従い、父の祈りを聞き、こたえてくださったことの証であると知っています。主は天で治めておられ、わたしたちが永遠に生きられるようその命をささげられました。その主であるわたしたちの贖あがない主、イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. "Keep the Chain Unbroken," *Brigham Young University 1999–2000 Speeches* (1999年), 2. www.speeches.byu.edu.

預言者たちは 奇跡の人たちなのです

管理ビショップリック H・デビッド・バートン

兄あに弟姉妹の皆さん、おはようございます。ピアス姉妹が優しく、父親である大管長について語ってくれたとき、わたしは2004年10月総大会での大管長の次の言葉を思い出していました。「父親として、わたしは娘より息子の方を大事にしているのでしょうか。そうではありません。もしわたしが少しでも均衡きんこうを欠いているのなら、それは娘たちをもっとかわいがっているからです。前にも言いましたが、男性は年を取ったら、娘をそばに置くべきです。娘たちはとても親切で善良で思いやりがあります。息子たちは有能で賢明だと言えます。娘たちはよく気がつき、親切です。ですから『わたしの杯さかずきはあふれます。』(詩篇23:5) (『人生で出会う女性たち』『リアホナ』2004年11月号, 85)

ピアス姉妹、そしてそのきょうだいや孫の皆さんの存在そのものが、誇るに足る愛に満ちたご両親が地上で成し遂げた業の最たるものと言えるでしょう。ご遺族の皆さんに主の憐れみあはれが降り注がれますように。

ヒンクレー大管長死去の連絡を受け、心の準備ができていなかったわたしは、暗い部屋で立ちつくし、悲しみの涙を流しました。しかし、まもなくそれは感謝の熱い涙へと変わりました。皆さんの多くが同じような感情の起伏をたどられたことと思います。

教会の若人はヒンクレー大管長に対して強い親近感を抱いています。ヒンクレー大管長は、「彼らの」これまでの人生の大半の時期を「彼らの」預言者として務めました。「彼らの」仲間言葉を借りれば、ヒンクレー大管長は「最高の人」でした。大管長は若人とながっていません。大管長のおかげで、若人は「あと少し、より良い人となる」「最善を尽くす」「バーを高くする」という言葉の意味を知っています。また、「6つのB」とは「感謝し、知性を備え、清く、誠実で、謙遜で、よく祈る人になる」という意味だと理解しています。

ヒンクレー大管長死去の数分後には、何十万人もの若人の間でメールが世界中を飛び交いました。悲しみと喪失感を伝え合うためです。大管長への敬愛のしるしとして学校に正装して登校しようという提案もありました。愛する若人の皆さん、ありがとうございます。皆さんは、愛する預言者をたたえ、賛美する方法を率先して示してくださいました。

エッジリービショップ、マクマリンビショップとわたしは、愛する預言者とその誠実な顧問たちから、毎週教えを受けてきました。ハンター大管長が亡くなったという知らせをヒンクレー大管長が受けたとき、わたしたちはその場に居合わせました。その発表がなされたときのヒンクレー大管長の表情に注

目しました。前任使徒の^{がいと}外套が大管長の肩の上にとっかりと置かれたのを感じました。靈感された多くの試みを、「実行に移す」という特権にあずかってきました。ヒンクレー大管長、あなたの愛と確信と指導、そして靈感に感謝しています。

メディアはヒンクレー大管長の足跡と業績の数々を採り上げてきました。末日の各預言者は独自の受け継ぎを残してくれたようです。マッケイ大管長について考えると、家族についての教えと愛するエマ・レイ夫人への大きな愛について思い浮かびます。スミス大管長に関しては、教義と福音の知識が即座に頭に浮かびます。リー大管長はわたしにとっては哀れみの模範であり、コーリレーションの原則の体現者でした。キンボール大管長と言えば、悔い改めと、すべてのふさわしい男性への神権の授与です。ベンソン大管長については、「高ぶりを心しなさい」という警告と、モルモン書を研究するようにと

いう勧告が思い出されます。ハンター大管長は、神殿参入へのふさわしさを強調されました。そしてヒンクレー大管長はと言えば、あまりに多くの意義深い業績があります。恐らく、時の流れとともに、それらの業績は整理されてわたしたち一人一人の心にとどめられることでしょう。

ヒンクレー大管長の管理の下で開かれた最後の方の集会の一つは、永代教育基金の管理委員会でした。基金の状況が検討されたとき、ヒンクレー大管長は声を大きくしてこう言いました。「驚くべきことですね。」そして少し間を空けてこう言ったのです。「まさに奇跡です。」ヒンクレー大管長は奇跡の人でした。開発途上国における貧困の悪循環を打開することは、人々がイエス・キリストの福音に完全に従い、それに付随する祝福にあずかるうえできわめて重要であることを、大管長は知っていました。これから地上に生を受ける幾世代もの人々が、この受け継ぎに

よって祝福されることでしょう。

ヒンクレー大管長の執務室で開かれた集会は、デビッド・B・ヘイト長老とヒンクレー大管長の間で議題の間に交わされる思い出話によって活気づけられていました。これらの90歳を超えた年輩の方々は、「あのときのこと、覚えていますか」といったやりとりを繰り返していました。

幾つかの思い出を話した後で、ヘイト長老がこう尋ねました。「大管長が奉献した神殿、または奉獻式や再奉獻式に出席した神殿は幾つありますか。」ヒンクレー大管長は、当時47あった、儀式執行可能な神殿の一つ一つを挙げ始めました。わたしの記憶では、確か47のうち30の神殿の奉獻に携わったとのことでした。そして大管長はこう言ったのです。「100番目の神殿が完成し、奉獻されるときに生きながらえていたいものですね。」後に、大管長は神殿の中でこの言葉を幹部の兄弟たちに繰り返しました。間もなく大管長の願いは、儀式執行可能な神殿を来世紀の初め、すなわち2001年1月までに100にする、というものとなりました。それにこたえて、1998年には51の神殿で儀式が執行されるようになりました。1999年には15の神殿が奉獻され、2000年には、100番目となったボストン神殿を含めて、34の神殿が奉獻されました。そして、今月下旬には、125番目の神殿がアイダホ州レックスバーグで奉獻されようとしています。これは奇跡でしょうか。わたしはそう思います。預言者たちは奇跡の人たちなのです。

1997年7月24日、ヒンクレー大管長はこのカンファレンスセンターの^{くわい}鍬入れ式を行いました。1998年10月の総大会では、この建物について次のように語っています。「この建物の第一の機

1月31日と2月1日に行われたヒンクレー大管長のビューイング(対面)に出席するため、カンファレンスセンターの外で列に並ぶ会員と一般来賓





能は礼拝の家としてのものですが、芸術の家としても使用されます。コンサートをはじめ、人の心を高揚し霊的に高めてくれる健全な公共の行事も行われることとなります。……それは、ちょうどその季節に誕生日をお迎えになる主へのささげ物となることでしょう。」「(『ようこそ、総大会に』『リアホナ』1999年1月号, 4)

建設計画が進むにつれて、管理ビショップリックはヒンクレイ大管長の詳細なビジョンを尋ねていきました。外壁には、リトル・コットンウッドの花崗岩かこうがんを用いてほしいとのことでした。昔、ブリガム・ヤングはリトル・コットンウッドの花崗岩のことを、ロッキー山脈で採れる最高の建材であると述べています。しかし、この花崗岩を切り出すに当たっては、障害が立ちはだかりました。わたしは大管長に別の石を用いることに同意してもらえないか打診しました。すると、「わたしたちが祈りを込めて根気強く求めるなら必ず道は開かれます」と、丁寧に、しかしながら、きっぱりと告げられました。結局、そのとおりになりました。大管長のビジョンの記念碑的な受け継ぎとして、この建物は長く建ち続けることでしょう。

ヒンクレイ大管長は地域社会との交流にも努めました。クエスター社の最高経営責任者キース・ラティー氏は、今週こう書いています。「数年前、地元の商工会はヒンクレイ大管長を『我が街の巨人』として表彰した。しかし、ヒンクレイ大管長は真の意味でそれをはるかに超越した人物であった。彼は、世界の巨人だったのだ。」ソルトレーク議会のレーン・ビーティー議長は、こう述べています。「奉仕に傾けるヒンクレイ氏の活力、人生への愛、善行への決意は、わたしたちを高め、世界の向上に寄与しました。」ヒンクレイ大管長は巨人、まさに大なる預言者でした。

わたしたちはこの預言者について何を心にとどめるでしょうか。何が永続する受け継ぎとなるのでしょうか。心にとどめるべきことや列挙すべき業績は多くありますが、わたしは大管長の使徒、預言者、聖見者、啓示者としての献身的で忠実な50年近い奉仕を心にとどめることでしょう。大管長は、人の住む全大陸でキリストについて証あかししました。小さな街でも、大都市でも、ハイパークの演説台の上からも、大きな放送局のネットワークを介しても証しました。貧しい人や疲れ果てている人

に希望を与え、隣人にもう少し手を差し伸べる必要のある人々に勧告を与えてきました。

今日の開会の賛美歌は、伝道地で同僚として働いた二人の青年たちによって書かれた曲です。二人は後に中央幹部として働きました。G・ホーマー・ダラム長老が作曲し、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長が作詞しました。歌詞にはヒンクレイ大管長の強く雄々しい証が表現されています。

贖あがないの主、神
生きて、われ恵む
苦しみと死とに、
勝利せし王よ

主はわれらの岩、
輝く望みよ
善よき道を照らす、
永遠とこのかなたへと

みたまをそそぎて、
平和授けたまえ
行く道みち細くも、
神、われ導く
(『贖あがないの主』『賛美歌』73番)

兄弟姉妹、わたしたち皆が大管長のよく述べた次の勧告に従うことができますように。「最善を果たし、最高の自分になりましょう。」「あと少し、より良い人になりましょう。」ご遺族の皆様、静粛な思いを込めて申し上げます。皆さんの父親をわたしたち会員のために分かち合うという犠牲にこれまでよく耐えてくださいました。心から感謝いたします。神の慰めと祝福が皆さんに注がれ、再び大管長と会える日までそれが続きますように。救い主、贖あがない主であるイエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

時の砂の上の足跡

七十人会長会

アール・C・ティンギー長老

ここで話していただける機会に感謝し、御霊みたまによってわたしの証あかしと言葉が皆さんの心に届くよう祈っています。

愛する預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長の生涯について思い巡らすとき、ヘンリー・ワーズワース・ロングフェローの次の詩が心に浮かびます。

偉大な人の人生が教えてくれた
われらも徳高い人生を送り
この世を去るときには、
時の砂の上に足跡を残せることを¹

今日は、ヒンクレー大管長が残した受け継ぎをたたえ、皆さんとともに大管長が残した「時の砂の上に残る足跡」について思いをはせたいと願っています。わたしがゴードン・B・ヒンクレー大管長の時代について話す間、皆さんの心に思い浮かぶ事柄について考えてください。この限られた時間の中で、わたしの印象に残っている大管長の多くの足跡の幾つかを紹介します。

ゴードン・B・ヒンクレーは偉大なコミュニケーターでした。各国のメディアに門戸を開き、世界中の聴衆に教会の姿を伝えました。70年以上前、伝道から帰還したばかりの大管長は、教会のメッセージを広めるために、映写機、動画、カラー写真、パンフレット、伝道用資料といった手法を使った最初の人

となりました。これらの技術は、進歩を続けながら今日も使われています。

ヒンクレー大管長の時代で記憶に残るのは世界中に広がる伝道の業です。ヒンクレー大管長の約13年にわたる任期の中で、40万を超える宣教師が召されました。教会の創設以来召されたすべての宣教師の4割以上がヒンクレー大管長によって召されたこととなります。現在の全教会員のほぼ3分の1が、ヒンクレー大管長が預言者になってからバプテスマを受けています。伝道活動を加速させ、改宗者の定着を図るという大管長からのチャレンジは、今でもわたしたちが達成すべき責任です。

恐らく、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の「時の砂の上に残る足跡」の中で最も目を引き、永遠に消えない足跡は、在任中におよそ75の新しい神殿を建設したことでしょう。これらの神殿で執り行われる儀式の一つ一つが、神殿をもっと人々の近くにもたらすという預言者の先見の明と知恵を証明しています。この偉大な受け継ぎに対し、わたしたちは個人として、また教会としてどれほど感謝していることでしょうか。ヒンクレー大管長の残した、偉大で、愛すべき「時の砂の上に残る足跡」はまだあります。それは心温まるユーモアのセンスです。大管長と交わり、話を聞いたことのある人ならだれでも、大管長の独特のユーモアのセンスを肌で感

じたことを覚えているでしょう。

何年か前、大管長が杖を使うようになったときのことです。朝7時ごろに教会執務ビルに着いたわたしはエレベーターに向かいました。すると、ヒンクレー大管長が警備担当者とともにエレベーターの方に歩いて来るのが見えました。わたしはボタンを押し、エレベーターのドアが開くと、中に入ってドアを開けたままにしました。杖の音とともにヒンクレー大管長が近づいて来ます。ドアの所まで来ると、大管長はわたしを見て、足を止めずに言いました。「アール、エレベーターで行きなさい。わたしは階段で行くから。」ドアが閉まってから、わたしは大変なことをしてしまったと感じ、身の縮む思いでした。わたしが自分の階まで楽々と上がっているころ、主の預言者は執務室を目指して階段を登っていたのです。

別の折、濃い色のスーツに、白いシャツに地味なネクタイをした中央幹部たちが大管長会との集会に入ってきました。すると大管長は目を輝かせ、ほほえみながらこう言ったのです。「皆さん、ペンギンの群れのようなですね。」

わたしたちは、大管長のユーモアが大好きでした。

ヒンクレー大管長は真の文化人でした。多くの事柄に興味を示し、様々な分野で専門的な知識を持っていました。ヒンクレー大管長の残した受け継ぎの一つであるこのカンファレンスセンターが建設され、教会の建物の中で、規模も質もさらに優れた音楽と舞台を楽しめるようになりました。ここでの文化行事を通して、わたしたちは人生をより良いものとする事ができています。

ヒンクレー大管長の残した受け継ぎの中でも影響力が大きく、「時の砂の上に残る足跡」と呼ぶにふさわしいものの一つは教会教育です。教育と学習者



カンファレンスセンターで行われたビューイング(対面)で ヒンクレー大管長に別れを告げる弔問客

に対する大管長の愛情は、壮大なブリガム・ヤング大学や、BYUアイダホ校、BYUハワイ校、LDSビジネスカレッジ、セミナーおよびインスティテュートの拡大を見れば明白です。7年前の永代教育基金の設立により、教会教育という受け継ぎはより実り多いものとなりました。世界の多くの国々で、教育という素晴らしい機会を通して生活を向上させている学生数は約3万人に上ります。

ヒンクレー大管長は、七十人定員会を教会における管理定員会として決めました。このことはあまり知られていませんが、教会の運営において非常に重要な出来事でした。定員会の数を増やし、七十人の数を4倍にしたことで、発展を続ける教会を効率よく運営できるようになり、十二使徒が「福音を宣べ伝え、福音を施すために、様々な召しを果たすに当たって助けを必要とするときには、ほかの人々ではなく、七十人に要請[する]」² という聖文にある義務を果たせるようになりました。

最も個人的で、記憶に長くとどまるであろうヒンクレー大管長の「足跡」は人々への愛かもしれません。この葬儀には世界中で膨大な数の人々が参加していますが、恐らくその一人一人に、ヒンクレー大管長にまつわる特別な思い出があることでしょう。皆さんの心の中にある大管長への思いの幾分かでも、わたしがここで代弁できれば幸いです。

初等協会の子供たち、青少年、ヤングアダルト、会員、友人の皆さん一人一人を代表して申し上げます。ヒンクレー大管長、ありがとうございます。主への奉仕の人生を勇敢に歩まれたことに感謝します。誠実さと固い信念の模範に感謝します。大管長の知恵と判断力に感謝します。大管長の説教、著述、靈感あふれる勧告に感謝しています。

預言者ジョセフ・スミスの召しに対する揺るぎない証に感謝します。天の御父について、また霊の息子娘であるわたしたちと御父との関係について証

し、教えてくださったことに感謝します。イエス・キリストについての証に感謝します。

大管長が残してくださった「時の砂の上に残る足跡」に感謝します。わたしたちを愛してくださったことに感謝します。大管長のおかげでわたしたちはより善い者となりました。ヒンクレー大管長のご家族にも、すばらしい父親、祖父をわたしたちに分かち合ってください、感謝を申し上げます。

愛するヒンクレー大管長、説教壇で老いていかれる姿を拝見しましたが、今は愛する永遠の伴侶のマージョリー姉妹、そのほかの家族、歴代の教会指導者との再会を果たしておられることでしょう。

ヒンクレー大管長、わたしたちはあなたを愛しています。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. "A Psalm of Life," ジョン・バーレット編 *Familiar Quotations* (1968年), 620に収録
2. 教義と聖約107:38

この穏やかな預言者

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー会長

ゴードン・B・ヒンクレーに初めて会ったのは、50年以上前のことです。大管長が十二使徒定員会の会員として支持を受けたその同じ大会で、わたしは十二使徒補助として召されました。

十二使徒補助に支持されたとき、大管長は説教壇で次のように述べました。「わたしは自分だけでこの道を歩んできたのではないことを知っています。今日ここにいる多くの偉大で善良な方々と、……名前を思い出すことはできませんが、これまでに助けてくださった多くのすばらしい方々に、とても感謝しています。」(Conference Report, 1958年4月, 123)

ゴードン・B・ヒンクレーが初めて教会本部に姿を現したのは、イギリスでの伝道から帰還する途中でのことでした。伝道部会長から、大管長会、すなわちヒーバー・J・グラント大管長、J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長、デビッド・O・マッケイ管長に報告するように言われていたのです。15分のはずの面会は、1時間以上に及びました。そして新しい教会伝道文献委員会の秘書として働くように言われました。

ゴードンは自分でどこかに空いている事務所を見つけなければなりません。事務用品店を経営する父親を持つ友人が、古い、そった机をくれました。脚の1本は短く、下に角材を敷

きました。そして自宅から自分のタイプライターを持って来ました。

備品室に一束の紙を取りに行くと、次のように尋ねられました。「一束に紙が何枚入っているか、分かっているのですか。」

彼は答えました。「はい、500枚です。」
「一体、紙を500枚もどうしようというのですか。」

ゴードンは答えました。「1枚ずつ書いていくつもりです。」

大管長は決して書くのをやめませんでした。長年、わたしはヒンクレー大管長と毎週ミーティングを行って来ました。大管長はよく机で、自分の話を手書きで書いていました。

わたしの十二使徒補助としての最初の割り当ては、宣教師管理部でヒンクレー長老の補佐として働くことでした。

間もなく、ヒンクレー長老はヘンリー・D・モイル管長とともにヨーロッパの伝道部の視察に出かけました。そして戻ると、デュッセルドルフでかつてなかったほど、つらいことをしなければならなかったと話してくれました。

ヨーロッパでの最後の夜、モイル管長は宣教師たちを夕食に招待し、その中にヒンクレー長老の息子さんであるリチャードがいました。ヒンクレー長老はホテルで息子さんに別れを告げました。リチャードが同僚と寒くて暗い夜の中に歩いて行くのを見るのは、これ

までで最もつらいことだったと、涙を流しながら話してくれました。

ヒンクレー兄弟の並外れた知性と驚くべき記憶力は、すぐにはっきりと認めることができました。しかしわたしはもっと重要なものについて知るようになっていました。ゴードン・B・ヒンクレー長老の内にあるものを目にしていたのです。彼はいつでも物事を内に秘める人物で、人がその内面を目にするのはまれです。

ヒンクレー大管長の持つ、人と心を通わせる力をどのように表現しようか考えていたとき、以前「笑顔の明るいオランダ人」と呼ばれていた七十人のヤコブ・ディヤガー長老とともにパキスタンを旅行したときのことを思い出しました。案内してくれたのは、カラチの著名な銀行家の家族の出身である、旧友のスルマン・ハビブ氏でした。

ある日、スルマンは自分の農場を見せるために、町から田舎に連れて行ってくれました。途中、つるはしとシャベルで道路を建設している、貧しい身なりをした大勢の労働者の一団に出会いました。彼らはウルドゥー語という、ヤコブもわたしも一度も聞いたことのない言語を話していました。ところが車が止まったころには、ヤコブはもうドアの外で、労働者たちと交わっていました。

ヤコブをじっと見詰めていたスルマンは、わたしの方を向いて言いました。「あの人はウルドゥー語を話す人々と、わたしよりもうまく心を通わせることができますね。」そしてすぐ次のように付け加えました。「彼ならロバでも王様でも魅了することができるでしょう。」

スルマンがヤコブ・ディヤガーに見た、人と心を通わせ、人を魅了する力を、ゴードン・B・ヒンクレーも豊かに備えていました。

ある日、一人のイスラム教の聖職者



哀悼の意を表す参列者に対し、妻のジェーン姉妹とともにあいさつをする 七十人のリチャード・G・ヒンクレー長老

がわたしの事務所にやって来ました。モーラン視力センターで治療を受けるために、ソルトレーク・シティーにいたのです。そこで大管長会との会見を手配しました。アブドゥルラフマン・ワヒド博士は、ヒンクレー大管長とよく似た、機知に富んだユーモアのセンスの持ち主でした。ワヒド博士とともに、ハーバード大学でイスラム研究の教授をしているアルウィ・シハブ博士もいました。

その会見で、ワヒド博士は自分がインドネシアの大統領に立候補するよう要請を受けていることについて述べました。そして、「もしわたしが選ばれたなら、アルウィ・シハブが外務大臣になるでしょう」と語りました。

ヒンクレー大管長は、次のように言いました。「もしあなたが立候補して当選したら、ジャカルタに会いに行きましょう。」

博士は当選し、わたしたちはジャカルタを訪れて、ヒンクレー大管長は大統領官邸で晩餐会の主賓となったのでした。

ヒンクレー大管長の死に際して、わ

たしが受け取った最初の弔辞は、アルウィ・シハブ氏からのものでした。また昨日、元インドネシア大統領のワヒド氏から、非常に大きな花束が届きました。

わたしはこのヒンクレー大管長が持つ、人と心を通わせ、人を魅了する力は、兄弟愛と謙虚さであると思ってきました。ほこりっぽい道路にいる労働者たちとともにいるときも、大統領官邸の晩餐会でも、常にはっきりと見ることができました。

ヒンクレー大管長は、福音の教義を教えられて育ちました。大管長のルーツをたどると、ユタ州中部のコープフォートに行き着きます。そこは現在では復元されて、大管長の祖父が築いた当時の開拓者時代の姿になっています。

ヒンクレー大管長が歩んだ成長の過程の多くは、いつも多忙で、ついて行けないほどに動き回る大管長に対して忍耐強くあった、奥様のマージョリー・ペイ・ヒンクレーのおかげだと思います。例えば、ある晩大管長は翌朝海外に出かけるために荷造りをしていました。

マージョリーが尋ねました。「わたしも一緒にするのかしら。」

大管長は答えました。「今すぐ決める必要はないさ。」

だれもが知るべきであるように、大管長はイエス・キリストの教義が家族と同義語であることを知っていました。

末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長の職の継承は、驚くべき過程です。いつでも前任使徒が大管長になり、その次に前任の人物が十二使徒定員会の会長になります。啓示の中で述べられている真理と指示によって、兄弟たちは教会を管理します。どのような危機やどのような機会においても、聖文の中に指示と指導を見出すことができます。

その手順を知っている人は、だれも次の大管長になる人物を憶測することがありません。いつでもこの規範に従って行われてきました。職を得たいと望むこともなく、主の御心みこころを避けることもありません。

ゴードン・B・ヒンクレーは、与えられた様々な召しや割り当てを自分から求めたことはなく、辞退したこともありませんでした。

初期の啓示の中で、主は「すべての人が主なる神、すなわち世の救い主の名によって語」り(教義と聖約1:20)、また「世の弱い者たちが出て来て、力ある強い者たちを打ち破」る、と語っておられます(教義と聖約1:19)。

世界中で非常に急速に成長している教会にあって、わたしたちは教会のユニットを組織または再組織するために度々遠い場所を訪れます。時々、次のように尋ねられます。「一体どこで新しい指導者を見つけるつもりですか。」見つける必要はありません。ゴードン・B・ヒンクレーがそうであったように、すでにいるのです。主が彼らを用意されるのです。彼らは忠実に仕えており、

什分の一とささげ物によって、その特権を得るための犠牲を払っています。

バプテスマの後に受ける別の儀式によって、教会員は聖霊を授けられます。聖文には、聖霊は「あなたがたにすべてのことを教え、また……思い起させるであろう」(ヨハネ 14:26)と説明されています。聖霊は靈感を与えてくださる御方です。もし靈感に従って、また靈感を求めて生活するようになるなら、靈感はいつもそこにあるのです。

ヒンクレ大管長が最もよく理解していたものの一つは、家族という言葉です。大管長が大勢の会衆に向けて、個人に向けて、そして特に家族に向けて

語った説教や話や勧告の中には、家族に関する言葉を容易に見つけることができます。

わたしはゴードン・ビトナー・ヒンクレーとマージョリー・ペイ・ヒンクレーの家族に敬意を表します。彼らは理想と言えるでしょう。彼らはその父親のように、控え目です。大管長がその卓越したところを誇らなかつたように、彼らは自分たちが受けてきたものを誇ることはありません。

ここからそれほど遠くない所にある墓地に「マージョリー・ペイ・ヒンクレー」と刻まれた墓石があり、その名前の横には「ゴードン・ビトナー・ヒンクレー」の

名前があります。

マリヤがイエスの墓に近づいたとき、天使が次のように言いました。「もうここにはおられない。……よみがえられたのである。」(マタイ 28:6。マルコ 16:6;ルカ 24:6も参照。)

やがて、ゴードン・ビトナーとマージョリー・ペイ・ヒンクレーについて言われるでしょう。「もうここにはいない。よみがえって、ともにいるのである。」

この穏やかな預言者とその永遠の伴侶、そして彼が管理した神聖な業についての記憶を、御父が祝福してくださいませように。イエス・キリストの聖なる御名により祈ります。アーメン。■

万事うまくいきますよ

大管長会第二顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

ヒンクレ大管長の死去に際して、わたしたち一人一人は心の中から何かを取り去られたように感じています。わたしたちは、大管長が話すときはいつも、大管長が救い主について力強く証をすることや、大管長からの愛を感じることを予期していました。そして、最も困難なチャレンジについて語るときでさえ、大管長がわたしたちをほほえませ、希望を与えてくれることを知っていました。

この数日間、わたしは大管長の声を思い出していました。その声をわたしは、教会が直面している難題をだれかが大管長に報告する度に何度も聞きました。そのような報告を聞くとき、大管長はたいてい2、3質問をしながらじ

くり耳を傾けました。それは、その問題の大きさをはっきり理解するためであり、報告者にも大管長が理解していることを示すためでした。そしていつも同じようにほほえみながら、静かこう言ったのです。「大丈夫、万事うまくいきますよ。」

大管長は楽観主義者でした。その楽観主義の幾分かは、大管長自身の卓越した能力から来ていました。多くの問題に大管長は自分自身で対処してきました。大管長の目には世界中に神殿を建設する方法が見えました。大管長は良い時も悪い時も什分の一を納めてきた忠実な聖徒たちを称賛しましたが、メキシコのコロナファレスからテキサス州のエルパソに戻って来る

途中で小規模神殿のデザインをスケッチしたのは、だれであろう大管長自身だったのです。そしてその小規模神殿は、現在世界中の人を祝福しています。

大管長こそ、多くの国の若者たちを貧困から抜け出させる方法を見ることができた本人なのです。その方法とは、若者たちが自ら選んだ訓練プログラムに参加し、大管長が永代教育基金と名付けた小額ローンを返済する能力を身に付けるというものです。何千もの人々が信仰を一つにして神の言葉を聞くこの美しいカンファレンスセンターを思いついたのも大管長自身でした。

以上は大管長の功績のごく一部であり、わたしには大管長の功績をすべて言い尽くすことはできません。しかし、大管長が達成してきた事柄には少なくとも一つの共通点があります。それは、常に人々に祝福となる機会を提供することでした。そして常に大管長が考えていたのは、福音の祝福にあずかる機会が最も少ない人々、すなわちどこにでもいるような、日常生活の困難に何とか対処している人々や、イエス・キリ



2月2日の葬儀で、ヒンクレー大管長の棺がカンファレンスセンターに運び込まれる
と同時に立ち上がる参列者

ストの福音に従うために苦闘している人々のことでした。大管長に何か提案した際に、大管長がわたしの胸を軽くたたきながら「ハル、苦しんでいる人々のことを考慮しましたか」と言ったことが一度ならずありました。

大管長は今、かつて地上に生きた高潔な預言者たちとともに霊界にいます。大管長は確かに今、大管長から引き離されたわたしたちの悲しみや喪失感に気づいています。大管長はその晩年に、愛する人を失う心の痛みを経験しました。もし、わたしたちが今の悲しみを大管長に伝えるなら、おそらく大管長はじっくり耳を傾け、同情するような、それでいてわたしたちの口もとをほほえませてくれるような声で、こう言うだろうと思います。「大丈夫、万事うまくいきますよ。」

大管長にとっても、万事うまくいきました。大管長の楽観的な姿勢は、物事をうまくいかせる自分の能力への自信だけではなく、神の力が必要なところに注がれるという深い信仰からも来

ていました。大管長は、愛情深い天の御父が、家族を永遠に結ぶ道を備えてくださったことを知っていました。大管長はアイダホ州レックスバーグ神殿に参入するのを心待ちにしていました。明日がその奉獻式となるはずでした。大管長はいつも神殿の奉獻式を楽しみにしていました。大管長は、死別した愛する人と再び永遠に結ばれたいと望む人にとって、神殿がどのような意味を持つかを理解していました。物事は確かに万事うまくいきました。大管長は今、夢に見た女性であるマージョリーとともにいます。二人は栄光の内にあり、一つの家族の中であって永遠に伴侶となることでしょう。

大管長の楽観主義は、イエス・キリストと主の贖いの力への揺るぎない信仰から来ていました。大管長は救い主が復活されたことにより、全人類が復活することを確信していました。神と交わした神聖な聖約に忠実であるという選択をしさえすれば、わたしたちはみな永遠に家族として結ばれ、父な

る神とその愛される御子のみもとで永遠に生きられることを大管長は確信していました。

大管長は自分自身の人生の中で、そのような選択をした日について語りました。青年時代、イングランドでの伝道に落胆していた大管長に、父親から「自分を忘れて、御業に励みなさい」という内容の手紙が届きました。大管長はその日その手紙を受け取る前に、ウォルサム通り15番の部屋で、救い主の次の言葉を読んでいました。「自分の命を得ている者はそれを失い、わたしのために自分の命を失っている者は、それを得るであろう。」¹ 大管長はそれから上の階に行き、ひざまずいて祈り、最善を尽くすことを主に約束しました。ヒンクレー大管長は「そのとき以来、ずっとその約束を守り続けています」と語りました。

ヒンクレー大管長の最善は、わたしたちが主にささげられるものより、はるかに大きいかもしれませんが、神がわたしたちに求めておられるのは、ただ、わたしたちが最善を尽くすことだけなのです。ヒンクレー大管長は、わたしたちが自分の弱さについて感じている気持ちを理解していることでしょう。大管長はあるとき、自分の前を歩んだこの神権時代の預言者たちの写真を見詰めながら、静かにこう言いました。「彼らの写真を見て、自分のいる場所について考えると、ほんとうに自分は不十分であると感じます。」大管長はめったに感情を表さない人でした。けれども、そのとき大管長は泣きました。不安からではなく、感謝から泣いたのだと思います。大管長は救い主への奉仕のために持てるすべてをささげ、自身のすべてをささげました。救い主を信頼していた大管長は、全力を尽くせばそれで十分であることを理解してい

ました。心が信仰に満ちていたので、疑いや恐れが生じる余地はありませんでした。

神の力へのそのような確信のおかげで、主の教会は大管長自身が目にしたような発展を遂げてきました。大管長はだれよりも問題に気づいていました。それでも大管長は教会員に対し、何度も何度もこれほどの成功は見たことがないと言い、それを実証するデータを示しました。そして大管長は確信をもった声で「でもこれから最も良い時が訪れます」とよく言っていました。

彼の楽観主義は、青年時代の選択から来ています。つまり、信仰のゆえに、救い主と主の業に対して、持てるすべてをささげるといふ選択です。大管長は全生涯を通じて、最高の自分をささげることによって、福音を心の中心に据えることを選択しました。そのような選択は大管長に祝福をもたらしました。その祝福をわたしたちにも求めてほしいと、大管長は願っていました。大管長は万事うまくいくことをただ望んでいただけではありませんでした。大管長は知っていたのです。信仰をもって前進さえすれば、万事うまくいくに決まっていることを。大管長がそのことを知っていたがゆえに、大管長の人生が終わりに近づくにつれて、神が大管長と大管長の心に対して何をしてくださったのかをわたしは見えました。

モンソン管長とわたしは、ほんの数日前に大管長にあいさつしました。大管長は、ほほえみ、モンソン管長とわたしに手を伸ばしました。大管長はこう言いました。「ハル、元気かい。」わたしは短く「はい」と答えました。でも「今までにないほど元気です。そして、わたしはこれから最も良い時が訪れることを知っています。大管長の声を聞き、大管長の模範から学べる時代に

生きるという祝福を頂いたのですから」と答えておけばよかったと思います。

大管長の模範は、わたしが何を読むかさえ変えました。わたしは大管長が大学生のころ、ベンジャミン・ロランド・ルイスの生徒として、シェイクスピアを愛読するようになったことを知っていました。そこでわたしもシェイクスピアの全集を買いました。わたしは大管長にシェイクスピアを読んでいると伝えると、大管長から「どうやって時間を見つけているんだい。」そして「今どこを読んでいるんだい」と聞かれました。わたしが「ヘンリー5世です」と答えると、「それは初心者にはいい作品だ」と「初心者」という言葉を強調しながら言いました。わたしは、全集を読破するにはまだ先が長いことを痛感しました。

大管長の勇気の模範と、ヘンリー5世の読書を通して、わたしは天の御父の子供たちに仕えることについて大管長が何年も前に教えようとしていたことが理解できました。当時わたしは、セミナーで学ぶ全世界の若人に福音を教える責任を受けたばかりでした。大管長は人差し指でわたしの胸を軽くたたきながら言いました。「ハル、福音を生徒の心の中心に据えるという働きを改善してくれないか。」

大管長は自分と同じように若人が福音を心の中心に据えないかぎり、永遠の命を得るために十分な強さと勇気が得られないことを知っていました。大管長は若人を愛していました。大管長は若人の弱点と、若人が直面するであろう反対の力の激しさを知っていました。そして、シェイクスピアがヘンリー王に語らせた言葉を知っていたはずです。ヘンリー王は、圧倒的に強い敵との戦いの前に、小さな部隊を率いてこう言いました。

ああ、戦^{いくさ}の神よ！ 兵士たちの心を
鋼^{はがね}のごとく鍛えたまえ、彼らに
恐怖心を植えつけたりなさらず、万
敵兵の数が彼らの勇気を失わせる
とすれば、彼らの計算する能力を
ただちにとり除きたまえ。²

ヒンクレー大管長は、民が福音を心の中心に据えることを選択するなら、神がわたしたち全員を鋼のように強めてくださることを知っていました。そして大管長は、その選択をするためには、自分自身のすべてと自分の持てるもののすべてを奉獻して、主に従う必要があることを知っていました。大管長は、その選択は早いうちに、青少年の時代にすることが最善であることを知っていました。なぜなら、わたしたちがイエス・キリストの贖いによって心の変化を経験する資格を得るためには、何年もかかるかもしれないからです。

世界中のすべての会員を代表して、このような預言者、このような教師、このような父親そして祖父、そしてこのような友人を得たことに感謝の意を表します。大管長はイエス・キリストの真の証人であり、神の預言者でした。大管長の影響と模範のおかげで、わたしたちはより善い者になりました。そして、大管長がそうしたように、わたしたちもイエス・キリストの福音を心の中心に据えるなら、これから最も良い時が訪れるのです。イエス・キリストの御名^{みな}により、アーメン。■

注

1. マタイ 10:39
2. 『シェイクスピア全集III』(小田島雄志訳、白水社、1986年)「ヘンリー五世」第4幕、第1場、199

神よ、また逢うまで^あ

大管長会第一顧問
トーマス・S・モンソン管長

愛する兄弟姉妹、そしてヒンクレー大管長のご家族の皆さん、わたしは愛する友であり、同僚であったゴードン・B・ヒンクレー大管長への弔辞を述べる特権を心から光榮に思います。

ある詩人はこう書きました。

ここ、かしこに、また過去にも、現在にも
神は、人の間に大いなる人をつくれる

ヒンクレー大管長はまさに大いなる

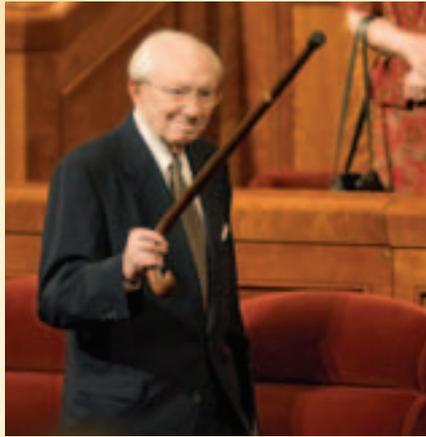
人でした。知識と信仰、愛、証、哀れみ、ビジョンにおいて大いなる人でした。大管長が亡くなってどれだけ寂しいか十分にお伝えすることはできません。大管長とわたしが知り合いでなかったころのことを思い出すのは困難です。わたしたちは中央幹部に召されるはるか前から互いに友達同士だったのです。そして十二使徒定員会および大管長会で44年以上にわたって寄り添って奉仕してきました。わたしたちは長年にわたって、心痛と幸福、悲しみと喜びを分かち合ってきました。大管長が日曜日に亡くなってからというもの、二人がこれまでに共有した数え切れない経験を振り返ってきました。その中から幾つかをご紹介します。

1964年5月、わたしたちはともに、ユタ州ガニソンステークで割り当てを受けました。土曜日の最初の集会の前、わたしはヒンクレー長老のシャツの袖が、カフスポタンの代わりに紙用のクリップで留められていることに気づきました。わたしは彼に、「いいカフスポタンをしているね」と言いました。彼は笑いながら、「カフスポタンを持って来るのを忘れたんだ」と言いました。わたしは、良きボーイスカウト人としてこう言いました。「わたしは予備としてもう1セット持って来ているので、よかったら使ってくださいませんか。」そしてそのようにしました。



60年代の半ばにこういうこともありました。モンソン姉妹とわたしはスペンサー・W・キンボール長老夫妻とともにヒンクレー家の夕食に招待されました。その晩、ドアベルが鳴りました。開けてみるとヒンクレー家のホームティーチャーが同僚を連れずにそこに立っていたのです。彼は招かれてリビングのソファに腰を下ろしました。わたしたちは皆座って、ホームティーチャーが家族の祈りや家族の聖文研究、家庭の夕べ、個人の聖文研究をどのように行っているか、二人を質問攻めにするのを見ていました。ヒンクレー夫妻が一つの質問に答えると、ホームティーチャーがまた次の質問を矢継ぎ早に投げかけるという具合でした。もちろん、すべては温厚な雰囲気の下で行われ、そのホームティーチャーが自分の務めを真剣にとらえていたことは明らかでした。

この数年間、わたしたちはヒンクレー大管長が自分の杖を持って歩いて来て、カンファレンスセンターの自分の席に着く様子を楽しんで見守ってきました。群衆に向かって杖を振ったり、杖でだれかの肩をぼんとたたいたりするのを見ました。ヒンクレー大管長とわたしは長年にわたって同じ医師から診察を受けていました。2、3年前に診察を受けたとき、その医師はわたしにこう言いました。「少しお願いがあるのですが。ヒンクレー大管長は、歩くときに杖を使う必要があります。その方が歩行を安定させることができるからです。ヒンクレー大管長に転んで腰の骨を折ったり、体調を悪くしたりしてもらいたくないのです。でもヒンクレー大管長は、それを振り回したりして、歩くときに使おうとしません。大管長に、『杖は医師により処方されたものであり、本来の目的で使っていただく



2001年4月の総大会で杖を使わなければならなくなったことについて、初めて冗談を言うヒンクレー大管長。葬儀の話者として、トーマス・S・モンソン管長は、ヒンクレー大管長が会員によく杖を振ってあいざつしていたことに触れた。

必要がある』と言ってもらえませんか。』

わたしは医師の要望に耳を傾けたあとで、こう答えました。「ドクター、わたしはヒンクレー大管長の顧問です。彼の医師はあなたです。あなたが言うてくださいますよ。」

もう一つだけ、経験を紹介させてください。ささやかながらも、深く感動した行いです。毎週木曜日、大管長会と十二使徒定員会の会員は、神殿で会合を持っています。わたしたちは教会本部の地下駐車場から神殿まで続く地下道をカートで移動していました。ある寒い冬の月のことでした。ヒンクレー大管長はカートに乗っているこの短い時間に、いつもコートと帽子を着用していました。わたしたちのカートがメインストリートの下を通過しようとしたとき、ヒンクレー大管長はわたしたちが道路の下から神殿の敷地内に入ったことに気づき、何も言わずに自分の帽子をそっと脱いで膝の上に置きました。自分が神殿の敷地内にいることを直感的に分かったようでした。それは、主の宮に対する敬虔と尊敬の

ささやかながらも深遠な表現でした。そしてそれがわたしの心に深い感動を与えました。

皆さんの多くは、イギリスの政治家であり著述家であったトマス・モア卿について学んだことを覚えているでしょう。自分の信念を確固として貫き通した人としても知られています。そして、「どんなときも変わらぬ人」と呼ばれていました。

問題が山積するこの時代にあって、天の御父はわたしたちのために「どんなときも変わらぬ人」を送ってくださいました。その名はゴードン・B・ヒンクレー大管長です。大管長は、わたしたちの預言者、聖見者、啓示者でした。嵐の海に浮かぶ穏やかな島のような人でした。遭難した船人にとっては灯台のような人でした。皆さんの友であり、わたしの友でした。世界の情勢がぎょっとするような状態のときも、大管長はわたしたちを慰め、落ち着かせてくれました。そして、天の御父のもとに戻れる道に一貫してわたしたちを導いてくれました。

ヒンクレー大管長に会いたいと思っているすべての人が彼のもとに行けるわけではなかったので、大管長は自分が旅行できるかぎり、世界中を巡って彼らに会いに行きました。大管長は民に心を向ける預言者でした。自分の周りに集まる子供たちをないがしろにするようなことはありませんでした。それらの尊い子供たちの両親を見ごしにすることもありませんでした。

ヒンクレー大管長はまさにわたしたちの時代の預言者でした。主については「ますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された。』¹ また、「神が共におられるので、よい働きをしながら、……巡回されました。」² と言われています。ヒンクレー大管長はよい働きをすることにその生涯をさげました。そして、確かに神がとも

におられました。

わずか1週間半前、ヒンクレー大管長はアイリング管長とわたしとともに大管長会を開きました。大管長の声は力強く、頭脳も明晰めいせいでした。自信と決断力に富んでいました。しかし数日後、大管長は死の床にありました。大管長の周りには、最期の時にそばにいられるよう家族が集まっていました。アイリング管長とわたしは、土曜日と日曜日とも

クレー大管長とご家族とともにいる特権にあずかりました。日曜日にはボイド・K・パッカー長老も一緒でした。大管長宅を最後に訪ねた記憶を、わたしは生涯大切にしてください。それは、大管長が亡くなる前の短い時間でした。彼の家族と、その場にいた神権者すべてが加わって祝福をしました。それは別れを告げる神聖な時間でした。とぼりが非常に薄くなり、幕のかなたに大管長が

呼ばれていることがよく分かりました。

帰宅したとき、わたしはヒンクレー大管長が2003年9月の中央扶助協会集会で語った優しく感動的な話を思い出しました。そのときはまだ、マージョリー姉妹は健在でした。「66年間、わたしたちは手に手を取って、愛し合い、励まし合い、感謝し合い、尊敬し合いながら、歩みを共にしてきました。やがて二人のうちのどちらかが幕のかなたに旅立つことでしょう。残された方もすぐに天に召されるようにと願っています。わたしは、一人残された場合、どうやって生きていけばよいか分かりません。それは来世でも同じことです。妻もわたしなしではやっていけないと思っていていけばと願っています。」³

それから6か月たたないうちに、大管長の愛するマージョリー姉妹は「幕のかなたに旅立」ちました。ヒンクレー大管長は片時も奥さんのことを忘れたことがありませんでした。今ごろどんなにすばらしい栄えある再会をしていることでしょう。

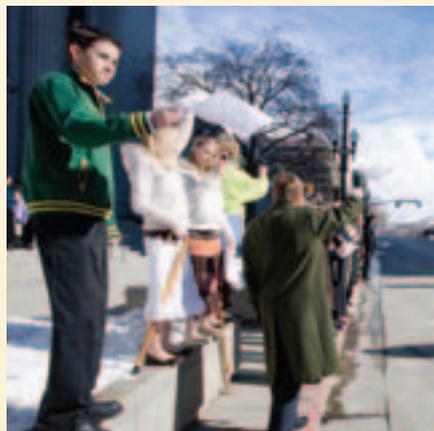
子供や孫、ひ孫の皆さん、覚えておいてください。ヒンクレー大管長は今も生きています。大管長は今、その影響力と証を待ち望んでいた幕のかなたの人々に対する天での召しを果たしているのです。皆さんに対する大管長の願いが、ヨハネの第三の手紙に記されています。「わたしの子供たちが真理のうちを歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない。」⁴

愛する兄弟姉妹の皆さん、ゴードン・B・ヒンクレー大管長についてわたしたちの記憶、大好きだった特質は、これからも受け継がれていきます。大管長の霊は、命を与えられた神のみもとへ連れ戻されました。わたしがこの美しい世界にいつか行くときは、このかけがえのない友はいつもわたしのそばに

下——カンファレンスセンターを間もなく出発する葬儀の列。

左下——墓地への経路に沿って立ち、杖と白いハンカチを振って葬列を見送る人々。

右下——ヒンクレー大管長が埋葬されるソルトレーク・シティ霊園に集ったヒンクレー家の人々。





人に死と呼ばれしもの、 そは何を意味せん

ゴードン・B・ヒンクレー大管長
(1910-2008年)

人に死と呼ばれしもの
闇の中、音もなく過ぎ行くもの
そは何を意味せん
そは終わりにあらず
より優れたる世界
より輝かしき光の訪れなり

おお神よ、わが痛む心に触れたまえ
絶え間なくわが心を乱す
この恐れを鎮めたまえ
人知を超ゆる汚れなき希望と信仰
により
わが悲しみに打ち勝つ力と
平安を与えたまえ
存在するは死にあらず
あるのは収めし勝利の報い
すなわち変化のみ

すべての者を愛されし御方
神の御子、聖者からの賜物なり



02285 300

いてくれることでしよう。

これまで何度も、ヒンクレー大管長はメッセージの一部として、大好きな次の賛美歌を用いました。皆さんもよく知っている曲です。

神よ、また逢うまで
汝れを守りませ
み手に抱きつつ
神よ、共に在ませ

神よ、また逢うまで
危うきときには
み腕に守りて
神よ、共に在ませ

神よ、また逢うまで
愛の旗掲げ
死の恐れを去り
神よ、共に在ませ

また逢う日まで
みもとに逢うまで
また逢う日まで
神よ、共に在ませ⁵

この賛美歌を引用した後、ある総大会で大管長が語った言葉を紹介します。そのとき語られたメッセージは、わたしたち全員への別れの言葉となりました。大管長はこう語りました。「『神よ、また逢うまで 汝れを守りませ。』愛する同胞の皆さん、わたしは、これらの簡潔な歌詞を、世界中の様々な場所で愛を込めて歌ってきました。』⁶「この賛美歌を人々が様々な言語で歌うときに、わたしは英語で歌ってきました。地球の全大陸で開かれた記憶すべき数々の集会で、これらの簡潔ですばらしい歌詞を声高らかに歌ってきました。宣教師たちに別れを告げるとき、目に涙を浮かべながら歌いました。……

戦争の〔時代〕には、戦闘服に身を包んだ男性たちとともに歌いました。幾多の場所と様々な環境の下で、数えられないほどの長い年月にわたって、歌い継がれてきたこの別れの歌を、実に大勢の人々とともに声を上げて歌ってきました。』⁷「神が愛する友である皆さんを祝福してくださいますように。」⁸兄弟姉妹、皆さん一人一人を代表して、わたしは愛するわたしたちの預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長に最後のお別れを申し上げます。ゴードン、「また逢う日まで 神よ、共に在ませ。」救い主、贖い主であるイエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。■

注

1. ルカ2:52
2. 使徒10:38
3. 「教会の女性たちへ」『リアホナ』2003年11月、115
4. 3ヨハネ1:4
5. 「神よ、また逢うまで」『賛美歌』85番
6. "Latter-day Saints in Very Deed," *Ensign*, 1997年11月号, 85
7. 「また逢うまで」『リアホナ』2002年1月号, 104
8. *Ensign*, 1997年11月号, 85

